

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ・キャリア教育	必修選択	必修	年次	1	担当教員	
	キャリアプログラムⅠ	授業形態	演習	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
専門学校を卒業後、花屋にて店長を務め、ウェディングブーケや結婚式場での装飾を行う。その後、専門学校のフラワーコース担任として10年勤務。							
【授業の学習内容】							
専門学生が社会人として必要なキャリア形成力と学生生活の心構えを身につける。							
【到達目標】							
自己理解、キャリア設計、コミュニケーション力、社会人基礎力を養う。							

回数	授業計画・内容	
1回目	自己紹介を行い、グループワークを通してお互いを知る。	
2回目	学校ルールの確認、心構えを知る。	
3回目	3年間で学ばべきことを知り、卒業後の自分をイメージする。	
4回目	各スタッフによる自己紹介を行う。	
5回目	自己理解と強み・弱みの分析を行う。	
6回目	価値観とライフプランの整理を行う。	
7回目	キャリアデザインの基本概念について学ぶ。	
8回目	業界研究と職種理解の方法について知る。	
9回目	履歴書・エントリーシートの作成を行う。	
10回目	ビジネスマナーと社会人基礎力を身に付ける。	
11回目	コミュニケーション力向上のためグループワークにて発表を行う。	
12回目	チームワークと協働の重要性を学ぶ。	
13回目	ストレスマネジメントと自己管理について学ぶ。	
14回目	時間管理と効率的学習法について知る。	
15回目	情報収集力とネットリテラシーについて学ぶ。	
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される	
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験:課題提出	
【使用教科書・教材・参考書】		

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ・キャリア教育	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	ウォーキングⅠ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
大学卒業後、株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。一般社団法人Cs'にてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。							
【授業の学習内容】							
「正しい姿勢・正しい歩き方」「立ち居振る舞い・所作」を学ぶ。外面を整えることは相手に対する思い遣りの気持ちを表すことであり、また見えない自分自身の心を整えるためでもあることを理解する。信頼感の与えられる人材を育てる。							
【到達目標】							
人前にでた際に自信を持って立ち居振る舞いが行えるよう、たたずまいを美しく綺麗に整えることができるようになる。 身だしなみを整えると言われるの中には「姿勢や歩き方・所作・表情」まで含まれることを理解しながら、360度どの角度から見られても印象の良い綺麗な立ち居振る舞いができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	講師自己紹介。学生自己紹介。なぜ「正しく立つ・歩く」「立ち居振る舞い」が大切かを「心×形の法則」と共に学び理解できるようになる。BEFORE写真として普段の姿勢を撮影。
2回目	正しい靴の履き方・脱ぎ方・姿勢作りのポイントを理解できるようになる。ウォーキングの前に動的ストレッチを行い、歩行に必要な筋肉の使い方を理解できるようになる。
3回目	姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし、膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・大殿筋意識するなど)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解しできるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
4回目	
5回目	
6回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングレッスンは下半身の意識するポイントから上半身の意識するポイント(腹筋の使い方・腕の正しい振り方・首の立て方・目線の置く位置)などをつけくわてて、トータル的に正しく美しい歩行ができるようになる。筋肉強化ウォーキングから通常ウォーキングへレベルアップをはかりできるようになる。
7回目	
8回目	途中経過として姿勢写真撮影を行い、折り返し時点での成長具合を確認。動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
9回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書は適時、配布/持ち物:スニーカー(紐靴)・動きやすい服装・飲み物	

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	ビジネスコンピューティングⅠ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	前期
	学科						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製菓会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ＆インクルーシブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー(情報を活用できる能力)を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。							
【到達目標】							
職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。 ITリテラシーを学び、安心・安全な環境を作り、ホスピタリティ業界でも大切なメールマナーなどを学ぶ。							
回数	授業計画・内容						
1回目	ITリテラシー						
2回目	Word① 入力練習・Word基礎(文字入力)・ビジネス文書作成・文書編集①						
3回目	Word② 入力練習・文書作成・編集②（効率的な編集方法を知り、手早く文書作成が出来るようになる）						
4回目	Word③ 入力練習・表の作成①（表を作成することにより、文書の可視化が出来るようになる）						
5回目	Word④ 入力練習・印刷・図形(地図)（ペーパーロスのない印刷方法や図形描写に慣れ、印刷が出来るようになる）						
6回目	Word⑤ 入力練習・便利な機能（検索、置換機能などを知り、効率的な文書編集が出来るようになる）						
7回目	Word⑥ 入力練習・ビジュアルな文書作成（ワードアートや画像の利用により可視化された文書を作れるようになる）						
8回目	Word⑦ 入力練習・演習問題（演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる。どんな文書も作れるようになる）						
9回目	Word⑧ 入力練習・演習問題（演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる。どんな文書も作れるようになる）						
10回目	Word⑨ 入力練習・演習問題（演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる。どんな文書も作れるようになる）						
11回目	Word⑩ 入力練習・演習問題（演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる。どんな文書も作れるようになる）						
12回目	PowerPoint① PowerPointの基本(プレゼンテーションを知る。スライド作りが出来るようになる）						
13回目	PowerPoint② 図形やイラスト・画像の挿入(著作権について知り、コンプライアンスを学ぶ。効率のよい美しいスライド作りが出来るようになる）						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
PC							

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	コミュニケーションスキルアップ検定	授業 形態	講義	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
国家資格キャリアコンサルタント。自己分析・他者理解・相互理解による関係性構築力を目的とした能力開発のための研修やセミナーを行う。自分らしさを仕事に活かすことを目的とした就活生のための自己分析シート作成セミナーを実施している。人間関係促進ツールのためのカラータイプ®理論をテーマに日本マーケティング学会に共論文3本あり。							
【授業の学習内容】							
良好な人間関係や信頼関係に欠かせないビジネスマナー。ビジネスシーンに必要な基本的マナーを学び、実社会で即戦力となる人材を育成するための授業。ロールプレイングや演習などの体験・体得からホスピタリティ業界で求められる信頼され、明るく魅力的な人間像を目指す授業。授業ごとに振り返りを行う。							
【到達目標】							
コミュニケーションスキルアップ検定の学びを通じて、1. 人間関係に必要な基本的なコミュニケーションスキルを理解ができる。2. 学んだコミュニケーションスキルを実践できるようにになる。3. コミュニケーションに必要なマナーやルールを身に付けることで、自信を持って発言・行動できるようにになる							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション						
2回目	コミュニケーションスキルアップ検定試験対策:コミュニケーションについて・基本的対話スキルが分かるようになる						
3回目	コミュニケーションスキルアップ検定:基本的対話スキルが分かるようになる						
4回目	コミュニケーションスキルアップ検定:自己表現スキル①が分かるようになる						
5回目	コミュニケーションスキルアップ検定:自己表現スキル②が分かるようになる						
6回目	コミュニケーションスキルアップ検定:社会的スキル①が分かるようになる						
7回目	コミュニケーションスキルアップ検定:社会的スキル②が分かるようになる						
8回目	コミュニケーションスキルアップ検定:サービスマインド①が分かるようになる						
9回目	コミュニケーションスキルアップ検定:サービスマインド②が分かるようになる						
10回目	コミュニケーションスキルアップ検定:事例問題からサービスマインドが分かるようになる						
11回目	コミュニケーションスキルアップ検定:理解度チェック						
12回目	コミュニケーションスキルアップ検定:最終確認テスト実施						
13回目	コミュニケーションスキルアップ検定 実施日						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
スキルアップ検定テキスト							

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	マナー・プロトコール検定3級	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ＆インクルーシブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、グローバル化する社会で習得すべきプロトコール、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコールを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。							
【到達目標】							
・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」など目に見える「形」として表現できるようになる。 ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコール」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。 ・前期授業終了後に学内で実施するマナー・プロトコール検定3級にチャレンジし、合格する。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション:授業の目的、進め方等を理解できる。また、マナー・プロトコール検定2級の検定概要が理解できる						
2回目	第1章 マナーの歴史と意味:西洋のマナー、エチケットの成り立ち、アジアのマナーの特徴について説明できるようになる 確認テスト①:序章・第1章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 第2章 国際人としてのプロトコール:プロトコールの原則、具体的な席次例について説明できるようになる						
3回目	第2章 国際人としてのプロトコール:社交の場でのコミュニケーション(パーティの種類、パーティのマナー)、握手と紹介、外国人への贈り物について、説明できるようになる						
4回目	第2章 国際人としてのプロトコール:国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーションについて説明できるようになる 確認テスト②:第2章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 第3章 社会人に必要なマナー:好印象を与えるコミュニケーションとは(第一印象・挨拶・お辞儀・表情・身だしなみ・立ち居振る舞い)について説明できるようになる						
5回目	第3章 社会人に必要なマナー:好印象を与えるコミュニケーションとは(言葉遣い・聴き方の基本・話し方の基本)、礼装の基準について説明できるようになる						
6回目	第3章 社会人に必要なマナー:喜ばれる贈答・手紙のマナーについて説明できるようになる 確認テスト③:第3章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 定期テスト①:序章～第3章を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる						
7回目	定期テスト①の振り返りを行うことで自身の現状を明確に把握できる 第4章 ビジネスシーンのマナー:ビジネスマナーの必要性、社会人としての心構え、名刺の扱い方、電話応対、トラブル対応、来客応対について説明できるようになる						
8回目	第4章 ビジネスシーンのマナー:ビジネス文書のマナーについて説明できるようになる 確認テスト④:第4章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 第5章 食事のマナー:食事の作法の基本、和食のマナー、和室の作法について説明できるようになる						
9回目	第5章 食事のマナー:、西洋料理のマナー、中国料理・各国料理のマナーについて説明できるようになる 確認テスト⑤:第5章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 定期テスト②:第4章～第5章を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる						
10回目	定期テスト②の振り返りを行うことで自身の現状を明確に把握できる 第7章 「冠」のしきたり:冠婚葬祭とは、日本の主な通過儀礼(人生の節目のしきたり、出産祝い、七五三のお祝い、入園・入学祝い、年祝い、その他のお祝い事)について説明できるようになる						
11回目	確認テスト⑥:第7章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 第8章 「婚」のしきたり:結婚の変遷、結婚式のマナー(挙式のスタイル、服装のルール、招待状のマナー、会場でのマナー)について説明できるようになる 第9章 「葬」のしきたり:仏式の葬儀、神式の葬儀、キリスト教式の葬儀について説明できるようになる						
12回目	第9章 「葬」のしきたり:葬儀・告別式でのマナー、法要のしきたりについて説明できるようになる 確認テスト⑦:第8・9章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 第10章 「祭」のしきたり:1～2月の行事について説明できるようになる						
13回目	第10章 「祭」のしきたり:3～12月の行事について説明できるようになる 確認テスト⑧:第10章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 定期テスト③:第7章～10章を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験:実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
マナー＆プロトコールの基礎知識、マナー・プロトコール検定2級・3級問題集、テスト等の講師配布資料							

授業シラバス

科目名	課題制作	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	マーケティングⅠ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
スタートアップ企業の立ち上げ、経営実務、マーケティング実務の経験を有する。現在はフリーランスとして主に企業への戦略立案支援、社会人・学生への思考系及びマーケティング系の研修講師を行う。							
【授業の学習内容】							
マーケティングの基礎知識やフレームワークを中心に学び、社会で活躍する上で大切なスキルである考える力を伸ばし、問題発見力・解決力、提案力を高める。授業では身近な事例を活用した知識習得や個人やグループでの実習を通して学習する。基礎知識習得後は2つの課題演習に取り組み、実務で使える知恵として習得する。							
【到達目標】							
習得したマーケティングの知識やフレームワークを駆使し、真の問題を見つけ出すと共にその解決案を導き出し、成果につながる企画の立案ができるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	【オリエンテーション】本クラスでマーケティングを学ぶ理由、授業の全体像、フレームワークの概略について理解し、受講の目的や意義を理解する。						
2回目	【論理思考の基本技法】演繹法・帰納法・認知バイアスを理解することで自分の頭で考えるコツを学び、基本的な論理思考ができるようになる。						
3回目	【広く深く考える基本技法】分解(分けて考える)の基本技法を習得し、物事を”広く深く”考えることができるようになる。						
4回目	【マーケティング基礎知識1】「マーケティングの全体像」と「モノの価値」を学び、マーケティング視点(提供者視点)の発想ができるようになる。						
5回目	【マーケティング基礎知識2】「顧客の構造」と「購買行動原理」を学び、マーケティング視点(顧客視点)の発想ができるようになる。						
6回目	【マーケティング演習1-1】カフェの企画。PEST,3C,SWOTフレームワークを用いて、内外部環境の調査・分析ができるようになる。						
7回目	【マーケティング演習1-2】カフェの企画。STPフレームワークを用いて、マーケティングの基本戦略が立案ができるようになる。						
8回目	【マーケティング演習1-3】カフェの企画。4Pフレームワークを用いて、具体的なマーケティング施策が立案できるようになる。						
9回目	【マーケティング演習2-1】ブライダル新サービスの企画。演習1で行った内外部環境の調査・分析をさらに深く考えられるようになる。						
10回目	【マーケティング演習2-2】ブライダル新サービスの企画。演習1で行ったマーケティングの基本戦略をさらに深く考えられるようになる。						
11回目	【マーケティング演習2-3】ブライダル新サービスの企画。演習1で行った具体的なマーケティング施策をさらに深く考えられるようになる。						
12回目	【プレゼンテーションの基本技法】自身の考えを整理して客観視する基本技法を習得し、成果につながる企画の立案及び伝達ができるようになる。						
13回目	【演習2プレゼンテーション】個人で立案したプランを発表し納得感のある伝え方ができるようになる。また他者の企画を聞くことで思考の幅を増やす。						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	業界研究	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	フォーマル検定	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
神戸・沖縄でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。							
【授業の学習内容】							
フォーマルウェアの歴史に触れ、国際社会および日本におけるフォーマルウェアのルールについて学ぶ。11月に実施される「フォーマルウェアスペシャリスト検定準2級(ブロンズライセンス)」の資格合格を目指します。							
【到達目標】							
フォーマルウェアのルール・マナーを身に付け説明することができる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	ガイダンス(講義内容の説明および検定試験について)・フォーマルとはについて語句の意味を理解することができるようになる。						
2回目	イギリス・日本のロイヤルファミリーの婚礼衣装について調査し、説明できるようになる。						
3回目	昼のフォーマルシーン①メンズ 正礼装について学び、説明することができるようになる。						
4回目	昼のフォーマルシーン②メンズ 準礼装・略礼装について学び、説明することができるようになる。						
5回目	昼のフォーマルシーン③レディース 正礼装・準礼装・略礼装について学び、説明することができるようになる。						
6回目	夜のフォーマルシーン①メンズ 正礼装について学び、説明することができるようになる。						
7回目	夜のフォーマルシーン②メンズ 準礼装・略礼装について学び、説明することができるようになる。						
8回目	夜のフォーマルシーン③レディース 正礼装・準礼装・略礼装について学び、説明することができるようになる。						
9回目	ブライダルフォーマルシーンについて学び、自分の結婚式の衣装について、提案することができるようになる。(個人ワーク)						
10回目	ブラックフォーマルシーンの正礼装・準礼装・略礼装について学び、説明することができるようになる。						
11回目	フォーマルウェア基礎知識総括① 昼のフォーマルシーンについてメンズ・レディースの正礼装・準礼装・略礼装について再確認し、検定対策の問題に取り組むことができる。						
12回目	フォーマルウェア基礎知識総括② 夜のフォーマルシーンについてメンズ・レディースの正礼装・準礼装・略礼装について再確認し、検定対策の問題に取り組むことができる。						
13回目	理解度チェック						
14回目	個人ワーク①実在する顧客・会場を想定し、ブライダルフォーマルウェアを提案することができるようになる。						
15回目	個人ワーク②実在する顧客・会場を想定し、ブライダルフォーマルウェアを提案することができるようになる。						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	伝統文化Ⅰ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
1992年～2010年まで、グラフィックデザイナーとして主に販売促進系のデザインい、専門学校関連にてディレクション等の仕事を行う。華道歴25年、個人にて華道教室を行って10年。茶道歴17年、茶道教室を行って4年。講演会や卒業式など舞台の花を生け込む仕事なども行う。							
【授業の学習内容】							
茶道全般にわたる基礎事項(あいさつ、おじぎ、立ち居振る舞い)と・お茶お菓子のいただき方、茶道の基本、薄茶のたて方を学びます。 また日常生活において異空間の時間(実習)と感じると思います。難しいとならないように親しみやすく行います。							
【到達目標】							
茶道の基本(知識や技能を習得)と、盆略点前が出来るようになります。 茶道のお稽古を通じて、自然と礼儀作法を身に付けることや、心構え、感性を磨き、おもてなしの心を養います。 家でも行えるカジュアル茶道も行います。							

回数	
1回目	茶道の心得と基礎知識・・・注意事項、お辞儀のしかた、袱紗さばきが出来るようになる。
2回目	茶道基礎知識と割稽古・・・道具の説明、お菓子、抹茶のいただき方が出来るようになる。
3回目	割稽古・・・前週の復習、袱紗さばき、お菓子、抹茶のいただき方が出来るようになる。
4回目	盆略点前・・・茶巾のたたみ方が出来るようになる。点てるまでの通し稽古が出来るようになる。
5回目	盆略点前・・・お仕舞いまでの通し稽古が出来るようになる。
6回目	盆略点前・・・復習、お仕舞いまでの通し稽古が出来るようになる。
7回目	盆略点前・・・お仕舞いまでの通し稽古が出来るようになる。
8回目	カジュアル茶道:テーブルでの茶道が出来るようになる。
9回目	盆略点前の通し稽古・・・お茶会風
10回目	盆略点前の通し稽古・・・お茶会風
11回目	盆略点前の通し稽古・・・実技試験に向けての復習
12回目	復習をしてから、盆略点前の実技試験
13回目	復習をしてから、柄杓を使ったお点前が出来るようになる。
14回目	柄杓を使ったお点前が出来るようになる。筆記試験に向けて復習
15回目	筆記試験、他の茶道お点前の体験
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%／実技試験50%

【使用教科書・教材・参考書】
講師が用意したレジュメを毎回配布する

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修 選択	年次	1	担当教員	
	アシスタントウェディングプランナー検定Ⅰ	授業 形態	講義	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
神戸・沖縄でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。							
【授業の学習内容】							
・全日本ブライダル協会主催のジュニアライセンス検定(略称:JL検定)に向けて、テキスト全項目の復習及び、過去問題の実施 ・授業で学んだ知識をもとに、ヒアリングから、婚礼のプランニングする。							
【到達目標】							
・12月に行われる全日本ブライダル協会主催のジュニアライセンス検定(略称:JL検定)に全員合格する！ ・検定後は、習得した知識をもとに、新郎新婦へのヒアリングや情報収集により、パワーポイント上で、結婚式をプランニングすることができる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	1. オリエンテーション ブライダルの仕事には、どのようなものがあるのか理解することができる。						
2回目	13. 接客の知識 最高峰のおもてなしを提供するブライダルの現場において必要な接客の知識を理解することができる。(小テスト①)						
3回目	2. 結婚式の種類① 結婚式の種類を学び、それぞれの特徴や違いを理解することができる。						
4回目	2. 結婚式の種類② 結婚式の種類を学び、それぞれの特徴や違いを理解することができる。(小テスト②)						
5回目	3. 日本の婚礼の歴史 日本における婚礼の歴史を理解することができる。(小テスト③)						
6回目	4. 結納、婚約の現状 結納の意義やしきたり、婚約について理解し、説明できるようになる。(小テスト④)						
7回目	5. セレモニー・レセプションの現状とトレンド 多様化する結婚式の現状とニーズを理解することができる。(小テスト⑤)						
8回目	6. カラーコーディネート 「色」の力を理解し、「色」の組み合わせから、イメージ作りをすることができる。(小テスト⑥)						
9回目	7. フラワーコーディネート 結婚式におけるフラワー装飾(会場装花、ブーケなど)について理解し、説明できるようになる。(小テスト⑦)						
10回目	1章。ウェディングの基本について理解度の確認と復習						
11回目	8. 婚礼衣裳の基本コーディネート① 基本的な婚礼衣裳の特徴と専門用語を理解し、説明できるようになる。						
12回目	8. 婚礼衣裳の基本コーディネート② 基本的な婚礼衣裳の特徴と専門用語を理解し、説明できるようになる。(小テスト⑧)						
13回目	9. フォーマルファッション 会場やT・P・Oに合わせた衣裳の特徴を理解し、説明できるようになる。(小テスト⑨)						
14回目	10. 和装コーディネート 江戸時代から繋がる和装の婚礼衣装についての知識を理解し、説明できるようになる。(小テスト⑩)						
15回目	11. フォトスタイリング 花嫁を美しく撮るために必要な知識を理解することができる。(小テスト⑪)						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	ウェディングプランニング	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
大学卒業後、病院秘書、旅行会社営業内勤を経て、2004年～ウェディングプランナーになる。ゲストハウス、ホテル、レストラン、プロデュース会社を経て、2013年よりフリーランスに転身し、現在は、2020年にオープンしたホテルにてオープニングメンバーのプランナーとして現場の最前線に立つ。							
【授業の学習内容】							
結婚とは、結婚式とは何なのかという結婚式の基本的な知識を学ぶ。また結婚式に関わる業種を学び、たくさんの人たちと作り上げる結婚式の素晴らしさを知識として身に付ける。							
【到達目標】							
今後作り上げていく実践(模擬挙式や模擬披露宴、プレゼンテーション)のための知識や感情を身に付ける。							
回数	授業計画・内容						
1回目	自己紹介・授業説明						
2回目	なぜ人は結婚をするのか、結婚式を行うまでの段取りを学ぶ						
3回目	『結婚式』の目的や理由を学び、結婚式の内容を深く知る《挙式について①》						
4回目	『結婚式』の目的や理由を学び、結婚式の内容を深く知る《挙式について②》						
5回目	『結婚式』の目的や理由を学び、結婚式の内容を深く知る《披露宴について①》						
6回目	『結婚式』の目的や理由を学び、結婚式の内容を深く知る《披露宴について②》						
7回目	結婚式に関わる業種について学ぶ①						
8回目	結婚式に関わる業種について学ぶ②						
9回目	理解度チェック(筆記テスト授業2回目～8回目までのテスト)						
10回目	【個人ワーク】テーマウェディングを作ろう①《コンセプトウェディングを知り、実際にコンセプト別の資料を作成しよう》						
11回目	【個人ワーク】テーマウェディングを作ろう②《コンセプトウェディング資料作成➡展示会》						
12回目	【個人ワーク】テーマウェディングを作ろう③《自分らしいコンセプトウェディングを作ろう》(テーマ決め・イメージ画像集め)						
13回目	【個人ワーク】テーマウェディングを作ろう④《自分らしいコンセプトウェディングを作ろう》(プレゼンテーション資料作成)						
14回目	【個人ワーク】テーマウェディングを作ろう⑤《自分らしいコンセプトウェディングを作ろう》(プレゼンテーション・発表会)						
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	MCスキルⅠ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
SUTVの情報番組のキャスター、地元のfmラジオのパーソナリティー等を経てブライダル司会者へ。2000組のカップルの司会を担当。関西一円のゲストハウスやホテルで司会、また関西4つのゲストハウスのオープニングに携わり司会も担当。現在は司会事務所株式会社カルテットを経営。司会者の育成と共に20名の司会者とともに「言葉の力でいい結婚式を」と毎週たくさんの結婚式をお任せいただいている。							
【授業の学習内容】							
社会人になると、話し方一つでその後の仕事が左右されることもある。 その重要な話し方を、腹式呼吸や滑舌などと共に、どのように話せば人に伝わりやすくなるのかを学習する。 後半では、人前式について学びを深め、人前式の司式台本を作成しアナウンス実践していきます。							
【到達目標】							
人前で話すことの抵抗感を減らし人自信を持って話すことができるようになる。人前式の流れを理解して司式を正しいアナウンス技術を使いできるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	【オリエンテーション】講師自己紹介・授業の説明と授業内グランドルール説明・生徒自己紹介						
2回目	(アナウンスの基礎)声の仕組みを理解して姿勢・効果的な呼吸法をマスターする。アナウンスの基礎力の重要性を理解できるようになる。						
3回目	【オリエンテーション】講師自己紹介・授業の説明と授業内グランドルール説明・生徒自己紹介						
4回目	(アナウンスの基礎)声の仕組みを理解して姿勢・効果的な呼吸法をマスターする。アナウンスの基礎力の重要性を理解できるようになる。						
5回目	構成を意識した投稿アイデア企画の基本を学習。						
6回目	写真撮影の基礎知識とカメラ操作を実践で学ぶ。						
7回目	ブライダル写真を魅力的に撮るための技法を習得する。						
8回目	写真編集アプリを活用し、色補正や加工を実践。						
9回目	動画撮影の基礎とショート動画の構成を学ぶ。						
10回目	動画編集ツールを使い、短編動画制作に挑戦する。						
11回目	効果的なキャプション作成とコピーライティング。						
12回目	ハッシュタグ戦略を理解し、分析に基づく選定を行う。						
13回目	投稿スケジュール作成と継続的運用のコツを学ぶ。						
14回目	フォロワーとのコミュニケーション方法を理解する。						
15回目	総まとめ、復習						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	ドレススタイリスト	授業 形態	演習	単位数	2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
ワタベウェディング株式会社、TAKAMI株式会社、レック株式会社に勤務してブライダルスタイリスト、和装コーディネーター、ウェディングプランナー、ウェディングフォトを担当しその後デジタルアルバムYs createを起業。							
【授業の学習内容】							
実践を通し、ドレスの着装をします。お客様への気遣いやお声がけ方法も学びます。							
【到達目標】							
ドレスの種類や素材をしり、着装が出来るようになる。ドレスコーディネーターのご案内の一連の流れを知る。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション/ブライダルの流れ/ドレススタイリストとは/ドレスショップの違い/インポートドレスと国内ドレス						
2回目	ドレスの形や生地の種類について提案できるようになる。						
3回目	ドレスフィッティング演習(ブライダルインナーの種類とつけ方を学ぶ)						
4回目	ドレスフィッティング演習(着装技術)						
5回目	お出迎えからカウンセリング前までの実技						
6回目	カウンセリングとは？説明と実施						
7回目	ランジェリー着付け/ドレス着装＆コーディネート/カーテンOPENまで						
8回目	フィッティングチェック						
9回目	フィッティングチェック						
10回目	ショールームとは？説明と実施						
11回目	カウンセリング～ショールームの流れ						
12回目	コーディネートについて/試着時の写真の撮り方を学ぶ						
13回目	試着ドレスの比較が出来るようになる						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	ブライダルヘア	授業 形態	演習	単位数	2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
アーティストブランド(化粧品会社)での勤務を経て、その経験や色彩・メイクの知識を生かし講師となる。 JMA日本メイクアップ技術検定協会認定講師、シュウウエムラ認定講師、AFT認定色彩講師、東商1級カラーコーディネーター。							
【授業の学習内容】							
ヘアセットと、メイクアップ両方を学びます。実技と理論を交えて進行します。目的に合わせた様々なメイクアップが仕上げられるように学びます。							
【到達目標】							
清潔感あるヘアメイクができるようになる。TPOに合わせた多様なヘアメイクができるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	道具確認、各部名称を学ぶ。ブラッシング、ブロッキング、熱物が安全に適切に扱えるようになる。アレンジを加えたハーフアップが仕上げられるようになる。						
2回目	玉ねぎヘア、三つ編みアレンジ、ツインシニヨン等、若々しくキュートなヘアスタイルを仕上げられるようになる。強度のある一束結びができるようになる。スタイリング剤を適切に扱えるようになる。						
3回目	カチモリヘア、タイトなポニーテールアレンジなど、若々しくクールなヘアスタイルが仕上げられるようきなる。ジェルを用いて艶やかな面の仕上げができるようになる。						
4回目	すき毛を使い、エレガントなスタイルが仕上げられるようになる。抱き合わせ、夜会巻き、ネープシニヨンが仕上げられる。						
5回目	ヘアスタイルの提案ができるようになる。飾りのバランス、美しくみえるバランスを理解する。セルフ夜会巻きの方法を知る。清潔感ある仕上げができるようになる。						
6回目	メイク 顔分析ができるようになる。メイクの悩み、なりたい自分像、みだしなみメイクとは 顔の基本プロポーション 基本のメイクアップ手順を知る						
7回目	メイク それぞれに合ったスキンケア、ベースメイク、骨格補整ができるようになる。(好きなポイントメイク) 目的に合わせた道具の選択ができるようになる。						
8回目	メイク それぞれに合ったスキンケア、ベースメイク、骨格補整ができるようになる。(好きなポイントメイク) 目的に合わせた道具の選択ができるようになる。						
9回目	メイク 身だしなみメイクができるようになる。責任感のあるアイブロウ、落ち着いたアイメイク、明るく健康な血色感のあるメイクができるようになる。						
10回目	メイク ワンポイントハロウィンメイクができるようになる。豹柄、蜘蛛の巣の簡単な描き方と、ひと工夫加えたナチュラルメイ						
11回目	メイク ハロウィンフルメイクができるようになる。テーマに沿ったデザイン画の作成とフルメイク。本格的なペイントに挑戦。						
12回目	헤어 ブラッシング、各部名称、道具の確認、熱ものを安全に取り扱えるようになる。						
13回目	メイク ハロウィンフルメイクができるようになる。テーマに沿ったデザイン画の作成とフルメイク。本格的なペイントに挑戦。						
14回目	헤어 브라ッシング、各部名称、道具の確認、熱ものを安全に取り扱えるようになる。						
15回目	理解度チェック						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
メイク道具一式							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	パーソナルカラー検定	授業 形態	講義	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。現在フリーランスで活動。 フラワー装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・AFT色彩検定1級・食空間コーディネーター							
【授業の学習内容】							
暗記して記号で答えるのではなく、視覚(目)の訓練をすることで「色の見分け」技能とお顔色への影響を習得していただきます。							
【到達目標】							
色彩理論の初期程度を理解し、パーソナルカラーの基礎知識と、色を見極める力(色の特性を識別判断)がつき、指定条件の色と配色を特定できるようになる。色彩技能パーソナルカラー検定®モジュール1(初級)合格							
回数	授業計画・内容						
1回目	(オリエンテーション)パーソナルカラーを学ぶ目的、色彩技能パーソナルカラー検定®検定概要を理解し色の成り立ちを理解する						
2回目	(色の属性①)色相について、スペクトル、色相環、純色、色料の三原色、原色と純色の違いができるようになる						
3回目	(色の属性②)イエローベース、ブルーベースの考え方、明度の違い、彩度の違いを理解できるようになる						
4回目	(色の属性③)清色、濁色の考え方と見極め、トーンについて理解できるようになる						
5回目	(色の見分け①)フォーシーズンについて、色の属性からフォーシーズンに色分けができるようになる						
6回目	(色を見るための条件①)パーソナルカラー診断をするために必要な、光の条件、物体、目について理解できるようになる						
7回目	(色の見分け②)色の心理効果、色の絶対値と相対的な判断を理解して、色の見分けができるようになる						
8回目	(配色①)色相とトーンから配色技法(同一、類似、対象)が理解できるようになる						
9回目	(配色②)色相とトーンから配色技法(ドミナント、グラデーション、アクセント、セパレーション)が理解できるようになる						
10回目	復習／まとめ						
11回目	(復習／まとめ)模擬的問題／解説						
12回目	パーソナルカラーフォーシーズンビジュアルツール作成①						
13回目	パーソナルカラーフォーシーズンビジュアルツール作成②						
14回目	パーソナルカラーフォーシーズンビジュアルツール発表						
15回目	(属性別ドレープ実習②)属性によるお顔の変化の見え方をお客様へ分かりやすく伝えられるようになる						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
色彩技能パーソナルカラー検定®公式テキスト:モジュール1(初級)／新配色カード199a／パーソナルカラー配色カード／のり、はさみ							

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	宿泊オペレーションⅠ	授業形態	演習	単位数	2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
複数の外資系、日系ホテル開業に携わり、ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントレセプションMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。現在はホテル・レストラン運営コンサルタントとして活動。スモールラグジュアリーホテル副総支配人。1996年第1回日本メートルドテルコンクール)第5位。全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュパティスト協会)主催レストランサーヴィスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サーヴィスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員。							
【授業の学習内容】							
ホテルの顔である、フロントサービス業務の解説並びに実務経験を研修して頂きながら、防犯業務の確認、有事の際のお客様の導きなどを理解して頂きます。							
【到達目標】							
実際に実務でフロントにて勤務しても、わからない事案がないようなフロントスタッフを目指して頂きます。							

回数	
1回目	①講師の自己紹介並びに生徒の自己紹介 ②授業目的の説明
2回目	ホテルの宿泊フロントサービス課にある部署について解説出来るようになる。
3回目	ドアマンの必要性を解説してドアマン業務を理解して大まかな業務説明が出来るようになる。
4回目	ドアマンの主な業務及び必要な知識、他部署との連携など解説する。後半部分はドアマンになる為のシティinfoを習得する。
5回目	ベルマンの歴史、ホテルのロビー内での待機中の要点 & 役割を理解する。
6回目	ベルマンの主な業務及び接客サービスを解説して理解する。ベルマンの小テストに使うトークスクリプト配布して暗記をする。
7回目	ベルマンの小テストにおける最終確認を行い ベルマンの習得テストの実施を行う。 小テスト①
8回目	ハウスキーパーの業務内容を大まかに解説して理解する。(実際におきる問題点などの営業的な問題と労務的な問題)
9回目	客室の清掃の流れ及び客室内のそれぞれの呼称を説明し、理解して頂く。
10回目	客室内の呼称における小テストを行う。 小テスト②
11回目	コンシェルジュの歴史と資質 必要なスキル求められるや行動を理解し、コンシェルジュの業務説明が出来るようになる。
12回目	コンシェルジュの実務疑似体験を行い コンシェルジュの仕事のレベルを理解する。(各個人にて情報収集を行う。)
13回目	12回目の授業を今度はグループワークにて行い、グループとしての意見の統合や整合性を理解する。
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
ホテルビジネス 基礎編	

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	料飲・レストランオペレーションⅠ	授業形態	演習	単位数	2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2000年6月神戸ポートピアホテル フレンチレストラン アランシャベル支配人に就任 2012年5月 トランテアン(アランシャベル閉店後のフレンチ)支配人に就任 2012年12月 日本料理神戸たむら 支配人に就任 2019年4月和食 中華グループ 7店舗レストランの統括支配人に就任 2023年7月料飲部 部長付支配人クオリティ担当に就任 またポートピアホテルで社内講師も兼任する。ホテル32年勤務のち 2023年11月人材会社 株式会社ホテリアスタッフ 西日本統括本部長就任 現在に至る。(有資格) ソムリエ HRS1級 西洋料理テーブルマナー講師 日本料理テーブルマナー講師 英検2級							
【授業の学習内容】							
初めは、ホテルから外食産業・その他幅広いレストランに興味を持つように全般的な概要で机上での講義形式で行います。またサービス基本実践の演習で各自実務基礎を習得させます。最後に実技試験シミュレーションを行うことで、緊張感を持って楽しく生徒が授業に取り組めるように致します。							
【到達目標】							
レストランに関して興味を持ってもらうため、料理や飲み物・サービスなど幅広く 奥が深いことを認識してもらいます。次に実践演習で初心者者のサービス実技を体験。そして最終はレストランサービスに必要なスキル課題を明確にし、課題実技スキルを習得してもらうことを最終の目標に致します。							

回数	
1回目	アクティブラーニングでコミュニケーションを図る。活発な意見が出るようになる
2回目	おじきの仕方から接客用語唱和 言葉遣いの基本マナーを学び 習得出来る
3回目	ホテルのレストランを知る。おすすめ料理のセールストークを発表
4回目	アメリカンブレイクファーストを学び、簡単なオーダーテイクが出来るようになる
5回目	レストランの業務の流れを知り トレーサービスの基礎を全員が習得する
6回目	接客で必要な正しい言葉遣いを学び、皿の持ち方、下げ方の習得をする
7回目	テーブルセッティング方法を習得する(テーブルクロス チャイナ シルバー グラス ナプキン カスターセット)
8回目	西洋料理フルコースの構成の把握と基礎的なサーバーサービスの実習 技術取得
9回目	オーダーテイクの留意点を学び、ワイン お水サービスの実習及び技術習得
10回目	苦情の種類 処理方法 基本的な苦情処理が出来るようになる
11回目	アメリカンブレイクファーストー連のサービス流れを把握出来るようになる
12回目	朝食の流れと基本的なサービス技術を習得
13回目	朝食の流れと基本的なサービス技術を習得 パートⅡ
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
日本ホテル教育センター『レストラン業務の基礎』	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	エアライン基礎Ⅰ	授業 形態	講義	単位数	2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2009年JALグループに新卒入社。先任客室乗務員としてVIPを含め旅客対応を担う。							
【授業の学習内容】							
航空業界について詳しく知ることができる。月刊エアステージを用いて、知識を深めていく。							
【到達目標】							
航空業界の職業に従事する上で、必須となる知識を習得する。業界の最新情報を自ら習得し、まとめ、発表する力を身につけることができる。業界用語を知ることにより、面接やディスカッションにも活かすことができる。							

回数	
1回目	オリエンテーション 今後行われる講義、試験規定を知ることができる
2回目	航空会社の違いを理解することができる
3回目	CAについて詳しく知ることができる
4回目	航空機の基本構造を知ることができる
5回目	【伊丹空港】空港内サービスや施設を見学し、様々な職種と伊丹空港や関連施設について知ることができる
6回目	【伊丹空港】空港内サービスや施設を見学し、様々な職種と伊丹空港や関連施設について知ることができる
7回目	自分自身に合った航空会社や業種を知ることができる
8回目	コロナ禍が航空業界にもたらした影響を知ることができる
9回目	3レターの知識を得ることができる、CAストーリーの作成
10回目	グランドスタッフ・CAとのチームワークについて知ることができる【CA特別講義】
11回目	航空整備士や管制官など航空業界の様々な職業、CAとのチームワークについて知ることができる
12回目	航空業界の専門用語を学ぶことができる
13回目	【特別講義】航空会社の経営上の特徴、その他業界との違いを理解できる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
Air Stage	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	森藤 舞
	エアライン接遇Ⅰ	授業 形態	演習	単位数	2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
JALグループで2004～2018年まで先任客室乗務員として乗務する。安全で快適な空の旅を提供するとともに、安全担当として後輩育成にも注力してきた。							
【授業の学習内容】							
バーにおいて必要な技術・知識をカクテル実習をメインに学習すると共に、ホテルバーマンとしての立ち振る舞いや、ホスピタリティを学ぶ事を目的とする。							
【到達目標】							
カクテル調合技術や基本的なお酒の知識を習得すると共にオリジナルノンアルコールカクテル創作とそのプレゼンテーションを習得する事を目標とする。							

回数	
1回目	オリエンテーション 前期の授業内容を理解できる。試験内容を理解できるようになる。授業を受けるにあたっての心構えや身だしなみを整えることの意味を理解できるようになる。身だしなみの整え方が分かるようになる。
2回目	①身だしなみのチェック ②立ち居振る舞い 航空業界においての立ち居振る舞いの重要性を理解できるようになる。きれいな立ち姿と笑顔ができるようになる。 ③自己エピソード発表導入 次回からの発表内容を理解できるようになる。
3回目	①立ち居振る舞い きれいなウォーキング、お辞儀ができるようになる。②自己エピソード発表
4回目	メイクレッスン メイクアップ講師による授業 航空業界に合うメイクを理解し、実践できるようになる。
5回目	①言葉遣い 正しい日本語の使い方を理解できるようになる。②ディスカッション導入 エアライン受験におけるディスカッションの重要性を理解できるようになる。③自己エピソード発表
6回目	①言葉遣い 接客における言葉遣いを理解できるようになる。②ディスカッション初回 ディスカッションの進め方が理解できるようになる。③自己エピソード発表
7回目	①言葉遣い 正しい日本語の小テスト②接客における言葉遣いをロールプレイで実践できるようになる。③ディスカッション二回目④自己エピソード発表
8回目	①アナウンス導入 アナウンスの重要性について理解できるようになる。②ビジネスマナー 基本的なマナーについて理解できるようになる。③自己エピソード発表
9回目	①アナウンストレーニング②ビジネスマナー 基本的なマナーについて理解できるようになる。③自己エピソード発表
10回目	①アナウンストレーニング②自己分析導入 エアライン受験における自己分析の重要性を理解できるようになる。③自己エピソード発表
11回目	①アナウンストレーニング②自己分析 自己分析シートを使い、自分の特性に気が付けるようになる。③ディスカッション三回目④自己エピソード発表
12回目	①自己分析 自己分析シートを使い、過去の自分を振り返ることができるようになる。②空港見学のための立ち居振る舞い・マナー復習と見学についてのポイント確認③自己エピソード発表
13回目	①正しい言葉遣いで空港見学についての感想を発表できるようになる。②ディスカッション四回目③試験項目についての確認
14回目	理解度チェック／前期の復習と後期に向けての心構えを確認できる
15回目	KIX空港見学：グランドスタッフの業務内容とホスピタリティを学ぶ
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
Air Stage	

授業シラバス

科目名	外国語	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	Global Communication I	授業 形態	演習	単位数	2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間 I 部						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U1.1 [WH-question]を使って相手の性格について尋ねる会話を練習する
2回目	U1.2 「間接疑問文」を使って、人に質問をする、また質問に答える練習をする
3回目	U1.3 自己紹介と他己紹介に関する会話を練習する
4回目	U1.4 誰かと知り合いになるためのメールを書く
5回目	U1.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「良いリーダーになるために必要なこと」 ・学期末プレゼンと連動する内容
6回目	U2.1 現在進行形を使って持ち物について話す
7回目	U2.2 現在完了形を使って持ち物やその機能などについて話す
8回目	U2.3 聞き返しの表現や話題を変える際の表現を使ってディスカッションをする
9回目	U2.4 欲しいものについての広告を書く
10回目	U2.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「出かける時の持ち物について」 ・学期末プレゼンと連動する内容
11回目	U3.1 冠詞に注意しながら、自分の町について尋ねる、また質問に答える練習をする
12回目	U3.2 [would/could/should]を使って、他の場所への生き方について話す
13回目	U3.3 建物内の道案内の場面での会話を練習する
14回目	U3.4 求人に対して志望動機を書く
15回目	U3.5 Time to Speak: 学期末プレゼン
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%／実技試験50%

【使用教科書・教材・参考書】
Evolve

授業シラバス

科目名	外国語	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	英文法&英会話Ⅰ	授業 形態	講義	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U1.1 性格を表す単語を学ぶ [WH-question]を使った表現を学ぶ
2回目	U1.2 個人の情報(ライフステージ)に関する表現を学ぶ 間接疑問文を学ぶ
3回目	U1.3 新しい情報を伝える時の文中のストレス(発音)を学ぶ 自己紹介、他己紹介の表現を学ぶ
4回目	U1.4 段落を意識したメールの読み方、書き方を学ぶ
5回目	U1.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U2.1 持ち物や持ち物に関連する表現を学ぶ [ever/never/for/since]を用いた現在完了形を学ぶ
7回目	U2.2 スマホやPCの機能に関する表現を学ぶ [already/yet]を用いた現在完了形を学ぶ
8回目	U2.3 語頭の/t/の発音を学ぶ 話題を変える際の表現を学ぶ、簡単な聞き返し(興味を示す)の表現を学ぶ
9回目	U2.4 ネット広告の読み方、書き方を学ぶ 代名詞としてのoneの使い方を学ぶ
10回目	U2.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U3.1 街中の橋や建物などの特徴に関する単語を学ぶ 冠詞について学ぶ
12回目	U3.2 公共交通機関に関する単語を学ぶ 助動詞[would/could/should]を使った提案の表現を学ぶ
13回目	U3.3 語頭の子音連結(発音)を学ぶ 道順を尋ねる、また教える際の表現を学ぶ、理解を示すための繰り返し(言い直し)の表現を学ぶ
14回目	U3.4 求人広告を読み、志望動機の書き方を学ぶ 大文字やピリオドなど、基本的なルールを学ぶ
15回目	U3.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験

【使用教科書・教材・参考書】
Evolve

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ ・キャリア教育	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	キャリアプログラムⅡ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
専門学校を卒業後、花屋にて店長を務め、ウェディングブーケや結婚式場での装飾を行う。その後、専門学校のフラワーコース担任として10年勤務。							
【授業の学習内容】							
専門学生が社会人として必要なキャリア形成力と学生生活の心構えを身につける。							
【到達目標】							
自己理解、キャリア設計、コミュニケーション力、社会人基礎力を養う。							

回数	授業計画・内容	
1回目	企業訪問・職場見学のポイントが分かるようになる。	
2回目	キャリア形成における資格活用について学ぶ。	
3回目	ポートフォリオ作成と自己PRができるようになる。	
4回目	SNS活用とデジタルマナーを学ぶ。	
5回目	働き方改革と多様なキャリア観について考える。	
6回目	グローバル人材に必要な視点について考える。	
7回目	リーダーシップとフォロワーシップについて学ぶ。	
8回目	問題解決力と論理的思考演習についてグループワークを通して学ぶ。	
9回目	プレゼンテーションスキル基礎を身に付ける。	
10回目	模擬面接とフィードバック演習を行う。	
11回目	就職活動のスケジュール管理を行う。	
12回目	内定後の心構えと社会人準備の確認を行う。	
13回目	キャリアの振り返りと課題整理について考える。	
14回目	卒業後のキャリア展望と自己成長について考える。	
15回目	総括・学びの共有と今後の目標を設定する。	
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される	
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験	
【使用教科書・教材・参考書】		

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ ・キャリア教育	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	ウォーキングⅡ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
大学卒業後、株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。 その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。 一般社団法人Cs'にてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。							
【授業の学習内容】							
後期は前期に引き続きフラットウォーキングを行いつつ、ヒールウォーキングを身につける。 また様々なシーンにおいて美しくふるまうコツを具体的に練習していく。 外面を整えることは相手に対する思いやりの気持ちを持つことであり、おもてなしの心を形で表すためにあることを理解し、社会人マナーとして身につける。 信頼感の与えられる人材を育てる。							
【到達目標】							
就職活動や冠婚葬祭のシーンにおいて必要不可欠なヒールウォーキングを美しく正しくできるようになる。 日常生活での美しい所作も学び、ものを大切に扱う心も育てられるようになる。 姿勢・フラットウォーキング・ヒールウォーキング・所作トータルでできるようになり、即戦力のある立ち居振る舞いを身につけられるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。 所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。
2回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。 所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。
3回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。 所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。
4回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。 所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。
5回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。 所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。
6回目	前期に続き姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンではお辞儀3パターンが理解できるようになる。ラストアイコンタクトを理解できるようになる。(応用編として就職活動に活かせるよう実践を交える) 手しぐさの法則は女子学生のみ。ものの丁寧な扱い方(カバンの持ち方・傘の持ち方など)を仕草一つで表現できるようになる。
7回目	姿勢の復習。ヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンはコミュニケーションに欠かせない「素敵な笑顔の作り方」をできるようになる。笑顔のもたらす効果・笑顔の種類・顔の主な筋肉の説明・表情筋トレーニングを行いできるようになる。(手鏡ご持参ください。)
8回目	前期に続き姿勢の復習。ヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンではヒールでのスマートな階段の昇り降りのポイントやコツ、並びに物のひろい方、書類の渡し方・受け取り方など日常シーンでの仕草を綺麗にできるようになる。
9回目	姿勢の復習。ヒールウォーキングレッスンへ。 疲れにくいヒール選び(試着のポイント・デザイン選び)並びにシーン別(仕事・パーティー、カジュアル等)脚が綺麗に見えるヒールの高さ選びの数式を学びできるようになる。
10回目	姿勢の復習。ヒールウォーキングレッスンへ。 所作レッスンはスマートにコートやジャケットを脱ぎ着できるようになる。(企業訪問した際に恥ずかしい裏表のマナーを理解してできるようになる。)
11回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。
12回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。
13回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。 ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。
14回目	期末の試験を行う
15回目	授業の振り返りを行う
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
・パンプス・動きやすい服装・飲み物	

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	ビジネスコンピューティングⅡ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ&インクルーシブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー（情報を活用できる能力）を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。							
【到達目標】							
職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。 ITリテラシーを学び、安心・安全な環境を作り、ホスピタリティ業界でも大切なメールマナーなどを学ぶ。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション 授業の概要の説明 プレゼンテーションの基本を理解して、効果的なプレゼンテーション資料を作成することができるようになる。						
2回目	パワーポイントの基本操作 スライドの操作を習得し、スライドの管理ができるようになる						
3回目	スライド作成の基本操作 スライドのサイズ変更、テキストの入力、スライドに名前や日付を入れたり、スライドの複製やコピーができるようになる						
4回目	スライド作成の基本操作 スライドマスター、配色、フォント、パターンの設定をして、スライドの表現ができるようになる						
5回目	スライドの応用操作 画像や図をスライドに挿入したり、画像処理ができるようになる						
6回目	表の挿入 行や列の挿入、削除、列幅や行の高さの調整など、テーマに沿った表を作成することができるようになる						
7回目	グラフの作成 グラフの種類とそれぞれの特徴を学び、必要なグラフを作成することが作成することができるようになる						
8回目	作図機能を使う スライドにデザインをつけたり、強調したい部分を明確に表現できるようになる						
9回目	アニメーションの設定 アニメーション機能を理解して、プレゼンテーションで使用するができるようになる						
10回目	センスのいいスライドの作成 いろんな機能をすかってスライドに同時のデザインすることができるようになる						
11回目	課題 テーマに沿ったスライドを作成						
12回目	CANVAの基本操作 CANVAを使ってスライドを作成できるようになる						
13回目	CANVAの応用 パワーポイントとCANVAのそれぞれの強みを活かしたスライドを作成できるようになる						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
PC							

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	アソシエイトホスピタリティ	授業 形態	講義	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
国家資格キャリアコンサルタント。自己分析・他者理解・相互理解による関係性構築力を目的とした能力開発のための研修やセミナーを行う。自分らしさを仕事に活かすことを目的とした就活生のための自己分析シート作成セミナーを実施している。人間関係促進ツールのためのカラータイプ®理論をテーマに日本マーケティング学会に共論文3本あり。							
【授業の学習内容】							
本当の“ホスピタリティ”の意味と価値を学び、自分らしい「ホスピタリティ」ができる人になることを目指します							
【到達目標】							
本当の“ホスピタリティ”を理解・実践し、検定合格を目指します。							

回数	授業計画・内容
1回目	授業について
2回目	自分のホスピタリティに気づく
3回目	第1章 日本のサービス産業の現状とホスピタリティの重要性
4回目	第2章 ホスピタリティの歴史と文化 についてホスピタリティはどのような考えから来たのかを学ぶことができる。
5回目	第3章 サービスとホスピタリティの語源 について、ホスピタリティという言葉の発端は何なのかを学ぶことができる。
6回目	第2章 ホスピタリティの歴史と文化 についてホスピタリティはどのような考えから来たのかを学ぶことができる。
7回目	第3章 サービスとホスピタリティの語源 について、ホスピタリティという言葉の発端は何なのかを学ぶことができる。
8回目	第4章 ホスピタリティの定義 について、「サービス」と「ホスピタリティ」の違いを学ぶことができる。
9回目	第5章 ホスピタリティの5領域 について、人間の「欲求」とは何かを学ぶことができる。
10回目	第5章 ホスピタリティの5領域 について、人間の「欲求」とは何かを学ぶことができる。
11回目	第6章 組織と顧客のホスピタリティ について、ホスピタリティの出発点は何かに気づくことができる。
12回目	第7章 組織と社員(従業員)のホスピタリティ についてグループワークを行いながら考えることができる。
13回目	第8章 ホスピタリティの実践 についてグループワークを行いながら考えることができる。
14回目	期末の試験を行う
15回目	授業の振り返りを行う
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
ホスピタリティ・コーディネータ教本 (日本ホスピタリティ推進協会)	

授業シラバス

科目名	課題制作	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	マーケティングⅡ	授業 形態	演習	単位数	2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
スタートアップ企業の立ち上げ、経営実務、マーケティング実務の経験を有する。現在はフリーランスとして主に企業への戦略立案支援、社会人・学生への思考系及びマーケティング系の研修講師を行う。							
【授業の学習内容】							
実際の企業が抱える課題を解決するための企画提案の立案手法及び内容を的確に伝えるためのプレゼンテーション手法を学習する。本クラスの課題を行うことでビジネス基礎力となる論理思考力、企画提案力、プレゼンテーション力の向上を図る。							
【到達目標】							
前期で学んだマーケティングの知識を活用し幅広くリサーチと考察を行うことにより真の問題発見とその解決法を導き出し、納得・共感を得る提案ができるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション(企画立案作業も実施):授業の概要、課題の内容を理解し、企業が求める企画書の作成に積極的に取り組めるようになる						
2回目	企画立案作業1:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
3回目	企画立案作業2:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
4回目	企画立案作業3:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
5回目	企画立案作業4:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
6回目	プレゼン資料制作1:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
7回目	プレゼン資料制作2:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
8回目	プレゼン資料制作3:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
9回目	プレゼン原稿作成:評価者に企画内容と熱意が伝わる言葉を作ることができるようになる						
10回目	プレゼンリハーサル1:自身の考えをしっかりと伝える話し方ができるようになる						
11回目	プレゼンリハーサル2:自身の考えをしっかりと伝える話し方ができるようになる						
12回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)						
13回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	業界研究	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	就職対策Ⅰ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
老舗ホテルにて勤務後、講師として大学、短大、専門学校、企業などでの研修実績多数。産業カウンセラー、メンタルヘルスマネジメントなどの資格を習得。							
【授業の学習内容】							
社会人になるために必要な「就職活動」に向けて、基本的なコミュニケーションスキルを高めていきます。ブライダル現場は、どのサービス業よりも、印象のよい、心からの接遇と、臨機応変な対応力、コミュニケーション能力が求められます。信頼され、自信をもって活躍できる社会人になるために必要なスキルを学ぶと同時に、日常生活の中でも発揮することで、定着を図ります。「わかる」だけでなく、だから「できている」と感じられるコミュニケーションスキルを身に付けます。							
【到達目標】							
1, 社会人に必要なコミュニケーションスキルが理解でき、相手に立場に立ったあ振る舞いを実践できるようになる。 2, 校外からの訪問者や学校関係者同士のコミュニケーションで、印象のよい接遇を実行でき、だれにでも好印象を与えるコミュニケーションスキルを体得できる。 3, ホスピタリティの「当たり前」のレベルを上げ、7月実施予定のコミュニケーションスキルアップ検定の全員合格を目指すことができる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	コミュニケーションとは何かを学び、ブライダル業界で必要とされる人物像について体験的に理解できます。 コミュニケーションの重要性、種類、基本原則と、就職活動におけるコミュニケーションの役割を理解できます。 自己紹介を通して、自身のコミュニケーションスタイルを客観的に把握できます。						
2回目	基本的対話スキル①「聴く」の基本について理解することができます。 聴く力(アクティブリスニング)を高める方法、相手の意図を汲み取る技術を学び、実践することができます。						
3回目	基本的対話スキル②「話す」の基本について理解することができます。 ボディランゲージと非言語コミュニケーションが与える影響について知り、好印象を与える表情、態度、声のトーンを習得することができます。						
4回目	自己表現スキル① 関係づくりの第一歩。自己紹介、上手な頼み方、断り方、バランスのよい自己主張について理解することができます。						
5回目	自己表現スキル② 仕事でも用いる「交渉」「説得」「プレゼンテーション」の基本について理解することができます。						
6回目	自己表現スキル③ アンガーマネジメントについて理解することができます。 自分がどのようなときに怒りを感じるか自己分析することができます。						
7回目	グループディスカッションで活躍するためのスキルについて知ることができます。 他者と協力しながら意見を出し合う方法、リーダーシップとフォロワーシップのバランスを取る方法を学ぶことができます。						
8回目	効果的なプレゼンテーションの基本について学ぶことができます。 プレゼンテーションの組み立て方、簡潔にわかりやすく伝える方法について理解し、実践することができます。						
9回目	効果的なプレゼンテーションの技術について学ぶことができます。 伝わりやすい話し方、視覚的資料の使い方、聴衆を引き込む方法について理解し、実践することができます。						
10回目	CSU検定直前対策①(CSU検定 7月中実施予定)						
11回目	CSU検定直前対策②(CSU検定 7月中実施予定)						
12回目	自分を最大限にアピールするプレゼンテーション準備						
13回目	自分を最大限にアピールするプレゼンテーションリハーサル						
14回目	理解度チェック 自分を最大限にアピールするプレゼンテーション発表						
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ教養	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	サービス接客検定	授業形態	演習	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製菓会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ＆インクルーシブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製菓会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ＆インクルーシブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。☒							
【到達目標】							
サービス接客検定に合格する。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション						
2回目	サービススタッフの資質 必要とされる要件を理解し、実践できるまでに落とし込めるようになる						
3回目	専門知識 サービスの意義、サービスの機能やサービスの種類を理解し、十分発揮できるようになる						
4回目	一般知識 社会常識、時事問題を十分理解できるようになる						
5回目	対人技能① 人間関係、接客知識について理解し、能力を発揮できるようになる						
6回目	対人技能② 話し方(敬語、接客用語)について理解し、能力を発揮できるようになる						
7回目	実務技能 問題処理、環境整備、金品管理、金品搬送、社交業務について理解し、対処や処理ができるようになる						
8回目	面接対策(準1級、1級 該当者がいない場合は知識)						
9回目	面接対策(準1級、1級 該当者がいない場合は知識)						
10回目	面接対策(準1級、1級 該当者がいない場合は知識)						
11回目	検定問題解答と解説①						
12回目	検定問題解答と解説②						
13回目	検定問題解答と解説③						
14回目	理解度チェック(検定問題)						
15回目	理解度チェック(欠席者)/復習(検定問題)						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
PC							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	伝統文化Ⅱ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
1992年～2010年まで、グラフィックデザイナーとして主に販売促進系のデザインい、専門学校関連にてディレクション等の仕事を行う。華道歴25年、個人にて華道教室を行って10年。茶道歴17年、茶道教室を行って4年。講演会や卒業式など舞台の花を生け込む仕事なども行う。							
【授業の学習内容】							
ホテルのロビー、レストラン、部屋、化粧室、職場のさまざまな場所にお花が飾られています。また日本人に限らず海外の人もいます。 本授業では、日本の伝統文化の1つ「華道」の基本を実習形式で行います。飾る場所に応じて空間を活かすこと、同じ材料でも人によって違った作品になること、短期間で複数の花や枝の名前や季節感なども触れます。センスが問われるのでは？と思われがちですが「工夫すること」で、個性やセンスが得られることを華道(実習)を通して学んでいきます。							
【到達目標】							
華道(生け花)の基本「盛り花」を中心に、骨格作り、空間の取り方、置く(飾る)場所を考えていけていきます 器の大きさ、置く(飾る)場所、空間に合わせて、高さ全体の大きさを考えていけこめるように。また壺いけや創作物も行います。							

回数	
1回目	華道の説明(道具、注意事項、華道の種類等)、フラワーアレンジメントと生け花の違いについて説明。 盛り花の基本(枝):生け花の基本、生け方の基本ができるようになる。
2回目	盛り花の復習(枝):盛り花の基本、枝でいけるようになる。
3回目	盛り花の基本(葉):葉ものを使った盛り花ができるようになる(枝から葉ものに変わると創作作業があり新しい技法工夫の修得)
4回目	盛り花の基本(葉):葉ものを使った盛り花ができるようになる(前週と葉を変えて、生け方、創作作業の違いができるようになります)
5回目	壺いけの実習:ホテルや職場では壺や花瓶にお花が飾っています。剣山との違いを体験し、壺いけ花瓶いけができるようになる。(壺の数の関係で、3週に分けておこないます) 壺に使う材料で、盛り花としていけて、壺いけとの違いを学びます。
6回目	壺いけの実習:ホテルや職場では壺や花瓶にお花が飾っています。剣山との違いを体験し、壺いけ花瓶いけができるようになる。(壺の数の関係で、3週に分けておこないます) 壺に使う材料で、盛り花としていけて、壺いけとの違いを学びます。
7回目	壺いけの実習:ホテルや職場では壺や花瓶にお花が飾っています。剣山との違いを体験し、壺いけ花瓶いけができるようになる。(壺の数の関係で、3週に分けておこないます) 壺に使う材料で、盛り花としていけて、壺いけとの違いを学びます。
8回目	創作①クリスマスリース作成:4限にて、生け方の種類に「木流儀」という生け方があり「矯める」という技法があります。矯めるという技法をクリスマスリース作りを通してできるようになります。
9回目	創作①クリスマスリース作成:生の木(薩摩杉)を使って、矯めて型を作り、飾り付けなど、バランス感覚も合わせて修得します。
10回目	盛り花の復習:骨格を作り、空間を意識し、足元、奥行き、置く場所によって変わる等ができるようになる。
11回目	盛り花の復習:基本的な生け方から、素材を活かす、流れ、メリハリを意識した生け方ができるようになる。
12回目	盛り花の復習:自分の型や空間の活かし方を今一度確認。限られた時間で出来るようになります。
13回目	盛り花の復習:盛り花の復習をします(回を重ねる中で個性、センス、拘りを活かすことや注意点) 今迄のプリント等で筆記対策を行います。
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェックの解説／学期末の振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験

【使用教科書・教材・参考書】
講師が用意したレジュメを毎回配布する

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	英会話Ⅰ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2006年より各種大学・専門学校・民間英語スクールにて英語講師として勤務、その他、通訳、字幕翻訳、書籍の執筆等の業務に従事							
【授業の学習内容】							
ホスピタリティ業界の現場で使える英会話を習得する。市販の教材で習う「長い英語」ではなく、海外のホテル現場で実際に使われている「生きた短い英語」を学び、反射的にアウトプットできる力を養う。また、発音とイントネーションにも力を入れ、アクセントの少ない英語を話せるようになることを目的とする							
【到達目標】							
簡単な語彙の組み合わせを学び、現場で即戦力として英語でコミュニケーションができるようになる。							

回数	
1回目	Can greet people and take leave 初対面の相手に対し、適切な挨拶ができるようになる
2回目	Can introduce oneself and others, ask for personal information 自分のこと、相手のことを英語で述べられるようになる
3回目	Can make small talk トピックを用いて相手と話を出来る
4回目	Can express likes, dislikes and return questions 興味のあること・ないことについて述べられるようになる
5回目	Can ask for and give opinions 自分の意思を相手に伝えられるようになる
6回目	英語面接：これまでの学習成果を発揮して会話を続けることができる
7回目	Can ask about and describe family members 家族について会話ができるようになる。
8回目	Can describe and compare personalities 周りの人間、自分の性格を伝えられるようになる
9回目	Can ask about, describe and offer compliments about outfits ファッションについて話し、相手のファッションについて褒めることができるようになる。
10回目	Can ask about and describe routines 様々な表現を用いて、時間について説明できるようになる
11回目	Can ask follow-up questions 相手の答えに対して、質問をして会話を続けることができるようになる。
12回目	Can ask about and describe sequences 出来事の起こった順に説明ができるようになる。
13回目	Review of materials up to this point 授業内容の復習、試験の準備
14回目	理解度チェック／英語面接：これまでの学習成果を発揮して会話を続けることができる
15回目	理解度チェック／学期末の復習をすることができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技試験

【使用教科書・教材・参考書】
講師が用意したレジュメを毎回配布する

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	アシスタントウェディングプランナー検定Ⅱ	授業 形態	講義	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
神戸・沖縄でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。							
【授業の学習内容】							
・全日本ブライダル協会主催のジュニアライセンス検定(略称:JL検定)に向けて、テキスト全項目の復習及び、過去問題の実施 ・授業で学んだ知識をもとに、ヒアリングから、婚礼のプランニングする。							
【到達目標】							
・12月に行われる全日本ブライダル協会主催のジュニアライセンス検定(略称:JL検定)に全員合格する！ ・検定後は、習得した知識をもとに、新郎新婦へのヒアリングや情報収集により、パワーポイント上で、結婚式をプランニングすることができる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	和装コーディネート 江戸時代から繋がる和装の婚礼衣装についてD19:J28での知識を理解し、説明できるようになる。(小テスト)						
2回目	ブライダルアテンドの方法 新郎新婦が不安なく、自信をもって挙式当日を過ごせるようサポートの知識を理解することができる。(小テスト)						
3回目	基本のマナー 印象のよい身だしなみや行動、言動について理解、し実践することができる。(小テスト)						
4回目	専門用語 専門用語について理解し、説明できるようになる。(小テスト)／第1章の復習						
5回目	テキスト1章～3章までの理解の確認。不得意な部分を習得する方法を身につけることができる。						
6回目	JL検定直前対策① 過去問題の実施と解答を検証。自己の理解度を認識し、間違いを重点的に復習することで、知識を高めることができる／1～3章の復習						
7回目	JL検定直前対策② 過去問題の実施と解答を検証。自己の理解度を認識し、間違いを重点的に復習することで、知識を高めることができる／1～3章の復習						
8回目	JL検定直前対策③ 過去問題の実施と解答を検証。自己の理解度を認識し、間違いを重点的に復習することで、知識を高めることができる／1～3章の復習						
9回目	JL検定直前対策④ 過去問題の実施と解答を検証。自己の理解度を認識し、間違いを重点的に復習することで、知識を高めることができる／1～3章の復習						
10回目	【応用①／ワーク】ヒアリングにて、新郎新婦の想いを引き出し、ご提案をすることができる。						
11回目	【応用②／ワーク】新郎新婦の想いをパワーポイントで表現し、ご提案することができる。						
12回目	【特別授業】講師:吉住 泰子 ブライダルに携わる心得						
13回目	【応用③／ワーク】新郎新婦の想いを表現したパワーポイントでプレゼンすることができる 【後期試験】筆記試験						
14回目	【応用③／ワーク】新郎新婦の想いを表現したパワーポイントでプレゼンすることができる						
15回目	【課外授業】ホテル見学 ブライダル基礎の学びを再確認し、実践での活用をイメージすることができる／課題:レポート提出						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	ウェディング実践Ⅰ	授業 形態	演習	単位数	3	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
大学卒業後、病院秘書、旅行会社営業内勤を経て、2004年～ウェディングプランナーになる。ゲストハウス、ホテル、レストラン、プロデュース会社を経て、2013年よりフリーランスに転身し、現在は、2020年にオープンしたホテルにてオープニングメンバーのプランナーとして現場の最前線に立つ。							
【授業の学習内容】							
2年次から始まるリアルウェディングに向けて挙式の運営を学ぶ。							
【到達目標】							
挙式運営に必要なそれぞれの役割・業務を理解したうえで、チャペルでの挙式施行することができるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	ガイダンス(授業の流れについて説明)・チーム発表・新郎新婦のプロフィールに基づき挙式のコンセプトを考える。						
2回目	コンセプト・テーマについて再度検討し、決定する。挙式の役割を決める。						
3回目	決定したコンセプト・テーマに基づき挙式のプログラムに落とし込むことができる。【プランニング】						
4回目	それぞれのチームのプログラムの確認・修正						
5回目	それぞれの役割に沿って準備をすることが出来る①(グループごとに相談の上、使用教室を調整すること)						
6回目	それぞれの役割に沿って準備をすることが出来る②(グループごとに相談の上、使用教室を調整すること)						
7回目	それぞれの役割に沿って準備をすることが出来る③(グループごとに相談の上、使用教室を調整すること)						
8回目	それぞれの役割に沿って準備をすることが出来る④(グループごとに相談の上、使用教室を調整すること)						
9回目	それぞれの役割に沿って準備をすることが出来る⑤(グループごとに相談の上、使用教室を調整すること)						
10回目	それぞれの役割に沿って準備をすることが出来る⑥(グループごとに相談の上、使用教室を調整すること)						
11回目	それぞれの役割に沿って準備をすることが出来る⑦(グループごとに相談の上、使用教室を調整すること)						
12回目	それぞれの役割に沿って準備をすることが出来る⑧(グループごとに相談の上、使用教室を調整すること)・リハーサル確認						
13回目	それぞれの役割に沿って準備をすることが出来る⑨(グループごとに相談の上、使用教室を調整すること)・リハーサル確認						
14回目	模擬挙式 披露①						
15回目	模擬挙式 披露②・総括						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	イベント実践	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
神戸・沖縄でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。							
【授業の学習内容】							
プランナーの仕事を理解し、打合せからどのような形で婚礼当日を迎えるのかを学ぶ。							
【到達目標】							
後期に行うパーティーがより良いものとなるように気を緩めずに授業に参加する。 プランナーとして打ち合わせでお聞きしたお客様のご要望、大切なポイントを取りこぼさずに資料に落とし込めるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	(ガイダンス)15回の授業を通して何を学び、身につけるのかを理解する。 (個別面談)短時間の個別面談を行い、ひとりひとりの現段階のウェディングに対する考えや気持ちを伺う。						
2回目	(資料の種類)プランナーが扱う資料にはどのような種類があるかを理解できるようになる						
3回目	(スケジュールの組み方)当日及び、当日までの打合せスケジュール、アポイントの取り方などを理解できるようになる						
4回目	(ヒアリングシート・申込書)なぜ書いていただくのか、どのような項目に注意して確認するのかを理解できるようになる						
5回目	(各種発注書)発注書を作成する際の注意点を理解できるようになる						
6回目	(各種進行表・BGMリスト①)何のために記入するのか、だれのために記入するのかを理解できるようになる						
7回目	(各種進行表・BGMリスト②)この資料を使用し、現場ではどのような動きが行われるかを理解できるようになる						
8回目	(見積書)どのような点に注意して作成し、お客様に説明するのかを理解できるようになる						
9回目	(打合せでのポイント)お客様と打合せをする中で落としてはいけないポイントを理解できるようになる						
10回目	(演習①)ペルソナに合せてサービス現場に何を伝えなければいけないかを理解し落とし込むことができるようになる						
11回目	(演習①)ペルソナに合せてサービス現場に何を伝えなければいけないかを理解し落とし込むことができるようになる						
12回目	(演習①)ペルソナに合せてサービス現場に何を伝えなければいけないかを理解し落とし込むことができるようになる						
13回目	(演習)第12回までの授業内容の理解度確認						
14回目	(内容解説)それぞれの問題に対するポイントと注意点の確認を行いより深く、内容を理解できるようになる						
15回目	(振り返り)半年間を振り返り、後期に向けての抱負、就職活動に向けての抱負を書くことで自己カウンセリングを行えるようになる 今後どのようなパーティーを実施するかを考えられるようになる						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	ブライダルフラワー	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。現在フリーランスで活動。 フラワー装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・AFT色彩検定1級・食空間コーディネーター							
【授業の学習内容】							
ブライダルフラワーに関する基礎知識・技術を学び、学内のディスプレイ装飾の企画施工に取り組む。							
【到達目標】							
アーティフィシャルフラワーの取り扱い、加工が出来るようになる。企画、制作、施工を一貫して取り組めるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	フラワー装飾について 道具の取り扱い、花材の取り扱いを知る。花材整理、棚ディスプレイを行う。
2回目	ドレス・ブーケ・ハイイメージに合わせたヘアパーツを提案・制作できるようになる。 カラーコーディネート、 ワイヤーリング・テーピングテクニック
3回目	コンセプトに合わせたブートニア、コサージュの提案・作成
4回目	ドレス・ブーケ・ハイイメージに合わせたリストレットを提案・制作できるようになる。 カラーコーディネート、 ワイヤーリング・テーピングテクニック
5回目	コンセプトに合わせたテーブルフラワーの提案・作成
6回目	ドレス・ブーケ・ハイイメージに合わせたラウンドブーケを提案・制作できるようになる。 カラーコーディネート、 ワイヤーリング・テーピングテクニック
7回目	8階EV前装飾 ヒアリングに向けて、ヒアリングの目的について知る
8回目	8階EV前装飾 ヒアリング ヒアリングのまとめ
9回目	8階4EV前装飾 プレゼン作成 コンceptシート・デザインシート・プレゼン資料づくり
10回目	8階EV前装飾 各自プレゼン発表(5分) デザイン決定・チーム分け
11回目	8階EV前装飾 花材発注・製作方法
12回目	8階EV前装飾 制作
13回目	8階EV前装飾 制作
14回目	8階EV前装飾 完成
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
筆記用具	

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	ブライダルメイク基礎	授業 形態	演習	単位数	2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
アーティストブランド(化粧品会社)での勤務を経て、その経験や色彩・メイクの知識を生かし講師となる。 JMA日本メイクアップ技術検定協会認定講師、シュウウエムラ認定講師、AFT認定色彩講師、東商1級カラーコーディネーター。							
【授業の学習内容】							
ブライダルのどの分野に携わってもヘアメイクの知識は必要不可欠。「メイクの基本理論」を学習。 まずは、自分自身の印象を左右する身だしなみメイクを学ぶ。 メイク実習を通して、道具の扱い方、接客ポイント等、花嫁様にアドバイスできる知識を学習する。							
【到達目標】							
セルフメイク実習を通しメイク理論を学び、接客にふさわしい身だしなみができるようになる。 身だしなみ好印象メイク・知識、接客力を身につける。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション) 授業の概要を理解し、美容道具の名称や衛生管理を学ぶようになる。						
2回目	(自己分析) 顔の基本プロポーションを学び、自分自身がどのような印象なのかを知り、顔の印象を分析できるようになる。 (スキンケア) スキンケアのアイテムの違い等を学び、正しいスキンケアができるようになる。						
3回目	セルフメイク①(ベースメイク) コントロールカラー、ファンデーション、コンシーラーの基礎を知り、様々なアイテムを使用して、ベースメイクを仕上げられるようになる。						
4回目	セルフメイク②(アイブロウ) アイブロウの基本を知識を知り、正しいバランスと自分に合ったアイテムで眉を描けるようになる。						
5回目	セルフメイク③(アイシャドウ) 基本知識、錯覚を学び、自分に合ったアイメイクに仕上げられるようになる						
6回目	セルフメイク④(アイライン) アイラインの基本の書き方、錯覚理論を知り、顔のバランスを変える事ができるようになる。						
7回目	セルフメイク⑤(ビューラー、マスカラ) アイメイクの基本を知識を知り、正しいバランスと自分に合ったアイテムを使いこなせるようになる。						
8回目	セルフメイク⑥(リップ) リップの基本知識を知り、正しく塗る事が出来る。						
9回目	セルフメイク⑦(チーク) チークの基本ののせ方、錯覚理論を知り、顔のバランスを変える事ができるようになる。						
10回目	セルフメイク⑧(コンシーラー) 基本知識、錯覚を学び、自分に合ったメイクに仕上げられるようになる						
11回目	セルフメイク⑨(フェイスシャドウ) フェイスシャドウの基本ののせ方、錯覚理論を知り、顔のバランスを変える事ができるようになる。リップの基本知識を知り、正しく塗る事が出来る。						
12回目	(セルフメイク) これまでのポイントを活かし、基本バランスでセルフメイクを完成させられるようになる。						
13回目	(セルフメイク) これまでのポイントを活かし、基本バランスでセルフメイクを完成させられるようになる。						
14回目	理解度チェック						
15回目	総復習						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
メイク道具一式							

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	宿泊オペレーションⅡ	授業 形態	演習	単位数	2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
複数の外資系、日系ホテル開業に携わり、ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントレセプションMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。現在はホテル・レストラン運営コンサルタントとして活動。スモールラグジュアリーホテル副総支配人。1996年第1回日本メートルドテルコンクール)第5位。全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュパティスト協会)主催レストランサーヴィスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サーヴィスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員。							
【授業の学習内容】							
ホテル業界の宿泊部門の解説及びオペレーションによる実施にて宿泊部門について勉強して頂き、授業後半部分においてはフロントキャッシャー & 宿泊予約などの宿泊部の宿泊プラン商品造成などを作成して頂き、より実務に近い授業にしたいと思います。							
【到達目標】							
フロントオフィス全般を理解する事と、客室清掃業務(ハウスキーピング)を理解して習熟することにより、自分の武器を一つ作成出来るようになる。							

回数	
1回目	ホテル見学：京都にある老舗高級ホテルのホスピタリティを学ぶ
2回目	客室タイプの基本(シングル・ダブル・ツイン)、特殊なタイプ(トリプル・スイート・メゾネット)ベッドタイプの違い、客室タイプによってどんな客層が利用するのかを理解する
3回目	宿泊料金システム(飲料込みのパターン含む)、その他特別レート、ホテルオリジナルの料金形態の説明。基本的な料金システムの名称を理解し、様々な特別レート、その需要について学ぶ。
4回目	フロントオフィスについての概要説明 ①
5回目	予約業務オペレーション概要の説明。宿泊オフィスでの売り上げを担う重要な役割であることを理解する
6回目	宿泊イールドマネージメントの6か月間の料金表の作成
7回目	宿泊予約の知識(電話予約の対応)必要な知識、受け答え、聞き間違えを防ぐコツを習得
8回目	予約からチェックインの解説 セグメント毎にチェックインの違いを解説する。
9回目	フロントスタッフのナイト業務(夜勤)の勤務における仕事内容の解説 P64
10回目	①客室稼働率 ②客室売上高率 ③1部屋当たりの平均客室売上高 ④販売可能な客室1部屋当たりの平均売上高の計算式を理解する。
11回目	ハウスキーピング ホテル研修
12回目	フロントキャッシャー業務の説明
13回目	フロントキャッシャー業務の小テスト
14回目	理解度チェック「ホテルビジネス実務検定ベーシック2級」1-2章の解説 PART1
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習 「ホテルビジネス実務検定ベーシック2級」1-2章の解説 PART2
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
ホテルビジネス 基礎編	

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	料飲・レストランオペレーションⅡ	授業 形態	演習	単位数	2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2000年6月神戸ポートピアホテル フレンチレストラン アランシャベル支配人に就任 2012年5月 トランテアン(アランシャベル閉店後のフレンチ)支配人に就任 2012年12月 日本料理神戸たむら 支配人に就任 2019年4月和食 中華グループ 7店舗レストランの統括支配人に就任 2023年7月料飲部 部長付支配人クオリティ担当に就任 またポートピアホテルで社内講師も兼任する。ホテル32年勤務のち 2023年11月人材会社 株式会社ホテリエスタッフ 西日本統括本部長就任 現在に至る。(有資格) ソムリエ HRS1級 西洋料理テーブルマナー講師 日本料理テーブルマナー講師 英検2級							
【授業の学習内容】							
初めは、ホテルから外食産業・その他幅広いレストランに興味を持つように全般的な概要で机上での講義形式で行います。またサービス基本実践の演習で各自実務基礎を習得させます。最後に実技試験シミュレーションを行うことで、緊張感を持って楽しく生徒が授業に取り組めるように致します。							
【到達目標】							
レストランに関して興味を持ってもらうため、料理や飲み物・サービスなど幅広く 奥が深いことを認識してもらいます。次に実践演習で初心者者のサービス実技を体験。そして最終はレストランサービスに必要なスキル課題を明確にし、課題実技スキルを習得してもらうことを最終の目標に致します。							

回数	
1回目	レストラン業務の基礎 好ましい言葉遣いを習得する。&サーバーの使い方実習
2回目	レストラン業務 迎賓～着席の流れをロールプレイニングで把握する。
3回目	フレンチレストランメニューの意味を知る。オーダーテーキングが出来るようになる。
4回目	ワインの分類、ぶどう品種、フランス6大ワイン産地を知る。& ワインサービス実習
5回目	宴会備品名称知識を得る&宴会セッティング実習(6名セット)
6回目	ホテルビジネス実務検定ベーシック2級3章 ①知識を得る&実習皿の持ち方(3枚持ち、4枚持ちが出来るようになる)
7回目	ホテルビジネス実務検定ベーシック2級3章 ②知識を得る&実習(和食のテーブルマナー)
8回目	ホテルビジネス実務検定ベーシック2級3章 ③知識を得る&実習(和食のテーブルマナーⅡ)
9回目	ホテルビジネス実務検定ベーシック2級4章 ③知識を得る。& スチュワード実習
10回目	ホテルビジネス実務検定ベーシック2級4章知識を得る。& テーブルデバラッセ実習(テーブルの下げ方)
11回目	ホテルビジネス実務検定ベーシック2級5章知識を得る。& フロマージュカット実習
12回目	後期試験シミュレーション
13回目	後期試験シミュレーションⅡ
14回目	後期筆記試験、実技試験
15回目	後期試験実技
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
日本ホテル教育センター『レストラン業務の基礎』 『ホテルビジネス 基礎編』	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	エアライン基礎Ⅱ	授業 形態	講義	単位数	2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2009年JALグループに新卒入社。先任客室乗務員としてVIPを含め旅客対応を担う。							
【授業の学習内容】							
航空業界の業界知識およびSPIなどの入試対策を行う							
【到達目標】							
前期で学んだ航空業界知識をより深め、入試問題に触れて、入試試験の傾向を知ることができる							

回数	
1回目	3レター・2レターカルタの作成/3レター・2レターの知識をより得ることができる
2回目	エアラインノートの作成/自分自身の企業研究のノートを作成することができる
3回目	航空業界の食事サービスについて知ることができる
4回目	Flight Readerを使用し、使用滑走路の見方などを知ることができる
5回目	【特別講義】日本航空の国際線CAを経験した講師による講義
6回目	航空業界の入社試験の傾向を知ることができる
7回目	SPIの試験対策を行うことができる
8回目	航空機の保有機材や特徴を知ることができる
9回目	エアライン用語を知ることができる
10回目	エアライン用語を用いたシュミレーションをができるようになる
11回目	エアラインプレゼンテーションの準備
12回目	エアラインプレゼンテーション
13回目	理解度チェックに向けた最終確認、復習
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
Air Stage	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	エアライン接遇Ⅱ	授業 形態	演習	単位数	2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
JALグループで2004～2018年まで先任客室乗務員として乗務する。安全で快適な空の旅を提供するとともに、安全担当として後輩育成にも注力してきた。							
【授業の学習内容】							
身だしなみ・立ち居振る舞いを磨き、エアライン業界に適応できる人材になることを目指す。採用試験に必要な第一印象・アイスブレイクトークの研究をする。各航空会社のサービスの違いを理解できるようになる。スピーチ・ディスカッションにより、自分の意見をまとめて発言する力を養う。							
【到達目標】							
エアライン受験の基礎となる基本的な立ち居振る舞いを実践できるようになる。後期終了時には、採用試験形式で受け答えが出来るようになる。							

回数	
1回目	①後期の授業内容を理解できるようになる。②自己エピソード発表③グループディスカッション④身だしなみ⑤アナウンス・発声についての研究
2回目	①身だしなみ②自己エピソード発表③ピックアップニュース④グループディスカッション⑤アナウンス・発声についての研究
3回目	①身だしなみ②ピックアップニュース③グループディスカッション④面接における質問事項の研究⑤発声練習
4回目	①身だしなみ②アナウンスレッスン③ピックアップニュース④面接における質問事項の研究⑤発声練習
5回目	①身だしなみ②発声練習③第一印象の研究・第一印象の重要性を知ることができる③面接形式での入退室が出来るようになる④ピックアップニュース⑤グループディスカッション
6回目	①身だしなみ②発声練習③ピックアップニュース④面接における質問事項の研究④アイスブレイクトークについての研究⑤入退室練習
7回目	①身だしなみ②アイスブレイクトークについての研究・初対面の人との雰囲気作りが出来るようになる③ピックアップニュース
8回目	ヘアメイク CA受験に適したヘアメイクを実践できるようになる
9回目	ピックアップ航空会社の機内サービスの研究・自分で選んだ航空会社の機内サービスについて理解できるようになる
10回目	ピックアップ航空会社の機内サービスの研究・自分で選んだ航空会社の機内サービスについて企画・実践できるようになる
11回目	研究発表(機内サービス想定実践) 三人
12回目	研究発表(機内サービス想定実践) 二人
13回目	研究発表の振り返り・グループディスカッション
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
Air Stage	

授業シラバス

科目名	外国語	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	Global Communication II	授業 形態	演習	単位数	2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
金襴短期大学英文科卒業。実用英語技能検定1級取得。英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U4.1 [be going to/will]を使って、週末の予定について話す
2回目	U4.2 [be going to/will]を使って、旅行の計画について話す
3回目	U4.3 心配や不安になる状況での会話を練習する
4回目	U4.4 イベント内容やスケジュールについての情報を伝えるメールを書く
5回目	U4.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「さまざまな人に異なるアクティビティをアサインする」 ・学期末プレゼンと連動する内容
6回目	U5.1 単純過去形を使って、失くしたものや、見つけたものについて話す
7回目	U5.2 単純過去形、過去進行形を使って、助けが必要になる場面での会話を練習する
8回目	U5.3 驚いたできごとについて話す
9回目	U5.4 短い物語を書く
10回目	U5.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「おもしろい、驚くストーリー」 ・学期末プレゼンと連動する内容
11回目	U6.1 数量詞を使って、都会の問題について話す
12回目	U6.2 現在・未来の条件節を使って、問題と解決策について話す
13回目	U6.3 [though]を使って反対意見を述べる練習をする 心配や安心を表す表現を使った会話を練習する
14回目	U6.4 価値観についてのネット投稿に対し、自分のコメント(考え)を書く
15回目	学期末プレゼン
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%／実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	
Evolve	

授業シラバス

科目名	外国語	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	英文法&英会話Ⅱ	授業 形態	講義	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U4.1 意見や反応を示す単語を学習する [be going to/will]を使った未来についての表現を学ぶ
2回目	U4.2 計画を立てる際の表現を学習する [will]をを用いた突然の決定、予定に関する表現を学ぶ
3回目	U4.3 語頭の/p/の発音を学ぶ 安心させる言葉、またその反応を学ぶ、[at least]を用いた表現を学ぶ
4回目	U4.4 イベントの内容、スケジュールについての英文メールの読み方、書き方を学ぶ 順序に関する表現を学ぶ
5回目	U4.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U5.1 ものを失くす、見つける際の表現を学ぶ 単純過去形の使い方を学ぶ
7回目	U5.2 助けを求める、助ける際の表現を学ぶ 単純過去形と過去進行形について学ぶ、復習する
8回目	U5.3 驚きを表す際の発音(ストレス)を学ぶ 驚いたことを示す、リアクションに関する表現を学ぶ
9回目	U5.4 短い物語を読み理解し、書き方を学ぶ
10回目	U5.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U6.1 都会の問題に関する表現を学ぶ 数量詞について学ぶ
12回目	U6.2 マナーに関する副詞を学ぶ [If/When]を用いた現在・未来の条件節を学ぶ
13回目	U6.3 語末のyの発音を学ぶ 様々な状況での心配、また安心を示す際の表現を学ぶ、[though]を使った反対意見の述べ方を学ぶ
14回目	U6.4 価値観についてのネット投稿を読み、書き方を学ぶ ライティングにおける質問文の書き方を学ぶ
15回目	U6.5 Unitの復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験

【使用教科書・教材・参考書】	
Evolve	

授業シラバス

科目名	エクステンションゼミ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	ホテル基礎	授業 形態	講義	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
老舗ホテルにて勤務後、講師として大学、短大、専門学校、企業などでの研修実績多数。産業カウンセラー、メンタルヘルスマネジメントなどの資格を習得。							
【授業の学習内容】							
ホテル業界について詳しく知り、将来のキャリアの選択肢として考察することができる。							
【到達目標】							
ホテル業界の全体構造と、各部門(フロント、客室、料飲など)の職種・業務内容を正確に理解する。 ホテリエに不可欠な接客マナー、コミュニケーション、ホスピタリティの基本スキルを習得する。							

回数	
1回目	オリエンテーション ホテルの役割と機能、分類(シティ、リゾート、ビジネスなど)。ホテル産業の歴史と今後のトレンドを知る。
2回目	ホテルの組織図と各部門の連携。部門横断的な業務の流れ(予約からチェックアウトまで)を学ぶ。
3回目	ホスピタリティとサービスの区別。顧客満足 (CS) と顧客感動 (CD) の考え方。ホテリエとしての心構えを学ぶ。
4回目	正しい挨拶、姿勢、表情、言葉遣い。TPOに応じたユニフォームと身だしなみを身につける。
5回目	フロントオフィス (FO) 業務の基本、接客スキルをロールプレイを通じて学ぶ。
6回目	ベル、ドア、コンシェルジュの役割 (客部門)を理解し、立ち居振る舞いを身につける。
7回目	ハウスキーピング (HK) と客室管理 (客部門)について学ぶ。
8回目	レストラン、宴会、バーなどのF&B部門の構成。サービスタイプ(テーブル、ビュッフェ)の知識を学ぶ。
9回目	バンケット準備を手順、片付け、テーブルサービススキルを学ぶ。
10回目	レストランにおけるサービススタッフの立ち居振る舞いを身につける。
11回目	ワインサービスの基礎を学ぶ。
12回目	災害、緊急事態への対応。防犯対策とゲストのプライバシー保護。危機管理の基本を学ぶ。
13回目	外国人ゲストへの対応。宗教や文化による配慮事項。国際的なサービス基準を理解する。
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が作成したレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	エクステンションゼミ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	ブライダル基礎	授業 形態	講義	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
神戸・沖縄でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。							
【授業の学習内容】							
テキスト「ブライダルの基礎知識」をもとに、ブライダルにおける仕事や役割を理解する検定試験対策。单元ごとに小テストを行い、学びを習得する。							
【到達目標】							
ブライダルの基礎を歴史から学び、必要性を知る。							

回数	
1回目	1. オリエンテーション ブライダルの仕事には、どのようなものがあるのか理解することができる。
2回目	13. 接客の知識 最高峰のおもてなしを提供するブライダルの現場において必要な接客の知識を理解することができる。(小テスト①)
3回目	2. 結婚式の種類① 結婚式の種類を学び、それぞれの特徴や違いを理解することができる。
4回目	2. 結婚式の種類② 結婚式の種類を学び、それぞれの特徴や違いを理解することができる。(小テスト②)
5回目	3. 日本の婚礼の歴史 日本における婚礼の歴史を理解することができる。(小テスト③)
6回目	4. 結納、婚約の現状 結納の意義やしきたり、婚約について理解し、説明できるようになる。(小テスト④)
7回目	5. セレモニー・レセプションの現状とトレンド 多様化する結婚式の現状とニーズを理解することができる。(小テスト⑤)
8回目	6. カラーコーディネート 「色」の力を理解し、「色」の組み合わせから、イメージ作りをすることができる。(小テスト⑥)
9回目	7. フラワーコーディネート 結婚式におけるフラワー装飾(会場装花、ブーケなど)について理解し、説明できるようになる。(小テスト⑦)
10回目	1章。ウェディングの基本について理解度の確認と復習
11回目	8. 婚礼衣裳の基本コーディネート① 基本的な婚礼衣裳の特徴と専門用語を理解し、説明できるようになる。
12回目	8. 婚礼衣裳の基本コーディネート② 基本的な婚礼衣裳の特徴と専門用語を理解し、説明できるようになる。(小テスト⑧)
13回目	9. フォーマルファッション 会場やT・P・Oに合わせた衣裳の特徴を理解し、説明できるようになる。(小テスト⑨)
14回目	10. 和装コーディネート 江戸時代から繋がる和装の婚礼衣装についての知識を理解し、説明できるようになる。(小テスト⑩)
15回目	11. フォトスタイリング 花嫁を美しく撮るために必要な知識を理解することができる。(小テスト⑪)
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業におけるの評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名	海外実学研修	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	海外実学研修	授業 形態	演習	単位数	4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
College of Southern Nevada観光学部卒業後、アメリカ・日本の旅行会社で勤務。							
【授業の学習内容】							
国際感覚、異文化理解力、問題解決能力、自己成長能力を総合的に高める。							
【到達目標】							
研修経験を自己評価し、将来のキャリアパスや専門性向上への具体的な展望を持つことができる。							

回数	
1回目	オリエンテーション プログラム参加に向けて、目的(スキルアップ、キャリア探索、文化体験)を確認できる
2回目	・研修先での人間関係の構築、実践的な言語能力、チームワークとコミュニケーション技法を学ぶ ・達成目標に対する進捗確認と、経験から得られた能力・意識の言語化を行う
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	全体の総括
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ キャリア教育	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	キャリアプログラムⅢ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
専門学校を卒業後、株式会社ひらまつにて、レストランウェディングにて勤務。その後、こども写真館・フォトウェディングのプランナー等を経験。老若男女幅広い年齢層のお客様へ接客を行う。							
【授業の学習内容】							
学校生活をより充実させる為の学校・クラスルールを理解する。また学校行事や授業スケジュールの再確認をする。 社会人基礎力を身につける。							
【到達目標】							
自己肯定と他己肯定が出来るようになる（自分とクラスメイトを受けいれ、肯定する） 人に伝わる自己表現ができるようになる 人の話を聞く姿勢が理解できるようになる							

回数	授業計画・内容
1回目	キャリアプログラムの目的、学校ルールを再確認する
2回目	目標・目的・手段の違いを知り、卒業までの目標を改めて立てる
3回目	専門式場見学：企業について深く理解する
4回目	『聞き上手』『話し上手』の技法を知ることができる
5回目	相手に『自分らしさ』を伝えることができるようになる
6回目	どのように反応を示せば、聴く側の熱意を効果的に伝えることができるのか傾聴力を身につける
7回目	特別講義：講義を通して、夢を実現する方法を知る
8回目	ポートフォリオの活用方法を理解し、作成する
9回目	これまでの人生を振り返り、ライフチャートの作成をする
10回目	ドレスショップ見学：企業について深く理解する
11回目	認知特性を知り、自分の学習タイプを知って、対策方法を見つける
12回目	特別講義：講義を通して、夢を実現する方法を知る
13回目	学んだ伝え方を活かして自己紹介文を考える
14回目	自己紹介を、一人1～2分程度で発表する
15回目	前期授業の振り返りを行う
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験： 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	マナー・プロトコール 検定2級	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ&インクルーシブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、グローバル化する社会で習得すべきプロトコール、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコールを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。							
【到達目標】							
・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」など目に見える「形」として表現できるようになる。 ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコール」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。 ・前期授業終了後に学内で実施するマナー・プロトコール検定3級にチャレンジし、合格する。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション:授業の目的、進め方等を理解できる。また、マナー・プロトコール検定3級の検定概要が理解できる 序章 マナーとは何か:慶事・弔事の意味、マナー・エチケット・礼儀・作法の違い、マナーやプロトコールを学ぶ意義、日本の礼儀・作法の成り立ちについて説明できるようになる						
2回目	第1章 マナーの歴史と意味:西洋のマナー、エチケットの成り立ち、アジアのマナーの特徴について説明できるようになる 確認テスト①:序章・第1章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 第2章 国際人としてのプロトコール:プロトコールの原則、具体的な席次例について説明できるようになる						
3回目	第2章 国際人としてのプロトコール:社交の場でのコミュニケーション(パーティの種類、パーティのマナー)、握手と紹介、外国人への贈り物について、説明できるようになる						
4回目	第2章 国際人としてのプロトコール:国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーションについて説明できるようになる 確認テスト②:第2章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 第3章 社会人に必要なマナー:好印象を与えるコミュニケーションとは(第一印象・挨拶・お辞儀・表情・身だしなみ・立ち居振る舞い)について説明できるようになる						
5回目	第3章 社会人に必要なマナー:好印象を与えるコミュニケーションとは(言葉遣い・聴き方の基本・話し方の基本)、礼装の基準について説明できるようになる						
6回目	第3章 社会人に必要なマナー:喜ばれる贈答・手紙のマナーについて説明できるようになる 確認テスト③:第3章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 定期テスト①:序章～第3章を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる						
7回目	定期テスト①の振り返りを行うことで自身の現状を明確に把握できる 第4章 ビジネスシーンのマナー:ビジネスマナーの必要性、社会人としての心構え、名刺の扱い方、電話対応、トラブル対応、来客対応について説明できるようになる						
8回目	第4章 ビジネスシーンのマナー:ビジネス文書のマナーについて説明できるようになる 確認テスト④:第4章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 第5章 食事のマナー:食事の作法の基本、和食のマナー、和室の作法について説明できるようになる						
9回目	第5章 食事のマナー:、西洋料理のマナー、中国料理・各国料理のマナーについて説明できるようになる 確認テスト⑤:第5章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 定期テスト②:第4章～第5章を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる						
10回目	定期テスト②の振り返りを行うことで自身の現状を明確に把握できる 第7章 「冠」のしきたり:冠婚葬祭とは、日本の主な通過儀礼(人生の節目のしきたり、出産祝い、七五三のお祝い、入園・入学祝い、年祝い、その他のお祝い事)について説明できるようになる						
11回目	確認テスト⑥:第7章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 第8章 「婚」のしきたり:結婚の変遷、結婚式のマナー(挙式のスタイル、服装のルール、招待状のマナー、会場でのマナー)について説明できるようになる 第9章 「葬」のしきたり:仏式の葬儀、神式の葬儀、キリスト教式の葬儀について説明できるようになる						
12回目	第9章 「葬」のしきたり:葬儀・告別式でのマナー、法要のしきたりについて説明できるようになる 確認テスト⑦:第8・9章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 第10章 「祭」のしきたり:1～2月の行事について説明できるようになる						
13回目	第10章 「祭」のしきたり:3～12月の行事について説明できるようになる 確認テスト⑧:第10章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 定期テスト③:第7章～10章を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業における評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
マナー＆プロトコールの基礎知識、マナー・プロトコール検定2級・3級問題集、テスト等の講師配布資料							

授業シラバス

科目名	課題制作	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	企業プロジェクトⅠ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
スタートアップ企業の立ち上げ、経営実務、マーケティング実務の経験を有する。現在はフリーランスとして主に企業への戦略立案支援、社会人・学生への思考系及びマーケティング系の研修講師を行う。							
【授業の学習内容】							
MiaVia様の企業課題にむけて取り組む。							
【到達目標】							
1年生の授業「マーケティングリサーチ」の手法を活かして実現可能性の高い企画提案を行う。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション前準備：チーム確認・MiaVia会場調べ・オリエンテーション時の質疑応答の内容検討						
2回目	オリエンテーション@MiaVia						
3回目	グループごとに気になったハード面の洗い出しおよび、好感の持てるハード面・イメージの選定						
4回目	どのような会場（ハード面）を提案するか、キーワード・テーマを探る						
5回目	決定したテーマの理由および根拠、その効果を探る①						
6回目	決定したテーマの理由および根拠、その効果を探る②						
7回目	中間プレゼンに向けてPPT制作・コメント準備						
8回目	中間プレゼンに向けてPPT仕上げ・コメント確認およびリハーサル						
9回目	中間プレゼンテーション@オンライン						
10回目	フィードバックを元にグループごとに方向性、内容の再検討						
11回目	グループごとにデータ調査・分析②						
12回目	グループごとにデータ調査・分析③						
13回目	最終プレゼンテーションに向け、PPT仕上げ、コメント確認						
14回目	最終プレゼンテーションに向けリハーサル						
15回目	最終プレゼンテーション						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	業界研究	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	就職対策Ⅱ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
老舗ホテルにて勤務後、講師として大学、短大、専門学校、企業などでの研修実績多数。産業カウンセラー、メンタルヘルスマネジメントなどの資格を習得。							
【授業の学習内容】							
1年次に学んだ「就職対策Ⅰ・Ⅱ」に続き、自己分析と企業研究を深め、より具体的に的確に他者に伝えられるようにしていきます。 7月と9月に実施予定の模擬面接会で、完璧でなくとも、準備を整えて参加できるようにします。夏ごろから始まるインターンシップにも対応できる、社会人としての基礎的な力を養いつつ、秋以降本格的に始まる就職活動に向けて、「学チカ」を作るべく、校内行事やアルバイトにも積極的にに関わり、自己の強みを抽出します。自分の経験を的確に言語化する習慣もつけていきましょう。							
【到達目標】							
1, 就職活動に向けての自己分析と企業研究をより深めることができるようになる。 2, 自己分析で得た自己理解を、的確に印象よく伝えることができるようになる。 3, 自分が働きたい業界の現状を正確に把握し、就職希望先を具体的にイメージし、その希望理由を言語化して伝えることができるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	この講義で学ぶ内容を理解し、年間行事や資格試験などスケジュールを組み、年間計画を立てることができる。 就職活動までの具体的な日程を把握し、効果的に過ごすことができる。						
2回目	【企業研究】企業研究をどのようにしたらいいのか、具体的に理解できるようになる。						
3回目	【企業研究】ブライダル業界誌「ゼクシィ」を用いて、自分が気になる施設について調査することができる。 その調査した施設について、イキイキと紹介できるようになる。						
4回目	【自己分析】自分の過去の経験や学びについて、具体的にPREP法を用いて、伝えることができるようになる。						
5回目	【自己分析】自分が具体的にどのような地域、施設で働きたいと考えているのか、その理由も含めて理解し、伝えられるようになる。						
6回目	【自己分析】今までの専門学校の学びの中から、「学チカ」となるエピソードを抽出し、他者にわかりやすく伝えることができるようになる。						
7回目	履歴書の書き方の基本を知ることができるようになる。履歴書の左側を埋めることができるようになる。						
8回目	履歴書の右側の書き方のポイントを知ることができるようになる。印象のよい書き方のポイントについて知ることができる。 自己PRを書くことができる。						
9回目	学チカと現段階での志望先の志望理由をまとめ、文章化、言語化できるようになる。						
10回目	【履歴書提出】グループ面接の際の注意点について知ることができるようになる。						
11回目	模擬面接練習。自分の面接の様子を録画することにより、客観的に改善点を把握することができる。						
12回目	実際の就職活動におけるエントリーシートの質問内容について知ることができる。 その質問に自分なりに応えられるようになる。						
13回目	グループ面接実技練習。伝える内容、伝え方について実践演習とブラッシュアップを繰り返すことができる。						
14回目	理解度チェック グループ面接実技						
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習、実技試験の振り返り						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	業界研究	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ブライダル業界研究	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
1998年から2000年までアルバイトで披露宴のアシスタントを経験し、2000年～2007年までホテルモントレグループにてキャプテン・ウエディングプランナーとして勤務 年間120件の施行をこなす。披露宴の施行から打合せ、媒体(XY・Lei等)HP運営、エージェントセールス 新人トレーニングに従事。							
【授業の学習内容】							
披露宴の総責任者であるキャプテンの仕事を通して披露宴全体の流れ、披露宴における役割を理解する。又卓上セッティング、接遇サービスを通しテーブルマナーを身に着ける。							
【到達目標】							
最高の披露宴を作り上げる為に、キャプテンの仕事を理解し、プランナーが新郎新婦と打合せの際に二人の希望を叶える為にどのような打合せをすればいいのか自ら考え提案できるようになる。又おもてなしを受ける、おもてなしを提供するエチケットやテーブルマナーを身に着ける。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション 自己紹介 披露宴の基礎知識/(発声練習・接客7大用語・笑顔・姿勢の練習・ウォーキング)※5/26まで繰り返し行います。						
2回目	実習1:披露宴の基礎知識 (テーブルの扱い方・クロスのかけ方・卓上セッティング) シルバーセッティングを通し基本のテーブルマナーを学ぶ エチケット・マナー・プロトコルの違い						
3回目	実習2:披露宴の基礎知識 (テーブルの扱い方・クロスのかけ方・卓上セッティング・チェアサービス・プロトコル) テーブルマナー:フランス料理 シルバー類の使い方・大人の為のテーブルマナー・美しい食べ方1						
4回目	実習3:披露宴の基礎知識 (クロス張り・卓上セッティング・シャンパン・ワイン・グラスサービス トレーの使い方 プレートサービス3枚持ち) 披露宴テーブル担当挨拶 テーブルマナー:フランス料理 美しい食べ方2						
5回目	実習4:披露宴の基礎知識 (クロス張り・卓上セッティング・シャンパン・ワイン・グラスサービス トレーの使い方 プレートサービス3枚持ち) 披露宴テーブル担当挨拶 テーブルマナー:フランス料理 美しい食べ方3ワイン編						
6回目	実習5:披露宴の基礎知識 (クロス張り・卓上セッティング・シャンパン・ワイン・グラスサービス トレーの使い方 プレートサービス3枚持ち) 披露宴テーブル担当挨拶 実技試験対策(ボトルサービス・プレートサービス)						
7回目	実技確認(ボトルサービス・プレートサービス)/披露宴の基礎知識 披露宴に関わるスタッフの説明(披露宴を円滑に進める為の配役について)						
8回目	テーブルマナー実践 フランス料理						
9回目	披露宴の仕事:キャプテン業務 アシスタント業務 各配役の仕事を理解する。ゲストハウスとホテルの違い キャプテンの入場説明 テーブルマナー:和食・和懐石 日本の歳時記						
10回目	実技試験対策(キャプテンの入場説明)/模擬披露宴の配役決め テーブルマナー:日本の歳時記 中華料理						
11回目	実技確認(新郎・新婦への入場説明)/模擬披露宴リハーサル						
12回目	模擬披露宴 各配役に付き披露宴の流れを理解する。また、配役の仕事内容を次の担当者に説明し、仕事内容を説明できるようになる。						
13回目	披露宴当日の流れ ウェディングプランナーが新郎新婦との披露宴の打合せの際に気を付けること(会場のキャパシティ・配席表・進行表)、テスト範囲説明 テーブルマナー:韓国料理						
14回目	理解度チェック						
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ教養	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ホスピタリティ教養Ⅰ	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
五感ワークデザイン主催・代表:メーカーでマーチャンダイザーとしてリアルとオンラインのマーケティングや人間行動心理学に基づく旗艦店設計を実施後、ブランディングデザイン会社でコーポレートブランディングに従事。現在は企業の課題解決プログラムを設計(リーダーシップコーチング・成果を出すチーム)・企業ブランディング(ビジョン・ミッション・バリュー・パーパス設定とコンセプト設定)・パーソナルブランディングやセルフネジメントを実施。アントレプレナーシッププログラム(ビジネスモデル)を社会人・大学生・中高生対象に企業や学校と連携して実施。							
【授業の学習内容】							
・インバウンド観光客と接する上での基礎教養として、日本の歴史を学ぶ。 ・日本の近現代史の知識から、現在の日本と世界との関係を理解する。 ・学び方を学び、職業人としての生き方を学ぶ。							
【到達目標】							
・日本史の基礎知識を身につける。 ・世界の中の日本という観点で、日本と他の国や地域との交流の歴史について一定の理解をする。 ・自分だからこそ語れる日本史及び日本文化についての得意素材を獲得する。							

回数	
1回目	①オリエンテーションとして、忍者の歴史に触れる。 ②より面白い日本史講義になるために学生と共に考える。 ③結果から原因を考える川下から攻める日本史攻略概説。 ①～③をとおり、何をどのように学びどのような力を身につけるか、つけなければならないのかを理解する。
2回目	①日本の現代史を徹底的に語りつくしてみよう。②10年をひとくくりとしてで現代史を考えてみよう。③外国から見た日本とは。 ④ ①～③を通し「なぜ？」を大切にす態度を育成する。
3回目	①明治維新から終戦までの近代という時代。②戦後から今までの現代と近代を比較してみよう。 ③外国と日本の関係を考える。 ④ ①～③をふまえ、あるべきおもてなしの態度を考える。
4回目	①戦国時代から江戸時代のいわゆる近世。②近世と近代の大きな違い。③近世と現代比較。 ④世界の中の当時の日本という視点で考えてみる。
5回目	①中世という時代。平安後期から鎌倉時代、室町時代。②中世と近世の違い。
6回目	①古代。古墳時代から飛鳥時代、奈良時代、平安時代まで。②古代と中世の決定的な違い。
7回目	①日本の先史時代の概略 ②日本の歴史書について 理解し、論じることができる。
8回目	①大阪の歴史 ②難波の堀江 ③新大阪 それぞれの歴史を理解し、論じることができる。
9回目	①サムライというもの ②日本刀 について理解し、論じることができる。
10回目	①司馬遼太郎先生という歴史作家 ②街道を行ってみた ③研究課題の設定
11回目	日本文化としての歌舞伎について理解し、論じることができる。
12回目	日本文化としての能、狂言について理解し、論じることができる。
13回目	有名な寺社仏閣について理解し、論じることができる。
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェックの解説／学期末の振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験

【使用教科書・教材・参考書】
講師が用意したレジュメを使用

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	TOEIC I	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2006年より各種大学・専門学校・民間英語スクールにて英語講師として勤務、その他、通訳、字幕翻訳、書籍の執筆等の業務に従事							
【授業の学習内容】							
TOEIC® L&Rテストの出題形式と時間配分を完全に理解し、効率的な解答戦略を習得すること。ビジネス・日常英語の語彙力と文法力を強化し、実力に裏打ちされたスコアアップを実現することを目指す。							
【到達目標】							
TOEIC® L&Rテスト全7パートの出題傾向と解答戦略を完全に把握し、実践できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション TOEICの構成(L&R全7パート)、目標スコア設定、学習スケジュールの確認
2回目	頻出する動詞(状態、動作)、場所を表す前置詞、写真の人・物の焦点の見極め方を学ぶ
3回目	5W1H、Yes/No疑問文、付加疑問文など、疑問詞の種類と応答パターン。間接的な応答の聞き取りを学ぶ
4回目	アメリカ英語とイギリス英語の発音・アクセントの違い。リエゾン(音の繋がり)とリダクション(音の脱落)を学ぶ
5回目	問題と選択肢の先読みテクニック。会話の流れと話者の意図を読み取る集中カトレーニング
6回目	職場、交通、会議、カスタマーサービスなど、会話の典型的なパターンと質問への結びつきを学ぶ
7回目	模擬試験①
8回目	天気予報、広告、留守番電話メッセージなど、具体的な情報や次にとるべき行動を示す部分の聞き取りを学ぶ
9回目	スコアに直結するビジネスシーンで多用される動詞・名詞・句動詞の暗記と例文確認
10回目	契約、投資、発注、出荷など、専門性の高い語彙の習得
11回目	模擬試験②
12回目	時間を意識したリスニングセクション全パートの模擬演習。聞き逃しを防ぐ戦略の確認
13回目	現在完了、過去完了、未来完了など、複雑な時制の正確な選択。動詞の形(受動態、分詞)を学ぶ
14回目	模擬試験③
15回目	制限時間内でリスニングセクション(Part 1-4)を実施し、前半の学習成果を確認する
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを毎回配布する	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ホスピタリティ実践	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
国家資格キャリアコンサルタント。自己分析・他者理解・相互理解による関係性構築力を目的とした能力開発のための研修やセミナーを行う。自分らしさを仕事に活かすことを目的とした就活生のための自己分析シート作成セミナーを実施している。人間関係促進ツールのためのカラータイプ®理論をテーマに日本マーケティング学会に共論文3本あり。							
【授業の学習内容】							
地域社会やイベントでのボランティアワークに積極的に参加することを通じて、ホスピタリティ産業に共通する実践的なスキルとプロフェッショナルなマインドを習得する							
【到達目標】							
ホスピタリティの具現化: 見返りを求めないサービスの本質を理解し、相手のニーズを先読みして自発的な行動を通じてホスピタリティを体現できる。 状況対応力と問題解決: 予測不可能なボランティアの現場で発生する様々な状況や突発的な問題に対し、冷静かつ適切に対応できる。 専門分野を超えた協働: 異なる専門(ホテル、エアライン、観光)を持つチームメンバーと効果的に連携し、目標を達成できる。 体験の言語化: ボランティア経験から得た気づきやスキルを論理的に分析・言語化し、自身のキャリアプランに結びつけられる。							

回数	
1回目	ボランティア活動先の選定を行う。ホスピタリティの定義(マインドとスキル)、「無償のサービス」の価値を学ぶ
2回目	それぞれの専門性を理解し、活動チームを結成。活動計画の立案とタスクの分担ができる
3回目	ボランティア実践ワーク①
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	実践ワークの振り返りを行い、次回ワークの準備を行う
9回目	ボランティア実践ワーク②
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	プレゼンテーション:実践ワークを通じて学んだこと、キャリアに活かしたい点をまとめて発表する
15回目	フィードバック、前期の振り返りを行う
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	

講師が用意したレジュメを毎回配布する

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	サービス介助士	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製菓会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ＆インクルーシブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
ホスピタリティ産業に従事するプロとして必須となる、高齢者や障がいを持つお客様への適切な接客と介助技術を習得する。							
【到達目標】							
サービス介助士資格取得を目指す。							
回数	授業計画・内容						
1回目	サービス介助士の理念と役割、ホスピタリティ産業における介助の重要性、バリアフリーとユニバーサルデザインの概念を理解する。						
2回目	高齢者の身体的・精神的な変化と特徴、心理的サポート、共感と傾聴の接客技術を身につける。						
3回目	視覚障がいの種類と程度、白杖の役割、街中や施設における危険、声かけの基本を理解する。						
4回目	歩行介助の基本(手引き)、階段の上り下り、椅子への誘導、情報伝達の実技トレーニング。						
5回目	聴覚障がいの種類、コミュニケーション方法(筆談、ジェスチャー、簡単な手話)、情報保障の提供を理解する。						
6回目	車椅子の基本構造と種類、操作の注意点、介助の心構えを身につける						
7回目	車椅子の展開・格納、基本的な押し方、方向転換、段差の乗り越え(前輪上げ)を習得する。						
8回目	急な坂道、狭い場所での操作、ドアの開閉、公共交通機関利用時の介助を習得する。						
9回目	内部障がい(心臓、腎臓など)、精神障がい、発達障がいの特徴と、適切な配慮。ヘルプマークの意義を理解する。						
10回目	杖や補助具を使用する方への対応、手荷物の介助、着替えや食事のサポートの基礎を学ぶ。						
11回目	介助中に体調不良が発生した場合の対応、AEDや初期救護の基礎、安全な環境づくりを理解する。						
12回目	接客心理、介助の理念、関連法規(バリアフリー法、障害者差別解消法など)の確認を行う。						
13回目	各種障がい、高齢者理解に関する知識問題の総チェックと解説を行う。						
14回目	理解度チェック・習熟度を確認する						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験／筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
サービス介助士資格取得講座テキスト							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	電話応対	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
国家資格キャリアコンサルタント。自己分析・他者理解・相互理解による関係性構築力を目的とした能力開発のための研修やセミナーを行う。自分らしさを仕事に活かすことを目的とした就活生のための自己分析シート作成セミナーを実施している。人間関係促進ツールのためのカラータイプ®理論をテーマに日本マーケティング学会に共論文3本あり。							
【授業の学習内容】							
業種、業界問わず、社会人になくてはならないビジネススキルの一つに電話応対スキルがある。取引先やお客様との電話応対を正確、迅速、丁寧に行うことができれば、企業イメージの向上につながり、CS実現にもつながる。当授業は、ビジネスにおける電話応対の重要性や具体的な知識・スキル・マインドを学び、習得するものである。実践型授業に積極的に参加していただくことにより、自身の電話応対に自信をつけることができ、就職活動や社会人生活におけるキャリア形成に役立てていただける。							
【到達目標】							
・電話応対の重要性を理解し、好印象を与える電話応対が実践できるようになる。 ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「電話応対知識・スキル・マインド」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。							

回数	
1回目	オリエンテーションにより、授業の目的、進め方等を理解できる 基本マナーについて正しい知識を持つとともに、説明できるようになる 口の開閉練習、基本の五十音練習、滑舌強化練習を通じて、音声表現の重要性を知り、実践できるようになる
2回目	オープニング、取次ぎのマナーについて正しい知識を持つとともに、練習を通じて、オープニング、取次ぎについて実践できるようになる 発表①の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
3回目	発表①の発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる 間合い・スピード改善練習、顔の表情・姿勢を意識した音声練習、抑揚強化練習、際立たせ(プロミネンス)強化練習、電話応対でよく使うフレーズ強化練習、口癖・話し癖改善ワークを通じて、音声表現の重要性を知り、実践できるようになる
4回目	言葉遣い(1)について正しい知識を持ち、実践できるようになる 発表②の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
5回目	発表②の発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 言葉遣い(2)について正しい知識を持ち、実践できるようになる
6回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる コミュニケーション(1)について正しい知識を持ち、実践できるようになる 発表③の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
7回目	発表③の発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる コミュニケーション(2)について正しい知識を持ち、実践できるようになる
8回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 発表④の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
9回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる クレーム応対について正しい知識を持ち、実践できるようになる 発表⑤の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
10回目	発表⑤の発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 就職活動時の電話応対について正しい知識を持ち、実践できるようになる
11回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 発表⑥の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
12回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 発表⑦の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
13回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 発表⑧の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
14回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 発表⑨の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
15回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 総合発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	

講師が準備したレジュメを配布

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ウェディング実践Ⅱ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
1998年から2000年までアルバイトで披露宴のアシスタントを経験し、2000年～2007年までホテルモントレグループにてキャプテン・ウェディングプランナーとして勤務 年間120件の施行をこなす。 披露宴の施行から打合せ、媒体(XY・Lei等)HP運営、エージェントセールス 新人トレーニングに従事。							
【授業の学習内容】							
披露宴の総責任者であるキャプテンの仕事を通して披露宴全体の流れ、披露宴における役割を理解する。又卓上セッティング、接遇サービスを通しテーブルマナーを身に着ける。							
【到達目標】							
最高の披露宴を作り上げる為に、キャプテンの仕事を理解し、プランナーが新郎新婦と打合せの際に二人の希望を叶える為にどのような打合せをすればいいのか自ら考え提案できるようになる。又おもてなしを受ける、おもてなしを提供するエチケットやテーブルマナーを身に着ける							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション ホテル業界とは概要を理解します。						
2回目	ホテル業界の現状と今後の動向、ホテルの収益構造、ホテル経営で大切にしないといけないことを理解します。ホテルアフタヌーンティーが今人気の訳、アフタヌーンティーから見る集客方法、適正価格設定、ターゲット層設定、各ホテルのアフタヌーンティー 前半を理解します。						
3回目	ホテル業界の現状と今後の動向、ホテルの収益構造、ホテル経営で大切にしないといけないことを理解します。ホテルアフタヌーンティーが今人気の訳、アフタヌーンティーから見る集客方法、適正価格設定、ターゲット層設定、各ホテルのアフタヌーンティー 後半を理解します。						
4回目	ホテルの組織図、各部門ごとの仕事について理解します。						
5回目	ナショナルホテル・外資系ホテル今年の募集要項・初任給、外資系ホテルブランド一覧、世界のホテルグループにつて理解します。						
6回目	課題1 企業研究①ホテルについて調べレポート提出を提出（宿泊・レストラン）						
7回目	課題2 企業研究②ホテルについて調べレポート提出を提出(就職)						
8回目	課題3 企業研究③ホテルについて調べレポート提出を提出(ブライダル)						
9回目	婚姻件数の推移、婚礼平均単価(ゲストハウス、ホテル)、ホテルウェディングの強み、ゲストハウスとの差別化について理解します。						
10回目	①ホテルウェディングの強み、ゲストハウスとの差別化、ゲストハウスが競合の際の接客ロープレを行い、新規接客が出来るようになる						
11回目	②ホテルウェディングの強み、ゲストハウスとの差別化、ゲストハウスが競合の際の接客ロープレを行い、新規接客が出来るようになる						
12回目	ホテルウェディングをプランニング出来るようになる						
13回目	ホテルウェディング、ブライダルフェアとは、ホテルブライダルフェアをプランニング出来るようになる						
14回目	ホテルウェディング、ブライダルフェアとは、ホテルブライダルフェアをプランニング出来るようになる						
15回目	ホテルブライダルフェアをプランニング出来るようになる						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ブライダルトータルコーディネートⅠ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。現在フリーランスで活動。 フラワー装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・AFT色彩検定1級・食空間コーディネーター							
【授業の学習内容】							
テーマ、コンセプトに沿った空間装飾のデザイン、提案、発注、制作、施工を一貫して行う ・校内装飾の完成。							
【到達目標】							
企画、制作、施工を一貫して取り組めるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	リアルWD振り返りと片付け ・後期について ・片付け						
2回目	リアルWDデザインシート作成 役割分担 zoom打合せ11:00～						
3回目	ご両家様リアルWDデザインシート完成&リアルへ提出 ・8階EV前装飾続き						
4回目	リアルウェディング・8階EV装飾続き						
5回目	8階EV前装飾完成						
6回目	フラワーアレンジメント生花実習① 吸水スポンジの扱い方、生花の扱い方						
7回目	フラワーアレンジメント生花実習② テーブルクロス						
8回目	フラワーアレンジメント生花実習③						
9回目	リアルウェディング準備						
10回目	リアルウェディング準備						
11回目	リアルウェディング振り返り・片付け						
12回目	チャペル装飾 ヒアリング ・デザイン、発注、役割分担						
13回目	チャペル装飾						
14回目	チャペル装飾 完成						
15回目	理解度チェック(欠席者)/復習						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
筆記用具							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ブライダルヘア&メイクⅠ	授業形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
ブライダルヘアメイクアーティストとして長年活動、講師業も行いながら現在に至る。 ブライダル現場でのノウハウを伝える授業の他、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA shu-uemura認定講師も兼任し、メイクアップ技術の養成に携わっている							
【授業の学習内容】							
お客様へのメイク接客を意識した知識・施術を学んでいきます。							
【到達目標】							
お客様のお顔を分析し、ベースメイク～ポイントメイクまで、基本バランスのメイクになるように適切な技術を身に付けます。							
回数	授業計画・内容						
1回目	【オリエンテーション】 授業の概要を理解し、美容道具の名称や役割・衛生管理を学ぶ。接客セッティングができるようになる。						
2回目	【印象分析】 顔分析を学び、自分自身や人の持つ個性を知る事ができる。 基本バランスのメイクを知ることができる。						
3回目	【ベースメイク①】コントロールカラー～ファンデーション～コンシーラー～パウダーまでの基礎を知り仕上げられるようになる。						
4回目	【ポイントメイク① アイブロウ】アイブロウの基本バランスを知り仕上げられるようになる。眉の修正方法を学ぶ。						
5回目	【ポイントメイク② アイメイク】 アイシャドウ・アイライン・ビューラー・マスカラの基礎技術を学び仕上げられるようになる。						
6回目	【ポイントメイク③ チーク・ハイライロ・ローライト】 修整理論を知りチーク・ハイライトローライトで顔のバランスを整えることができるようになる。						
7回目	【ポイントメイク④ リップ】 リップメイクの基礎知識を知り、正しく塗る事ができるようになる。						
8回目	【相モデル実習① ベースメイク】 相手の肌状態を見極め、美しいベースメイクを作り上げることができるようになる。						
9回目	【相モデル実習② アイブロウ】 必要なアイテムを見極め、モデルの眉をきれいに描けるようになる。						
10回目	【相モデル実習③ アイメイク】 基本のアイメイクを理解し、モデルの目元を印象的に仕上げるができるようになる。						
11回目	【相モデル実習④】 モデルの顔型を分析し、チーク・ハイライト・ローライトでバランスを整えられるようになる。						
12回目	【相モデル実習⑤】 基本バランスに沿ったメイクを繰り返し練習し、きれいに仕上げられるようになる。(相モデルは毎回変更)						
13回目	【相モデル実習⑥】 基本バランスに沿ったメイクを繰り返し練習し、きれいに仕上げられるようになる。(相モデルは毎回変更)						
14回目	【実技チェック】基本バランスに沿ったメイクアップを仕上げられるようになる。						
15回目	【実技チェック欠席者&まとめ】これまでの内容を振り返り、内容を復習し、疑問点を解消することができるようになる						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
メイク道具一式							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ブライダル実務Ⅰ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
大学卒業後、病院秘書、旅行会社営業内勤を経て、2004年～ウェディングプランナーになる。ゲストハウス、ホテル、レストラン、プロデュース会社を経て、2013年よりフリーランスに転身し、現在は、2020年にオープンしたホテルにてオープニングメンバーのプランナーとして現場の最前線に立つ。							
【授業の学習内容】							
結婚式、イベント、など、何事にも予算があり、予算内でいかに良いイベントを作り上げられるのかを学ぶ。実際にイベントや結婚式をイメージしながら、予算を使うことだけでなく、お金をどのように動かすことで利益を生み、会社にとって利益が出るのか、そのあとどのように活かされるのかを知識として身に付ける。							
【到達目標】							
ウェディングプランナーとしての予算管理の他、他業種でも生かせる予算管理ができるようになる。社会人としてお金の管理や重要性を身に付ける。							
回数	授業計画・内容						
1回目	授業説明・『予算』とは『予算管理』とはを何かを学ぶ。予算の基礎知識を身につける。						
2回目	予算の作り方を学ぶ①【イベント・企業編】						
3回目	予算の作り方を学ぶ②【結婚式編】						
4回目	予算表の作成方法①Excelを使用して、予算表を作成してみる						
5回目	予算表の作成方法②Excelを使用して、予算表を作成してみる						
6回目	理解度チェック（テスト ※PCを使用します ➡ 答え合わせ ➡ 採点）						
7回目	イベントの予算管理(1)－1 作業：テーマに沿ったイベントを決定し、予算を作成の上イベントを作り上げる						
8回目	イベントの予算管理(1)－2 作業：テーマに沿ったイベントを決定し、予算を作成の上イベントを作り上げる						
9回目	イベントの予算管理(1)－3 プレゼン：作成したイベントを予算を踏まえて成功させる方法の発表						
10回目	広告にまつまる予算管理(2)－1 作業：イベントを広告掲載し、集客したのちに生まれる利益算出を考える						
11回目	広告にまつまる予算管理(2)－2 作業：イベントを広告掲載し、集客したのちに生まれる利益算出を考える						
12回目	広告にまつまる予算管理(2)－3 プレゼン：考えた広告方法を発表。予算管理の上どのような利益が生まれるのかを発表する						
13回目	結婚式の予算管理(3)－1 作業：お客様に販売する見積もりを基にどんな利益が生まれているのかを考えて結婚式を作る。						
14回目	結婚式の予算管理(3)－2 作業：お客様に販売する見積もりを基にどんな利益が生まれているのかを考えて結婚式を作る。						
15回目	結婚式の予算管理(3)－3 自分が作った結婚式がどのような予算で出来上がり、いくら利益が生まれるかを提案発表する。						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ドレススタイリスト実務Ⅰ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
	学科						
【担当教員 実務者経験】							
ワタベウェディング株式会社、TAKAMI株式会社、レック株式会社に勤務してブライダルスタイリスト、和装コーディネーター、ウェディングプランナー、ウェディングフォトを担当しその後デジタルアルバムYs createを起業。							
【授業の学習内容】							
実践を通し、ドレスの着装をします。お客様への気遣いやお声がけ方法も学びます。							
【到達目標】							
ドレスの種類や素材をしり、着装が出来るようになる。ドレスコーディネーターのご案内の一連の流れを知る。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション/ブライダルの流れ/ドレススタイリストとは/ドレスショップの違い/インポートドレスと国内ドレス						
2回目	ドレスの形や生地の種類について提案できるようになる。						
3回目	ドレスフィッティング演習(ブライダルインナーの種類とつけ方を学ぶ)						
4回目	ドレスフィッティング演習(着装技術)						
5回目	お出迎えからカウンセリング前までの実技						
6回目	カウンセリングとは？説明と実施						
7回目	ランジェリー着付け/ドレス着装＆コーディネート/カーテンOPENまで						
8回目	フィッティングチェック						
9回目	フィッティングチェック						
10回目	ショールームとは？説明と実施						
11回目	カウンセリング～ショールームの流れ						
12回目	コーディネートについて/試着時の写真の撮り方を学ぶ						
13回目	試着ドレスの比較が出来るようになる						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ブライダルフォトⅠ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
関西の数々のホテル、ゲストハウスでブライダルフォトグラファーとしてお客様との打ち合わせや前撮り、挙式当日の撮影に従事。 主な在籍施設はザ・リッツカールトン大阪、北野クラブsola、THE33など。 現在はフリーランスとして、お宮参り、七五三、成人式などのライフイベントの撮影やHP用素材撮影・商品撮影など幅広い撮影を行う。							
【授業の学習内容】							
目的に合わせた撮影をするために必要な準備や撮影技術を学び、撮影した写真のデータを扱えるようにPhotoshopの基礎を学ぶ							
【到達目標】							
目的に合わせて撮影した写真をPhotoshopでレタッチ、レイアウトができるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション：撮影したデータをPCに保存・整理ができるようになる						
2回目	撮影した写真をPCに保存し、基本的なレタッチ（明るさ、傾き、色調の調整）ができるようになる						
3回目	課題1プランニング・撮影・レタッチ：撮影したデータを扱えるようになる						
4回目	課題1レタッチ・デザイン・提出：撮影したデータを使用して簡単なデザインができるようになる						
5回目	最終課題に向けての企画会議・テスト撮影：撮影の目的を理解し、目的に合わせた撮影のコーディネートができるようになる						
6回目	スケジュールに合わせて関係各所と連携・許可を取り撮影の準備をする：撮影に必要な準備ができるようになる						
7回目	素材撮影・レタッチ：撮影したデータを目的に合わせてレタッチできるようになる						
8回目	素材撮影・レタッチ：撮影したデータを目的に合わせてレタッチできるようになる						
9回目	企画に合わせたレイアウト割り振り：企画に必要な素材を効果的に構成できるようになる						
10回目	デザイン決定、不足素材追加撮影：企画に沿った成果物のイメージを持って全体を把握することができるようになる						
11回目	Photoshopの基本操作を学ぶ：汎用性のあるPhotoshopでの操作を理解できるようになる						
12回目	レイアウト、デザイン：目的に合ったイメージでPhotoshopでデザインができるようになる						
13回目	レイアウト、デザイン：目的に合ったイメージでPhotoshopでデザインができるようになる						
14回目	課題提出						
15回目	プレゼン						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
SDカード（16GB以上が望ましい）、USBメモリ（毎回の授業でデータを保存するのに使います） いずれも手持ちのものがあればそれで結構です。ただし空き容量が充分であること。							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	着付Ⅰ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
フタバウェディング株式会社、TAKAMI株式会社、レック株式会社に勤務してブライダルスタイリスト、和装コーディネーター、ウェディングプランナー、ウェディングフォトを担当しその後デジタルアルバムYs createを起業。							
【授業の学習内容】							
着付技能試験に対応できる技術を身につける ２級技術試験 留袖着付け、二重太鼓をマスターする。							
【到達目標】							
近年ウェディング業界では和装の前撮りをされるお客様が増えており、それにしっかりと対応できる技術と知識を身につける。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション ～留袖について～ 着付け技能試験の内容について 必要物品の確認						
2回目	補正の仕方デモンストレーション・補正とは何か						
3回目	座学①着物各名称 / 実技①長襦袢の着付け 下半身編 絵羽模様がどう見えるかを確認						
4回目	座学①に関する確認 / 実技②補整～長襦袢の着付け方・留袖上半身編 家紋がどんな風に見えるのが良いのか確認						
5回目	座学②帯・袖・襟の種類名称について / 実技③補整～留袖						
6回目	座学②に関する確認 / 実技④補正～留袖着付け						
7回目	座学③着物の格にあった小物について / 実技⑤補正から留袖着付け二重太鼓						
8回目	座学③に関する確認 / 実技⑥補正から留袖着付け二重太鼓						
9回目	座学④着物の柄・文様について / 実技⑦補正から留袖着付け二重太鼓						
10回目	座学④についての知識確認 / 実技⑧ 半襟の付け方						
11回目	座学④に関する確認 / 実技⑨ 実技チェックの練習						
12回目	座学④着物の柄・文様について / 実技⑦実技チェック						
13回目	総合知識確認 / 実技⑦実技チェック						
14回目	メンズ着付け						
15回目	振袖着付け 補正と長襦袢、振袖までの着付け						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	宿泊マネジメントⅠ	授業 形態	講義	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
複数の外資系、日系ホテル開業に携わり、ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントレセプションMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェ이터、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。現在はホテル・レストラン運営コンサルタントとして活動。スモールラグジュアリーホテル副総支配人。1996年第1回日本メートルドテルコンクール)第5位。全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催レストランサーヴィスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サーヴィスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員。							
【授業の学習内容】							
宿泊マネジメントの方法論、具体的な事例を挙げて解説し、マネジメントを習得するための基礎を学習する。 またホテル情勢やトレンドについても、例を挙げて説明する。							
【到達目標】							
実際のホテル現場レベルの具体例を学ぶことにより、現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して現場での一つ一つの作業、サービス、オペレーションの意味を理解する事が出来るようになる。							

回数	
1回目	オリエンテーション:Rooms Divisionの組織と業務。 経営的観点から売上や経費について具体的な内容を理解することができるようになる
2回目	Room Reservationのマネジメントを理解できるようになる。(業務オペレーション管理、売上・収益管理、チームマネジメント、顧客対応、システムテクノロジー管理など)
3回目	Room Reservationのマネジメントを理解できるようになる。(業務オペレーション管理、売上・収益管理、チームマネジメント、顧客対応、システムテクノロジー管理など)
4回目	Front Deskのマネジメントを理解できるようになる。(オペレーション管理、人材管理、収益管理、顧客満足度管理、システム・IT管理、コスト管理など)
5回目	Front Deskのマネジメントを理解できるようになる。(オペレーション管理、人材管理、収益管理、顧客満足度管理、システム・IT管理、コスト管理など)
6回目	Housekeepingのマネジメントを理解できるようになる。(スタッフ管理、清掃品質管理、コスト管理、衛生管理・安全管理、サステナビリティ、ゲストエクスペリエンス)
7回目	Uniformed Serviceののマネジメントを理解できるようになる。(オペレーション管理、サービス品質管理、設備・備品管理、コミュニケーション・連携など)
8回目	Telephone Operatorのマネジメントを理解できるようになる。(オペレーション管理、人材管理、顧客対応の品質向上、業務効率化・DX化など)
9回目	Conciergeのマネジメントを理解できるようになる。(オペレーション管理、サービスの品質管理、予約・手配業務、情報管理・データ活用、ホテルブランドの向上など)
10回目	ホテルの情報システム： 宿泊部門の情報システムを理解できるようになる。
11回目	顧客満足度： ゲスト満足度を向上させる考え方を理解することができるようになる
12回目	従業員満足度： 従業員満足度を向上させる考え方を理解することができるようになる
13回目	Rooms Divisionのマネジメントを理解できるようになる。
14回目	前期試験
15回目	振り返り： 1. 前期試験解説 2. その他質疑応答
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験： 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師がレジュメを準備する	

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	料飲マネジメントⅠ	授業 形態	講義	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2000年6月神戸ポートピアホテル フレンチレストラン アランシャベル支配人に就任 2012年5月 トランテアン(アランシャベル閉店後のフレンチ)支配人に就任 2012年12月 日本料理神戸たむら 支配人に就任 2019年4月和食 中華グループ 7店舗レストランの統括支配人に就任 2023年7月料飲部 部長付支配人クオリティ担当に就任 またポートピアホテルで社内講師も兼任する。ホテル32年勤務のち 2023年11月人材会社 株式会社ホテリエスタッフ 西日本統括本部長就任 現在に至る。(有資格) ソムリエ HRS1級 西洋料理テーブルマナー講師 日本料理テーブルマナー講師 英検2級							
【授業の学習内容】							
初めは、ホテルから外食産業・その他幅広いレストランに興味を持つように全般的な概要で机上での講義形式で行います。またサービス基本実践の演習で各自実務基礎を習得させます。最後に実技試験シミュレーションを行うことで、緊張感を持って楽しく生徒が授業に取り組めるように致します。							
【到達目標】							
レストランに関して興味を持ってもらうため、料理や飲み物・サービスなど幅広く 奥が深いことを認識してもらいます。次に実践演習で初心者のサービス実技を体験。そして最終はレストランサービスで必要なスキル課題を明確にし、課題実技スキルを習得してもらうことを最終の目標に致します。							

回数	
1回目	今期の講義の進め方を理解し自身の目標を設定することができる。
2回目	前期までの学習到達度を確認し復習することにより課題を認識することができる
3回目	コーポレートガバナンス、コンプライアンス及び企業風土とは何かを理解することができる
4回目	料飲施設のパレーションの基本とは何かを理解することができる
5回目	料飲施設のマネジメントの基本とは何かを理解することができる
6回目	品質管理、クオリティーコントロールとは何かを理解することができる
7回目	卸売市場見学により食品の流通を学ぶことができる(大阪中央卸売市場)
8回目	食品衛生と食中毒及び食物アレルギーについて知ることができる
9回目	危機管理、リスクマネジメントとは何かを理解することができる
10回目	スタンダードオペレーティングプロシージャー(SOP)とは何かを理解することができる
11回目	料飲施設の収益構造について基本的な仕組みを理解することができる
12回目	ホテルの労務管理について基本的な仕組みを理解することができる
13回目	料飲部門におけるリーダーシップについて考察することができる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が作成するレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	エアライン接客Ⅲ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
JALグループで2004～2018年まで先任客室乗務員として乗務する。安全で快適な空の旅を提供するとともに、安全担当として後輩育成にも注力してきた。							
【授業の学習内容】							
キャビンアテンダント(CA)およびグラウンドスタッフ(GS)として求められる、国際的な環境下での高度なビジネスマナー、プロトコール(国際儀礼)、そして顧客の期待を超えるホスピタリティの精神と技術を習得します。							
【到達目標】							
国際的なプロトコール(席次、贈答、会食)の基本を理解し、対応できるようになる							

回数	
1回目	サービスとホスピタリティの違い。顧客の期待を超えるとは何か。顧客体験の設計(カスタマージャーニー)ができる
2回目	国際的な挨拶、握手のマナー、名刺交換の儀礼。プロトコール(国際儀礼)の基本原則が理解できる
3回目	日本と欧米における席次の原則。航空機内、会議室、車両内での適切な席次の判断ができる
4回目	上級クラスのサービス哲学と設備の特徴。乗客への特別な配慮とサービスの目的を理解できる
5回目	顧客情報(搭乗履歴、嗜好)に基づいたパーソナルな接遇の実践。事前準備と観察力を養う
6回目	洋食のフルコースサービス手順、カトラリーの扱い方。ワインやアルコール飲料の知識と提供マナーを身につける
7回目	CIQ(税関・入管・検疫)での支援。VIP、高齢者、要医療サポート乗客への個別対応を学ぶ
8回目	エアラインのドレスコードと清潔感の維持。表情、姿勢、立ち居振る舞いにおける美しさと信頼感を身につける
9回目	声のトーン、話すスピード、アクセントの調整。緊急時と通常時のアナウンスの使い分けができる
10回目	顧客の怒りの感情を鎮めるための心理的アプローチ。苦情の原因分析と顧客満足度回復(サービスリカバリー)ができる
11回目	酒気を帯びた乗客、体調不良の乗客、過度な要求をする乗客への冷静で毅然とした対応ができる
12回目	文化や言語の違いによる誤解やミスコミュニケーションの解消。トラブル時の報告義務と連携ができる
13回目	学生が乗客役と乗務員役に分かれ、パーソナライズされた上級クラスサービスを実践し、相互評価する
14回目	実技試験:空港チェックインから機内サービス、トラブル対応までを連続的に含む総合的な接遇訓練を行う
15回目	学習成果の確認と、プロのエアラインスタッフとしての使命感とホスピタリティの再認識
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	エアライン就職対策Ⅰ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
JALグループで2004～2018年まで先任客室乗務員として乗務する。安全で快適な空の旅を提供するとともに、安全担当として後輩育成にも注力してきた。							
【授業の学習内容】							
エアライン業界(CA、GSなど)の就職活動を成功させるための基本的な知識、スケジュール、ツールの使い方を習得する。就職活動の土台作りを徹底的に行い、自信をもって次のステップ(面接・書類対策)に進める能力を養う。							
【到達目標】							
エアライン業界の採用スケジュール全体を把握し、自身の活動計画を立案できる。 自己分析を完了させ、自身の強みや職業観を明確に言語化できる。 志望企業を特定し、企業研究(企業理念、求める人物像)を深く掘り下げられる。							

回数	
1回目	授業の目的、CA/GS採用の特徴、就職活動の年間スケジュール(インターン、本選考の流れ)を確認できる。
2回目	モチベーショングラフ作成、過去の成功・失敗体験から得た教訓の抽出を行う。
3回目	自己PRの核となる資質、職業観(仕事選びの軸)の明確化、客室乗務員・地上職に求められる資質の確認を行う。
4回目	企業HP、採用サイト、SNS、ニュースなど、情報収集ツールの使い方と情報の信頼性判断ができる。
5回目	企業理念、ビジョン、沿革の調査。求める人物像を募集要項や採用メッセージから分析する。
6回目	日系(JAL/ANA)、LCC、外資系のサービス、路線、企業文化の比較を行う。
7回目	適性検査の全体概要、出題形式と対策の必要性。非言語分野の基礎(計算、推論の入門)を学ぶ。
8回目	言語分野の基礎(語彙、文法の確認)、出題頻度の高い用語の解説を行う。
9回目	性格検査の目的と評価基準、一貫性のある回答のための自己理解の深め方を理解する。
10回目	TOEICの位置づけと重要性、スコアアップのためのPart別学習法(リスニング編)を確認できる。
11回目	スコアアップのためのPart別学習法(リーディング編)、時間配分とテクニックを養う。
12回目	記入の基本ルール、学歴・職歴欄の書き方、写真の重要性、誤字脱字チェックの徹底を理解する。
13回目	訪問の目的とマナー、効果的な質問リストの作成。インターンシップの選考への影響を理解する。
14回目	これまでの自己分析の結果をまとめ、エアラインの職種にどう活かせるかをプレゼンテーションを行う。
15回目	授業の振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	外国語	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	Global CommunicationⅢ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
金欄短期大学英文科卒業。実用英語技能検定1級取得。英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習（語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について）をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野（個人情報や家族、買い物等）に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U 1.1 単純時制や進行時制を使って、個人の業績について話す
2回目	U 1.2 雇用者が求める人材について話す、個人や他人の業績を説明する
3回目	U1.3 自己紹介、他己紹介をする場面での会話を練習する
4回目	U1.4 ブログの投稿を読む、投稿にコメントを書く
5回目	U1.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「面接のロールプレイ」 ・学期末プレゼンと連動する内容
6回目	U2.1 流行に関する表現を使って、トレンドについて話す
7回目	U2.2 接続詞を使って、料理の手順について話す
8回目	U2.3 提案をする際の表現を使って、社交の場や料理を注文する場面での会話を練習する
9回目	U2.4 調査についての結果を読む、また報告書を書く
10回目	U2.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「レストランの改善策を計画する」 ・学期末プレゼンと連動する内容
11回目	U3.1 [too/enough]を使い、物事の「程度」について話す 時間とお金の相対的な重要性について話す
12回目	U3.2 比較級の表現を使って、物事の価値や価値を判断する基準について話す
13回目	U3.3 謝罪が必要な場面での会話を練習する
14回目	U3.4 商品のレビューを読む、書く
15回目	U3.5 Time to Speak: 学期末プレゼン
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%／実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	
Evolve	

授業シラバス

科目名	外国語 I	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	英文法&英会話Ⅲ	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U1.1 業績に関する表現を学ぶ 「単純時制」「進行時制」を学ぶ、復習する
2回目	U1.2 資質などを表す表現について、形容詞・名詞での表現を学ぶ 動作動詞・状態動詞の違いを学ぶ
3回目	U1.3 yの発音を学ぶ 人を紹介する時の表現、また人を紹介された時の受け答えの表現を学ぶ
4回目	U1.4 賛成・反対・より多くの情報を求める際の表現を学ぶ
5回目	U1.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U2.1 流行に関する表現を学ぶ 条件節(If節)について学ぶ
7回目	U2.2 食材や調理法についての表現を学ぶ 接続詞(after,until,whenなど)を用いた表現を学ぶ
8回目	U2.3 /aI/,/i/,/eI/の発音を学ぶ、提案をする、また提案を受ける・断る際の表現を学ぶ 提案を相手が受け入れた際の受領の表現を学ぶ
9回目	U2.4 消失する/t/の発音について学ぶ 調査報告に用いられる表現を学ぶ
10回目	U2.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U3.1 時間とお金に関連する表現を学ぶ [too, enough] について学ぶ
12回目	U3.2 価格と価値に関連する表現を学ぶ 形容詞の比較級について学ぶ、復習する
13回目	U3.3 /s/で始まる語の発音を学ぶ 謝罪をする、謝罪を受ける際の表現を学ぶ
14回目	U3.4 商品レビューに関するポジティブ、ネガティブな表現を学ぶ
15回目	U3.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験

【使用教科書・教材・参考書】	
Evolve	

授業シラバス

科目名	スキルアップゼミ	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	
	シュシュウェディングⅠ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。							
【授業の学習内容】							
一般のお客様を対象に、本物の結婚式をプロデュースする。							
【到達目標】							
ブライダルフェアの企画から取り組みの周知、集客、プランニング、施工までの一連の流れを実際にプロデュースをして学ぶ。							

回数	授業計画・内容
1回目	ゼミの概要、メンバー紹介
2回目	ブライダルフェアについての企画立案
3回目	ブライダルフェアについての企画立案
4回目	ブライダルフェアについての企画立案
5回目	ブライダルフェアについての企画立案
6回目	ブライダルフェアについての企画立案
7回目	ブライダルフェアについての企画立案
8回目	ブライダルフェアの準備・制作
9回目	ブライダルフェアの準備・制作
10回目	ブライダルフェアの準備・制作
11回目	ブライダルフェアの準備・制作
12回目	ブライダルフェア実施
13回目	ブライダルフェア実施
14回目	前期振り返り・成約したお客様の担当決め
15回目	後期の施工に向けて担当ごとに企画
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験:課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ・キャリア教育	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	キャリアプログラムⅣ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
専門学校を卒業後、株式会社ひらまつにて、レストランウェディングにて勤務。その後、こども写真館・フォトウェディングのプランナー等を経験。老若男女幅広い年齢層のお客様へ接客を行う。							
【授業の学習内容】							
学校生活をより充実させる為の学校・クラスルールを理解する。また学校行事や授業スケジュールの再確認をする。 社会人基礎力を身につける。							
【到達目標】							
自己肯定と他己肯定が出来るようになる（自分とクラスメイトを受け入れ、肯定する） 人に伝わる自己表現ができるようになる 人の話を聞く姿勢が理解できるようになる							

回数	授業計画・内容	
1回目	学校ルールを再確認し、各ルールの意味を理解したうえで、自己採点・振り返りを行い、何事も意味考えて行動することを学ぶ	
2回目	入学時の自分と現在の自分を見比べ、どう変わったか振り返る	
3回目	専門式場見学:企業について深く理解する	
4回目	クラスメイトの良いところ探しをし、お互いに自分の強みを見つける	
5回目	特別講義:講義を通して、夢を実現する方法を知る	
6回目	共感の方法を理解し、人の気持ちに寄り添ったコミュニケーションを身につける	
7回目	人に伝えようとする姿勢、聞きとろうとする姿勢を理解する	
8回目	専門式場見学:企業について深く理解する	
9回目	特別講義:講義を通して、夢を実現する方法を知る	
10回目	企業研究①企業研究(グループ毎)を行い、目指す業界について知る	
11回目	企業研究②企業研究(グループ毎)を行い、目指す業界について、プレゼン資料の作成をする	
12回目	企業研究③企業研究(グループ毎)を行い、目指す業界について、プレゼン資料の作成をする	
13回目	企業研究発表①	
14回目	企業研究発表②	
15回目	1年間の振り返り	
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される	
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験:実技試験	
【使用教科書・教材・参考書】		

授業シラバス

科目名	業界研究	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	就職対策Ⅲ	授業形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
老舗ホテルにて勤務後、講師として大学、短大、専門学校、企業などでの研修実績多数。産業カウンセラー、メンタルヘルスマネジメントなどの資格を習得。							
【授業の学習内容】							
・グループワークを実施し、自己分析を深め、伝える力を磨く。 ・実技演習を活用し、本番の緊張感を持って、自己PRを表現力豊かに演習する。 ・グループディスカッション演習も複数回実施し、コミュニケーションスキルを磨く。							
【到達目標】							
・就職活動で提出できる履歴書をもとに、自己を魅力的に、具体的にわかりやすく他者に伝えることができる。 ・グループの中でのコミュニケーションスキルを発揮し、印象良く協働作業ができるとともに、オフィスにふさわしい身だしなみが理解でき表現できる。 ・自分の「強み」を自己分析し、伝わる表現方法でアピールすることができる。 ・自分のキャリアについて考察を深め、どんな企業に就職したいか具体的にイメージし、行動できる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	【オリエンテーション】 ・就職とは何かを再確認することができる。 ・夏休みのできごとを言語化し、他者にわかりやすく伝えることができる。						
2回目	【先輩方の体験談を聴き、リアルに自分の就職活動をイメージし、取り組むべきことを理解する】 ・実際に、就職活動をした先輩方の体験談を聴き、より具体的にイメージできるようになる。 ・不安な点など先輩に質問し、やるべきことを明確にできるようになる。						
3回目	【よくある面接での質問に答える力をつける】 面接で、よく聞かれる質問に対して、印象よく答えることができる力をはぐくむことができる。						
4回目	【オリジナルティあふれる自己PRを創ろう】 ・自己PRの内容をグループでさらに深めることができる。 ・印象良く、自己PRを伝えるポイントを知ることができる。						
5回目	【得意・努力した科目を見直す】 ・得意・努力した科目について、伝わる表現ができているか確認することができる。 ・印象良く、表現力豊かに伝えることができる。						
6回目	【グループディスカッションを体験する①】 ・グループディスカッションの模擬演習を体験することができる。 ・受付～入室～着席～説明～グループディスカッション～退室の流れを体験し、印象の良い学生はどのような学生か理解することができる。						
7回目	【グループ面接を体験する①】 ・グループ面接の模擬演習を体験することができる。 ・客観的に見学することで、印象の良い学生を理解することと、自分の客観視ができる。						
8回目	【個人面接を体験する①】※オフィスカジュアルDAY ・個人面接の模擬演習を体験することができる。 ・客観的に見学することで、印象の良い学生を理解することができ、自分の印象も客観視できる。						
9回目	【本気の思いが伝わる志望動機】 ・自分の志望企業に対して、より熱意の伝わる伝え方や、相手に響く伝え方を実践することができる						
10回目	【エントリーシート形式で自分を豊かに表現する】 ・白紙のA4用紙を用いて、自分を自由に表現した課題を用いて、豊かに伝わりやすく自己表現をすることができる。 ・クラスメイトの表現力を客観視することで、表現力をより磨くことができる。						
11回目	【質問に対する対応力を磨く】※オフィスカジュアルDAY ・想定外の質問に対しても、動じることなく、自分らしく瞬時に考え、返答するスキルを磨くことができる。 ・どうしても答えが思い浮かばない際の臨機応変な対応を知り、実践することができる。						
12回目	【実技演習 グループディスカッション②】						
13回目	【実技演習 グループ面接②】※オフィスカジュアルDAY						
14回目	理解度チェック 実技演習個人模擬面接 ※オフィスカジュアルDAY						
15回目	理解度チェック(欠席者)/復習						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	業界研究	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	生成AI活用スキルⅠ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ&インクルーシブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
本授業では生成AIの活用方法を学び、卒業後即戦力として活躍できるためのスキルを学びます。							
【到達目標】							
様々な生成AIを目的別に活用し、業務をスムーズに行えるスキルを身に付ける。							
回数	授業計画・内容						
1回目	(オリエンテーション) IllustratorとPhotoshopなどを使用したデジタルアートワークの概要を理解する						
2回目	(基本操作の習得①) IllustratorとPhotoshopの基本概要を理解し、画面の基本操作、ファイルの作成保存ができるようになる						
3回目	(基本操作の習得②) 図形や線を描く、オブジェクトの選択と基本的な変形、アンカーポイントとハンドルの操作ができるようになる						
4回目	(基本操作の習得③) 色と透明度の設定、オブジェクトの編集と合成ができるようになる						
5回目	(基本操作の習得④) 線と文字の設定、レイヤーの操作と色調補正、選択範囲の作成ができるようになる						
6回目	(基本操作の習得⑤) 色の設定とペイントの操作、レイヤーマスクの使用、文字、パス、シェイプができるようになる						
7回目	(基本操作の習得⑥) 画像の修正・加工、フィルターとレイヤースタイルの使用ができるようになる						
8回目	(基本操作の習得⑦) IllustratorとPhotoshopの連係ができるようになる / 上記①～⑥のまとめ復習						
9回目	(テスト演習) 上記基本操作①～⑦の理解度確認						
10回目	(演習課題 名刺制作) 上記①～⑤の操作を活用し、基本的な名刺制作ができるようになる						
11回目	(演習課題 名刺制作) 上記①～⑤の操作を活用し、基本的な名刺制作ができるようになる						
12回目	(演習課題 ログ制作) 上記①～⑤の操作を活用し、基本的なログ制作ができるようになる						
13回目	(演習課題 ログ制作) 上記①～⑤の操作を活用し、基本的なログ制作ができるようになる						
14回目	(演習課題 チラン制作) 上記①～⑤の操作を活用し、基本的なログ制作ができるようになる						
15回目	(演習課題 チラン制作) 上記①～⑤の操作を活用し、基本的なログ制作ができるようになる						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	業界研究	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ブライダルプロモーションスキル	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
1998年から2000年までアルバイトで披露宴のアシスタントを経験し、2000年～2007年までホテルモントレグループにてキャプテン・ウエディングプランナーとして勤務 年間120件の施行をこなす。 披露宴の施行から打合せ、媒体(XY・Lei等)HP運営、エージェントセールス 新人トレーニングに従事。							
【授業の学習内容】							
ホテル業界について学び、ホテルグレード、ホテルの様々な仕事・ホテルブライダルについて知識をつけます。							
【到達目標】							
今のホテル業界の動向を知り、お客様の求めているサービスについて考え、ホテルでのウエディングプラン、ブライダルフェアをプランニング出来るようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション ホテル業界とは概要を理解します。						
2回目	ホテル業界の現状と今後の動向、ホテルの収益構造、ホテル経営で大切にしないといけないことを理解します。ホテルアフタヌーンティーが今人気の訳、アフタヌーンティーから見る集客方法、適正価格設定、ターゲット層設定、各ホテルのアフタヌーンティー 前半を理解します。						
3回目	ホテル業界の現状と今後の動向、ホテルの収益構造、ホテル経営で大切にしないといけないことを理解します。ホテルアフタヌーンティーが今人気の訳、アフタヌーンティーから見る集客方法、適正価格設定、ターゲット層設定、各ホテルのアフタヌーンティー 後半を理解します。						
4回目	ホテルの組織図、各部門ごとの仕事について理解します。						
5回目	ナショナルホテル・外資系ホテル今年の募集要項・初任給、外資系ホテルブランド一覧、世界のホテルグループにつて理解します。						
6回目	課題1 企業研究①ホテルについて調べレポート提出を提出（宿泊・レストラン）						
7回目	課題2 企業研究②ホテルについて調べレポート提出を提出(就職)						
8回目	課題3 企業研究③ホテルについて調べレポート提出を提出(ブライダル)						
9回目	婚姻件数の推移、婚礼平均単価(ゲストハウス、ホテル)、ホテルウエディングの強み、ゲストハウスとの差別化について理解します。						
10回目	①ホテルウエディングの強み、ゲストハウスとの差別化、ゲストハウスが競合の際の接客ロープレを行い、新規接客が出来るようになる						
11回目	②ホテルウエディングの強み、ゲストハウスとの差別化、ゲストハウスが競合の際の接客ロープレを行い、新規接客が出来るようになる						
12回目	ホテルウエディングをプランニング出来るようになる						
13回目	ホテルウエディング、ブライダルフェアとは、ホテルブライダルフェアをプランニング出来るようになる						
14回目	ホテルウエディング、ブライダルフェアとは、ホテルブライダルフェアをプランニング出来るようになる						
15回目	ホテルブライダルフェアをプランニング出来るようになる						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	業界研究	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	おもてなし手話	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
手話通訳士として、現在市の登録手話通訳者として活動中。大学、短期大学、医療系の専門学校、高校等で講師として活動中。							
【授業の学習内容】							
聴覚障害者の言葉である手話を学び、お客様を接客する際に使えるようにする。手話を使い、日常会話ができるようにする。							
【到達目標】							
職場に聴覚障害者の方が来られた時に、手話で対応できるようになる。また、その他のコミュニケーション方法を使用し、聴覚に障害のないお客様と同じように接客できるようになる。手話技能検定4級合格を目指す。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション 手話って何？ →手話とはどういう言語(視覚言語)なのか理解できる。						
2回目	実践①表現(絵カードを使う)→CL表現を理解できる。						
3回目	演習①DVD鑑賞 『どう思う？』グループワーク→聴覚障がい者を理解する。						
4回目	実践②表現(自己紹介)→自分の名前が手話で表せる。						
5回目	実践③表現(私の趣味は・・・)→自分の好きなものは何か手話で表せる。						
6回目	実践④表現(私はこんな仕事がしたい)→自分の夢を手話で表せる。						
7回目	演習②DVD鑑賞→グループワークで人の意見を聞く。理解する。						
8回目	実践⑤表現(家族・色)→いろんな表現を身につける						
9回目	実践⑥表現(数字・一週間)→いろんな表現を身につける						
10回目	演習③課題レポート→自分の意見を言えるようになる。						
11回目	実践⑦豊かな表現(手話歌)→感情表現を身につけることができる。						
12回目	実践⑧豊かな表現(手話歌)→自分で考えて作れるようになる。						
13回目	復習(しばらく間があいたので復習)→簡単な会話ができるようになる。						
14回目	ろう者との会話						
15回目	集大成(発表)→自分で考えた手話表現で練習し、皆でやり切った達成感を共有しよう。						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ教養	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ホスピタリティ教養Ⅱ	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
五感ワークデザイン主催・代表:メーカーでマーチャンダイザーとしてリアルとオンラインのマーケティングや人間行動心理学に基づく旗艦店設計を実施後、ブランディングデザイン会社でコーポレートブランディングに従事。現在は企業の課題解決プログラムを設計(リーダーシップコーチング・成果を出すチーム)・企業ブランディング(ビジョン・ミッション・バリュー・パーパス設定とコンセプト設定)・パーソナルブランディングやセルフマネジメントを実施。アントレプレナーシッププログラム(ビジネスモデル)を社会人・大学生・中高生対象に企業や学校と連携して実施。							
【授業の学習内容】							
言語(語彙・文法)と一般常識(時事・社会)に焦点を当て、SPIの基礎力定着と得点力アップを目指す。							
【到達目標】							
SPI言語問題の主要な出題形式(語彙、文法、長文読解)に対応できる基礎知識を習得する。 時事問題や社会・経済の基本知識を整理し、常識問題への対応力を高める。 全15回の学習を通じて、SPIの一般常識分野で安定して高得点を獲得できる実力を養成する。							

回数	
1回目	オリエンテーション:SPI模擬試験 SPI言語問題の全体像と出題形式の確認。二語の関係(同義語、対義語、類義語など)の徹底演習。
2回目	語句の意味(多義語、適切な用法)の学習。同音異義語・同訓異義語。難解な漢字の読み書き、誤りの指摘を学ぶ。
3回目	熟語の成り立ち(例:左右対称、目的語・動詞)のパターン認識。品詞の分類と敬語の基本ルールを学ぶ。
4回目	文の並べ替え問題の解法テクニック。ビジネス文書で頻出する語句の定義(例:コミットメント、コンプライアンス)を学ぶ。
5回目	論理展開の把握、接続詞の役割。設問タイプ(内容一致、主旨、要約)別の解法アプローチを学ぶ。
6回目	論理的な文章(意見、解説文)を用いた長文読解の実践練習。時間配分と速読のトレーニングを行う。
7回目	三権分立(国会・内閣・裁判所)の役割。選挙制度の基本。憲法と法律の概要を学ぶ。
8回目	国際連合(UN)の主要機関と役割。G7/G20、ASEANなどの地域連携。日本の外交政策の基本を学ぶ。
9回目	需要と供給、市場の仕組み。GDP、物価(インフレ・デフレ)の基本を理解する。
10回目	景気循環、財政政策と金融政策(日本銀行の役割)。為替レートの基礎知識を習得する。
11回目	社の形態(株式会社など)。決算書の基本(貸借対照表・損益計算書)。マーケティングとCSRを理解する。
12回目	労働基準法の基本(労働時間、賃金)。社会保険(健康保険、年金、雇用保険)の仕組み。ハラスメント対策について理解する。
13回目	直近1年間の主要なニュース(政治、経済、社会、科学)。重要用語の確認と解説を行う。
14回目	SPIの言語と一般常識(時事含む)の模擬試験を実施。時間配分の練習と弱点把握を行う。
15回目	模擬試験の結果に基づいた再頻出・間違いやすい問題の集中復習。常識問題の最終知識チェックと総まとめ。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	TOEIC II	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2006年より各種大学・専門学校・民間英語スクールにて英語講師として勤務、その他、通訳、字幕翻訳、書籍の執筆等の業務に従事							
【授業の学習内容】							
TOEIC® L&Rテストの出題形式と時間配分を完全に理解し、効率的な解答戦略を習得すること。ビジネス・日常英語の語彙力と文法力を強化し、実力に裏打ちされたスコアアップを実現することを目指す。							
【到達目標】							
TOEIC® L&Rテスト全7パートの出題傾向と解答戦略を完全に把握し、実践できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション TOEICの構成(L&R全7パート)、目標スコア設定、学習スケジュールの確認
2回目	文脈とディスコースマーカー(話の流れを示す語)を読み取る練習。文挿入問題の解法を学ぶ
3回目	前後の文脈から代名詞(it, they, one, anotherなど)が指すものを正確に特定する
4回目	記事、メール、手紙など、文書の種類ごとの構成パターン。スキミングとスキニングの使い分けを学ぶ
5回目	「～について言及されていること」、「～の意図」、「NOT問題」など、質問形式別の解答アプローチを学ぶ
6回目	2つの文書間の関連情報を見つける練習。設問の指示に従って文書を行き来する効率的な方法を学ぶ
7回目	3つの文書に含まれる情報を統合し、全体を俯瞰する訓練。時間配分の最終確認
8回目	模擬試験①
9回目	文脈から意味を判断する多義語、同意語(言い換え)**問題の対策語彙を学ぶ
10回目	TOEIC特有の句動詞(take on, put up withなど)や慣用的な形容詞・副詞のセットを学ぶ
11回目	模擬試験②
12回目	1問20秒以内の解答スピードを目指す演習を行う
13回目	長文読解に集中し、1問1分の解答スピードを目指す演習を行う
14回目	模擬試験③
15回目	全体の振り返り、スコアの予測と分析、本番に向けた心構えと今後の自主学習計画作成
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験

【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを毎回配布する	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	辻 香
	手話	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
手話通訳士として、現在市の登録手話通訳者として活動中。大学、短期大学、医療系の専門学校、高校等で講師として活動中。							
【授業の学習内容】							
聴覚障害者の言葉である手話を学び、お客様を接客する際に使えるようにする。手話を使い、日常会話ができるようにする。							
【到達目標】							
職場に聴覚障害者の方が来られた時に、手話で対応できるようになる。また、その他のコミュニケーション方法を使用し、聴覚に障害のないお客様と同じように接客できるようになる。手話技能検定4級合格を目指す。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション 手話って何？ →手話とはどういう言語(視覚言語)なのか理解できる。						
2回目	実践①表現(絵カードを使う)→CL表現を理解できる。						
3回目	演習①DVD鑑賞 『どう思う？』グループワーク→聴覚障がい者を理解する。						
4回目	実践②表現(自己紹介)→自分の名前が手話で表せる。						
5回目	実践③表現(私の趣味は・・・)→自分の好きなものは何か手話で表せる。						
6回目	実践④表現(私はこんな仕事がしたい)→自分の夢を手話で表せる。						
7回目	演習②DVD鑑賞→グループワークで人の意見を聞く。理解する。						
8回目	実践⑤表現(家族・色)→いろんな表現を身につける						
9回目	実践⑥表現(数字・一週間)→いろんな表現を身につける						
10回目	演習③課題レポート→自分の意見を言えるようになる。						
11回目	実践⑦豊かな表現(手話歌)→感情表現を身につけることができる。						
12回目	実践⑧豊かな表現(手話歌)→自分で考えて作れるようになる。						
13回目	復習(しばらく間があいたので復習)→簡単な会話ができるようになる。						
14回目	ろう者との会話						
15回目	集大成(発表)→自分で考えた手話表現で練習し、皆でやり切った達成感を共有しよう。						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	英会話Ⅱ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2006年より各種大学・専門学校・民間英語スクールにて英語講師として勤務、その他、通訳、字幕翻訳、書籍の執筆等の業務に従事							
【授業の学習内容】							
就職活動時の英語面接に必要な語彙、イディオムを学び、実践形式でトレーニングする。							
【到達目標】							
就職活動時の英語面接で質問に対する受け答え、グループワークができるようになる。							

回数	
1回目	面接でよく使う英語表現(挨拶・丁寧な言い方)、面接の流れと質問パターンと自己紹介の基本構造(名前・出身・学歴)の理解
2回目	“Tell me about yourself.” の答え方、ポジティブな印象を与える言い回し、ペアワークで自己紹介練習
3回目	“Why do you want to work for us?” の答え方、志望動機のロジカルな組み立て方を理解できる
4回目	“What are your strengths and weaknesses?” の答え方、弱みをポジティブに言い換えるテクニックを磨く
5回目	“Tell me about your experience.” の答え方、アルバイト・インターン経験を英語で説明できる
6回目	STAR法(Situation, Task, Action, Result)の導入について学ぶ
7回目	ホテル業界の専門英語をロールプレイで実践:フロント業務・接客で使う英語表現、予約・チェックイン・クレーム対応のフレーズ
8回目	エアライン業界の専門英語をロールプレイで実践:客室乗務員・グランドスタッフの英語表現、機内アナウンス・安全説明・接客対応
9回目	クレーム対応・トラブルシューティングの英語、丁寧な言い換え・謝罪表現を習得できる
10回目	多文化対応の英語表現、ポライトネス(丁寧さ)とプロフェッショナルな言い方を習得できる
11回目	“Why should we hire you?” “Where do you see yourself in 5 years?”
12回目	面接で好印象を与える発音をトレーニングし、よく間違える単語の矯正ができる
13回目	即答カトレーニング、フィラー(Well, Actually, Let me think)の使い方を習得できる
14回目	理解度チェック／英語面接:これまでの学習成果を発揮して会話を続けることができる
15回目	理解度チェック／学期末の復習をすることができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを毎回配布する	

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ウェディング実践Ⅲ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
1998年から2000年までアルバイトで披露宴のアシスタントを経験し、2000年～2007年までホテルモントレグループにてキャプテン・ウェディングプランナーとして勤務 年間120件の施行をこなす。披露宴の施行から打合せ、媒体(XY・Lei等)HP運営、エージェントセールス 新人トレーニングに従事。							
【授業の学習内容】							
披露宴の総責任者であるキャプテンの仕事を通して披露宴全体の流れ、披露宴における役割を理解する。又卓上セッティング、接遇サービスを通しテーブルマナーを身に着ける。							
【到達目標】							
最高の披露宴を作り上げる為に、キャプテンの仕事を理解し、プランナーが新郎新婦と打合せの際に二人の希望を叶える為にどのような打合せをすればいいのか自ら考え提案できるようになる。又おもてなしを受ける、おもてなしを提供するエチケットやテーブルマナーを身に着ける							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション 自己紹介 披露宴の基礎知識/(発声練習・接客7大用語・笑顔・姿勢の練習・ウォーキング)※5/26まで繰り返し行います。						
2回目	実習1:披露宴の基礎知識 (テーブルの扱い方・クロスのかけ方・卓上セッティング) シルバーセッティングを通し基本のテーブルマナーを学ぶ エチケット・マナー・プロトコルの違い						
3回目	実習2:披露宴の基礎知識 (テーブルの扱い方・クロスのかけ方・卓上セッティング・チェアサービス・プロトコル) テーブルマナー:フランス料理 シルバー類の使い方・大人の為のテーブルマナー・美しい食べ方1						
4回目	実習3:披露宴の基礎知識 (クロス張り・卓上セッティング・シャンパン・ワイン・グラスサービス トレーの使い方 プレートサービス3枚持ち) 披露宴テーブル担当挨拶 テーブルマナー:フランス料理 美しい食べ方2						
5回目	実習4:披露宴の基礎知識 (クロス張り・卓上セッティング・シャンパン・ワイン・グラスサービス トレーの使い方 プレートサービス3枚持ち) 披露宴テーブル担当挨拶 テーブルマナー:フランス料理 美しい食べ方3ワイン編						
6回目	実習5:披露宴の基礎知識 (クロス張り・卓上セッティング・シャンパン・ワイン・グラスサービス トレーの使い方 プレートサービス3枚持ち) 披露宴テーブル担当挨拶 実技試験対策(ボトルサービス・プレートサービス)						
7回目	実技確認(ボトルサービス・プレートサービス)/披露宴の基礎知識 披露宴に関わるスタッフの説明(披露宴を円滑に進める為の配役について)						
8回目	テーブルマナー実践 フランス料理						
9回目	披露宴の仕事:キャプテン業務 アシスタント業務 各配役の仕事を理解する。ゲストハウスとホテルの違い キャプテンの入場説明 テーブルマナー:和食・和懐石 日本の歳時記						
10回目	実技試験対策(キャプテンの入場説明)/模擬披露宴の配役決め テーブルマナー:日本の歳時記 中華料理						
11回目	実技確認(新郎・新婦への入場説明)/模擬披露宴リハーサル						
12回目	模擬披露宴 各配役に付き披露宴の流れを理解する。また、配役の仕事内容を次の担当者に説明し、仕事内容を説明できるようになる。						
13回目	披露宴当日の流れ ウェディングプランナーが新郎新婦との披露宴の打合せの際に気を付けること(会場のキャパシティ・配席表・進行表)、テスト範囲説明 テーブルマナー:韓国料理						
14回目	理解度チェック						
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ブライダルトータルコーディネートⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
フラワーコーディネーター 大手ホテル・ゲストハウスにてブライダルフラワーの打合せ、装飾、販売促進担当。現在フリーランスで活動。 フラワー装飾1級技能士・大阪府職業訓練指導員・AFT色彩検定1級・食空間コーディネーター							
【授業の学習内容】							
食空間コーディネーター3級の基本をベースとしたブライダルにおけるテーブルコーディネートを学ぶ。テーブルコーディネートの基本を学び、コーディネートデザイン、テーブルセッティングを行う。							
【到達目標】							
ブライダルにおけるテーブルコーディネートを理解し、プランニングからデザイン、セッティングが出来るようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	授業の目的と到達点について ・シラバスについて ・ブライダル会場コーディネートについて理解する						
2回目	テーブルコーディネート『食空間コーディネート』とは何かを理解する ・テーブルコーディネートの基礎理論、コーディネートアイテム①【洋陶磁器、グラス、カトラリーの種類(パーソナルアイテム)】						
3回目	コーディネートアイテム②【食卓装飾品・キャンドル・テーブルリネン・テーブルフラワー】						
4回目	テーブルコーディネートと配色テクニック ・イメージとカラーの関係性について						
5回目	テーブルセッティングについて【洋】 コーディネートプランニング～テーマ・コンセプト設定とコーディネート						
6回目	カメヤマキャンドル様ショールーム見学（9:40スカイビル集合11:40まで）						
7回目	テーブルコーディネートデザイン テーマ・コンセプト設定、カラーコーディネート、コーディネートアイテム(花・キャンドル)、ペーパーアイテム、クロス、ナフキン ①デザインシート						
8回目	テーブルコーディネートデザイン 作成したデザインシートを加えてPCでの提案シート作成 ②PCプレゼンシート						
9回目	テーブルセッティングについて理解し、セッティングを行う ③実習						
10回目	テーブルコーディネート発表会準備 テーマ、コンセプト決定 カラーコーディネート、アイテム決定、デザインシート作成※カラーカード・色鉛筆						
11回目	テーブルコーディネート発表会準備 テーブルフラワー作成 デザインシート作成 ④PCプレゼン資料・コーディネートデザインシート						
12回目	テーブルコーディネート発表会準備 カメヤマキャンドル様ショールームにてテーブルコーディネート 撮影						
13回目	テーブルコーディネート発表会 プレゼン形式で撮影画像・コーディネートデザインシートも加えて発表						
14回目	理解度チェック						
15回目	理解度チェック(欠席者)/復習						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
筆記用具							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ブライダルヘア&メイクⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
ブライダルヘアメイクアーティストとして長年活動、講師業も行いながら現在に至る。 ブライダル現場でのノウハウを伝える授業の他、JMA(日本メイクアップ技術検定協会)認定講師、JMA shu-uemura認定講師も兼任し、メイクアップ技術の養成に携わっている							
【授業の学習内容】							
現在ネットなどでも様々なヘアセットの情報がある中で、ヘアセットの基本となるホットカーラー・こて巻き・ピン・ゴム等の使い方がしっかりと身につき、ブライダルヘアアレンジの接客へと繋がる確かな基礎技術を身につけます。							
【到達目標】							
基礎技術を身に付け、ブライダルに必要な面出しスタイルや、動きのあるスタイルが作れるようになる技術を目指します。							
回数	授業計画・内容						
1回目	【ヘア基礎①】ヘア道具の名称、道具の管理ができるようになる。						
2回目	【ヘア基礎②】頭部名称を学び、ブロッキングができるようになる。(ウィッグ)						
3回目	【ヘア基礎③】ブロッキング復習・ホットカーラーの巻き方の基本を知り巻く事ができるようになる。(ウィッグ)						
4回目	【ヘア基礎④】ホットカーラーの巻き方の基本を知り巻く事ができるようになる。(ウィッグ タイムトライアル)						
5回目	【ヘア基礎⑤】ゴム・ピンを扱い、一束結び・ハーフアップ・ピニングができ簡単なスタイルを作ることができる。						
6回目	【ヘア基礎⑥】基礎技術を使いハーフアップ・簡単なアップスタイルができるようになる。逆毛が立てれるようになる。						
7回目	【ヘアアレンジ① こて巻き・逆毛・ハーフアップ】・ブロッキングしピニングでハーフアップができるようになる(面出し・ルーズ) ※4・5限目 5月8日振替						
8回目	【ヘアアレンジ② 編み込み・ルーズアップスタイル】 表編み・裏編みや簡単なルーズアップスタイルができるようになる。						
9回目	【ヘアアレンジ③ 面出しスタイル】 きれいな面を生かした、夜会巻き・シニヨンスタイルができるようになる。						
10回目	【ヘアアレンジ④ 面出しスタイル】						
11回目	【ヘアアレンジ⑤ 面出しスタイル】						
12回目	【中間テスト】夜会巻き・シニヨンを時間内に仕上げる事ができるようになる。(ウィッグ使用)						
13回目	【ヘア実践①】夜会巻き・シニヨンを相モデルで仕上げる事ができるようになる。						
14回目	【実技チェック】基本バランスに沿ったメイクアップに合わせてハーフアップ・夜会巻き・シニヨンが仕上げられるようになる(相モデル)						
15回目	【実技チェック欠席者&まとめ】これまでの内容を振り返り、内容を復習し、疑問点を解消することができるようになる(相モデル)						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
メイク道具一式							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	MCスキルⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
SUTVの情報番組のキャスター、地元のfmラジオのパーソナリティー等を経てブライダル司会者へ。2000組のカップルの司会を担当。関西一円のゲストハウスやホテルで司会、また関西4つのゲストハウスのオープニングに携わり司会も担当。現在は司会事務所株式会社カルテットを経営。司会者の育成と共に20名の司会者とともに「言葉の力でいい結婚式を」と毎週たくさんの結婚式をお任せいただいている。							
【授業の学習内容】							
個性を活かし自身の想いを自信をもって「伝える力」を身につけるとともに、相手の話を傾聴し理解し共感する「聞く力」を習得する。							
【到達目標】							
第一印象から大切に。少しの言葉のやりとりで相手が安心して心を開きたくなる豊かなコミュニケーション能力が身につくようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	(オリエンテーション)講師の自己紹介と授業の説明。生徒の自己紹介。						
2回目	印象のよい姿勢・呼吸・視線をマスターする。第一印象の大切さを理解できるようになる。						
3回目	声量・テンポ・滑舌などをマスターする。相手に聞き取りやすい声の届け方ができるようになる。						
4回目	シチュエーションによって伝え方を変化対応する力をマスターする。臨機応変に対応できるようになる。(職場において)						
5回目	シチュエーションによって伝え方を変化対応する力をマスターする。臨機応変に対応できるようになる。(お客様に対して)						
6回目	シチュエーションによって伝え方を変化対応する力をマスターする。臨機応変に対応できるようになる。(自然のなかで)						
7回目	シチュエーションによって伝え方を変化対応する力をマスターする。臨機応変に対応できるようになる。(室内のなかで)						
8回目	ナレーション原稿を読める力をマスターする。文字への抵抗がなくなり初見でも読んで伝えられるようになる。						
9回目	感情を込めた表現をマスターする。より相手にまっすぐ言葉を届けられるようになる。						
10回目	音楽のテンポにあわせて言葉を伝える力をマスターする。声のトーンで空間の空気をつくれるようになる。						
11回目	マイクを使って人前で話す力をマスターする。姿勢・視線・テンポ・音質など聞き取りやすくマイクで話せるようになる。テーブルサービスコンテストの原稿に基づいて正しいアクセント、イントネーションで読めるようになる。						
12回目	傾聴する力をマスターする。相手の声・想いを受けとめ心からの会話のキャッチボールができるようになる。テーブルサービスコンテストの原稿に基づいて滞りなくMCができるようになる。						
13回目	自分の個性を活かし、自分の言葉で自己紹介・自己表現をマスターする。フリートークができるようになる。(テーブルサービスコンテストの原稿に基づいてのMCの選抜)						
14回目	理解度チェック :各自でシチュエーションを決めて自己紹介＋フリートーク 発表						
15回目	理解度チェック :各自でシチュエーションを決めて自己紹介＋フリートーク 発表 (欠席者) ・復習						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ブライダル実務Ⅱ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
大学卒業後、病院秘書、旅行会社営業内勤を経て、2004年～ウェディングプランナーになる。ゲストハウス、ホテル、レストラン、プロデュース会社を経て、2013年よりフリーランスに転身し、現在は、2020年にオープンしたホテルにてオープニングメンバーのプランナーとして現場の最前線に立つ。							
【授業の学習内容】							
ヒアリングの重要性を実感し、お客様との会話や営業、接客に活かせるようあらゆる場面のロープレを通してヒアリングの技術を取得する。また自分を取り巻く方々との会話で相手の話の意図を理解し、有効な人間関係を築けるようになる。							
【到達目標】							
お客様や友人、上司、家族のお話に対して共感する態度や聴き方の基本を学習し、会話を引き出し、それを自身の「思考フレーム」に落とし込み、お客様の本当のニーズを把握できるようになる。また自己一致のもと、相手のお話を素直に聴くことができるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション。個人面談でヒアリングを個別チェック						
2回目	聞くと訊くの違いを理解できるようになる(ブライダルの現場で起きるお客様との「行き違い」について、質問と尋問の違い)						
3回目	自分の心の声を聴く訓練。相手の話を聴くために必要な態度、しぐさ、あいづちがわかるようになる。						
4回目	自分の心の声を聴く訓練。人は聴いてほしい生き物だということが理解できるようになる。(相手にありのままを無条件に受け入れてくれるという安心感を与える)						
5回目	自分の心の声を聴く訓練。相手の話に対して、共感・受容・偏見を持たないで会話できるようになる。(相手がおかしいと感じるとき)						
6回目	本音はどこにあるのか?を考えながらヒアリングできるようになる。頭の中で相手の話を組み立てる方法を理解できるようになる。						
7回目	3人一組になって、お客様と接客者を演じ、自分のヒアリングを向上させることが出来るようになる(会場を決めるための新規接客におけるヒアリング)						
8回目	3人一組になって、お客様と接客者を演じ、自分のヒアリングを向上させることが出来るようになる(クレームの場面におけるヒアリング)						
9回目	3人一組になって、お客様と接客者を演じ、自分の電話対応におけるヒアリングを向上させることが出来るようになる						
10回目	3人一組になって、お客様と接客者を演じ、自分のヒアリングを向上させることが出来るようになる(上司、友人との会話でのヒアリング)						
11回目	ヒアリング実技能力確認(実技試験),DVD鑑賞						
12回目	実技確認予備日(6/30欠席者)筆記試験対策、DVD鑑賞						
13回目	ヒアリングゲーム						
14回目	期末実力確認(筆記試験)						
15回目	実力確認 追試日 感想文作成						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ドレススタイリスト実務Ⅱ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						

【担当教員 実務者経験】

フタバウェディング株式会社、TAKAMI株式会社、レック株式会社に勤務してブライダルスタイリスト、和装コーディネーター、ウェディングプランナー、ウェディングフォトを担当しその後デジタルアルバムYs createを起業。

【授業の学習内容】

実践を通し、ドレスの着装をします。お客様への気遣いやお声がけ方法も学びます。

【到達目標】

ドレスの種類や素材をしり、着装が出来るようになる。ドレスコーディネーターのご案内の一連の流れを知る。

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション 講師自己紹介・生徒自己紹介/基礎知識のおさらい(ライン、素材、パーツ名称等)、着装の流れを実施
2回目	小物類のおさらい(パール、ヘッドパーツ、ブライダルインナー等)、着装⇒ヘアセット⇒小物セットまでの流れを学ぶ
3回目	ヒアリング～着装～ヘアセットまでの一連の流れを実施する
4回目	採寸(新郎新婦、ご両親、兄弟等)、お直し、裾上げ/実際のサイズ合わせを行う
5回目	来店予約までの流れを学ぶ(お客様はどのようにしてご予約をお取りいただくのか、集客方法はどのようなものがあるか)/電話対応
6回目	①ドレスブランドのリサーチ(1人1社)/ プレゼンテーション(何故このドレスブランドが良いか、自分ならどのように販売するか)
7回目	②タキシードについてのおさらいとリサーチ(小物類、色味、形)/ プレゼンテーション
8回目	ヒアリングの基礎のおさらいと重要さを学ぶ(カウンセリングシートを使用)
9回目	シチュエーション毎の接客方法を学ぶ
10回目	ケース①マタニティ
11回目	ケース②親御様連れ
12回目	スタイリスト練習①
13回目	スタイリスト練習②
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)/復習

評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ブライダルコーディネート技術検定3級	授業 形態	講義	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
神戸・沖縄でのウェディングプランナーを8年経験し約350組の結婚式を担当。その後、専門学校・短期大学においてブライダル業界で活躍できる人材育成に携わっている。							
【授業の学習内容】							
BIA公益社団法人日本ブライダル文化振興協会発行の『ブライダルコーディネートテキスト』『ブライダル用語辞典』を使用し、ブライダル業界で活躍する上で必要な基本知識の修得をワークを通して図るとともに、1月に実施されるブライダルコーディネート技能検定の3級技能士の資格取得を目指す。							
【到達目標】							
ブライダル業界で活躍するうえで必要な基本知識をワークを通して修得し、用語についても説明できるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	・ガイダンス・検定についての説明・【ブライダル関連業種】について理解し、それぞれの役割について説明することができるようになる。						
2回目	・ブライダル用語辞典小テスト11回目・【ブライダル業種】【衣装選定】【ヘアメイク、ネイルアート】について理解し、それぞれの役割について説明することができるようになる。						
3回目	・ブライダル用語辞典小テスト12回目・【ブーケ・フラワーアイテムの選定】について理解し、それぞれのアイテムについて説明することができるようになる。						
4回目	・ブライダル用語辞典小テスト13回目・【会場コーディネート】について理解し、それぞれのアイテムについて説明することができるようになる。						
5回目	・ブライダル用語辞典小テスト14回目・【ペーパーアイテム】【婚礼料理・ウェディングケーキ】について理解し、それぞれの特徴について説明することができるようになる。						
6回目	・ブライダル用語辞典小テスト15回目・【見合いと婚約】について理解し、説明することができるようになる。						
7回目	・ブライダル用語辞典小テスト16回目・【結納式の変遷と由来・婚約式】について理解し、説明することができるようになる。						
8回目	・ブライダル用語辞典小テスト17回目・【ブライダルのエリア特性】について理解し、それぞれの特徴について説明することができるようになる。						
9回目	・ブライダル用語辞典小テスト18回目・【欧米の結婚式】について理解し、国や宗教によって異なる特徴について説明することができるようになる。						
10回目	・ブライダル用語辞典小テスト19回目・【コーディネーター業務①・②】について理解し、説明することができるようになる。						
11回目	・【ブライダルセールスの特徴】【成約業務】について理解し、説明することができるようになる。						
12回目	・【成約から当日までの一連の業務】について理解し、説明することができるようになる。						
13回目	・【技能検定対策①】過去問題を通して、出題傾向を理解したうえで、自身の苦手分野に特化して取り組み、他者に説明できるようになる。						
14回目	・【技能検定対策②】過去問題を通して、出題傾向を理解したうえで、自身の苦手分野に特化して取り組み、他者に説明できるようになる。						
15回目	・【技能検定対策③】過去問題を通して、出題傾向を理解したうえで、自身の苦手分野に特化して取り組み、他者に説明できるようになる。						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
ブライダルコーディネート技術検定テキスト・筆記用具							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	着付Ⅱ	授業形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
フタベウェディング株式会社、TAKAMI株式会社、レック株式会社に勤務してブライダルスタイリスト、和装コーディネーター、ウェディングプランナー、ウェディングフォトを担当しその後デジタルアルバムYs crreateを起業。							
【授業の学習内容】							
着付技能士1級では振袖の着付のテストです。卒業後テストを受ける期間になったときに合格できるレベルの技能習得をお伝えいたします。帯結びは基本のふくら雀とオリジナル帯結びの構築を致します。							
【到達目標】							
2年間の集大成としてプロとしての技術習得を目標にします。							
回数	授業計画・内容						
1回目	振袖の補正を学ぶ						
2回目	振袖の補正と長襦袢の着付、伊達締めの使用を学ぶ						
3回目	振袖の補正、長襦袢と振袖の着付 下半身の江戸襷紋様の出し方と適切なまわしの位置を学ぶ						
4回目	振袖の補正、長襦袢と振袖着付け、上半身の絵柄の出し方、袖の合わせ方を学ぶ						
5回目	振袖の補正、長襦袢と振袖着付けまでの練習①						
6回目	振袖の補正、長襦袢と振袖着付けまでの練習②						
7回目	振袖着付け中間チェック						
8回目	振袖の帯結び ふくら雀を学ぶ 手順						
9回目	振袖の帯結び ふくら雀を学ぶ バランスについて						
10回目	振袖帯結び ふくら雀を学ぶ 技能試験要項通りの形について①						
11回目	振袖帯結び ふくら雀を学ぶ 技能試験要項通りの形について②						
12回目	振袖帯結び ふくら雀のチェック						
13回目	振袖帯結び オリジナル帯結びを考案する						
14回目	振袖帯結び オリジナル帯結びを制作						
15回目	振袖帯結び オリジナル帯結び制作						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ドレススタイリスト検定	授業形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
フタバウェディング株式会社、TAKAMI株式会社、レック株式会社に勤務してブライダルスタイリスト、和装コーディネーター、ウェディングプランナー、ウェディングフォトを担当しその後デジタルアルバムYs crreateを起業。							
【授業の学習内容】							
ドレスの歴史から学び、基礎知識から提案方法やドレスの制作に必要なスキルまで学ぶ。							
【到達目標】							
ドレススタイリスト検定の取得を目指す。							
回数	授業計画・内容						
1回目	ドレススタイリストの役割理解と業界知識の基礎を学ぶ						
2回目	ブライダルシーンの種類とドレス選びの基本ルール						
3回目	ドレスのラインとシルエットの特徴と似合う体型分析						
4回目	素材・生地の種類と特徴、季節とのコーディネート						
5回目	アクセサリーの種類とドレスとのトータルコーデ提案						
6回目	ベール・ヘッドドレス選びとフェイスラインとの関係						
7回目	カラードレスの色彩理論と花嫁の印象演出						
8回目	和装の種類、名称、婚礼でのマナー知識の習得						
9回目	新郎衣装の種類とコーディネートの基礎						
10回目	ヒアリング技法と花嫁の希望を引き出す接客力育成						
11回目	試着アシストの技術とドレスフィッティング実践						
12回目	式場・演出に合わせたドレス提案と実例研究						
13回目	トラブル対応と挙式当日の動き、現場対応力向上						
14回目	模擬接客とコーディネート提案の実技演習						
15回目	検定対策講座と総復習、プレテスト実施						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
ドレススタイリスト検定テキスト・筆記用具							

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	宿泊マネジメントⅡ	授業 形態	講義	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
複数の外資系、日系ホテル開業に携わり、ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントレセプションMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェ이터、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。現在はホテル・レストラン運営コンサルタントとして活動。スモールラグジュアリーホテル副総支配人。1996年第1回日本メートルドテルコンクール)第5位。全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジオルジュバティスト協会)主催レストランサーヴィスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サーヴィスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員。							
【授業の学習内容】							
宿泊部門の収益最大化を目指し、マーケット分析、宿泊プランの企画・造成、販売戦略の立案といった集客のための実践的な営業活動に焦点を当てて学ぶ。							
【到達目標】							
市場(顧客・競合)を分析し、自ホテルの強み・弱みを明確にできる。 ターゲット顧客のニーズに基づき、魅力的で収益性の高い宿泊プランを造成できる。 造成したプランを効果的に販売するためのプロモーション戦略やフェア企画を立案できる。							

回数	
1回目	宿泊部門における営業活動の重要性、レバニューマネジメントの概論、本授業のゴールを確認できる。
2回目	競合分析(SWOT分析)、ターゲット設定、顧客のデモグラフィック・サイコグラフィック分析ができる。
3回目	「売れる」プランの要素、プランコンセプトの具体化とUSP(独自の売り)の設定ができる。
4回目	プランの原価計算、ブレイクイーブンポイント(損益分岐点)の理解、競争力のある価格設定ができる。
5回目	ルームタイプ別、期間別の基本プランの設計、特典(アメニティ、サービス)の設定ができる。
6回目	ターゲット特化型プランの造成(例:記念日、女子旅、ビジネス、インバウンド)ができる。
7回目	季節・地域特性を活かしたフェアの企画、他部署(料飲・宴会)との連携ができる。
8回目	主要OTAの特性比較、ランキング上位表示のための工夫、クチコミ対応と活用ができる。
9回目	自社予約システム導入のメリット、SEO/SEMの基礎、SNS(Instagram, Xなど)を活用した情報発信ができる。
10回目	顧客データの収集と分析、ポイントプログラム、メルマガなどを用いた優良顧客の育成ができる。
11回目	プレスリリースの作成方法、メディアへのアプローチ、パブリシティ獲得の技術をまなぶ。
12回目	予約数、客単価、販売チャネル別実績などのデータ分析、ROI(投資収益率)の基本的な考え方が理解できる。
13回目	現役のホテル営業・企画担当者などを招き、現場のリアルな成功事例を学ぶ。
14回目	理解度チェック
15回目	振り返り: 1. 試験解説 2. その他質疑応答
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師がレジュメを準備する	

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	料飲マネジメントⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
2000年6月神戸ポートピアホテル フレンチレストラン アランシャベル支配人に就任 2012年5月 トランテアン(アランシャベル閉店後のフレンチ)支配人に就任 2012年12月 日本料理神戸たむら 支配人に就任 2019年4月和食 中華グループ 7店舗レストランの統括支配人に就任 2023年7月料飲部 部長付支配人クオリティ担当に就任 またポートピアホテルで社内講師も兼任する。ホテル32年勤務のち 2023年11月人材会社 株式会社ホテリアスタッフ 西日本統括本部長就任 現在に至る。(有資格) ソムリエ HRS1級 西洋料理テーブルマナー講師 日本料理テーブルマナー講師 英検2級							
【授業の学習内容】							
レストランや宴会におけるメートル・ド・テル(Maitre d'hôtel/給仕長)の役割と業務内容を理解し、実践的なスキルを習得する。							
【到達目標】							
メートル・ド・テルに求められる組織運営、予約管理、収益管理の知識を習得する。 お客様の状況を察知し、クレーム対応を含む高いレベルのホスピタリティを提供できる。 料飲スタッフ(サービスチーム)を効果的に指導・配置し、円滑なオペレーションを実現できる。 テーブルサービスやワインサービスなど、高度なサービス技術を理解し、指導できる。							

回数	
1回目	役割の定義、求められる資質(リーダーシップ、ホスピタリティ)、他の部署との連携を学ぶ。
2回目	予約システム(台帳)の管理、テーブルアサインの最適化(顧客属性、オペレーション効率)を学ぶ。
3回目	サービスの体制(ステーション制など)、スタッフ配置(ポジショニング)、トレーニング方法を学ぶ。
4回目	お客様の入店から退店までの動線管理、状況に応じた挨拶、お見送りの際の付加価値提供を学ぶ。
5回目	メニュー構成の基礎、料理のセールスポイント解説、アレルギー・嗜好への対応について理解する。
6回目	料理提供の正確な手順、トレンチ・トレーサービス技術の復習と応用を学ぶ。
7回目	カービング、フランパ、デクパージュなど、テーブルサイドでのサービス実技を学ぶ。
8回目	ソムリエとの連携、ワインリストの管理、抜栓・デキャンタージュの実技、ドリンクのレコメンド方法を学ぶ。
9回目	貸切・宴会時の席次、タイムスケジュール管理、通常営業とのオペレーションの違いを理解する。
10回目	クレーム発生時の初期対応とエスカレーション、お客様の心理理解、迅速な解決策提示ができるようになる。
11回目	FLコスト(Food & Labor)、営業中のロス管理、人件費の効率的なコントロールを学ぶ。
12回目	アンケート・クチコミ分析の活用、従業員のモチベーション向上、フィードバックの与え方を学ぶ。
13回目	繁忙時の設定で、予約からサービス完了までの一連のオペレーションをメートル・ド・テルとして統括・指揮する。
14回目	模擬スタッフ(クラスメイト)に対し、サービス基準や当日業務の指示出しを行う。
15回目	理解度チェック／総復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が作成するレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	エアライン接客Ⅳ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
JALグループで2004～2018年まで先任客室乗務員として乗務する。安全で快適な空の旅を提供するとともに、安全担当として後輩育成にも注力してきた。							
【授業の学習内容】							
高度なビジネスマナーと社会人としての一般教養を基盤とし、さらにキャビンアテンダント(CA)やグラウンドスタッフ(GS)に求められる応用的な接客スキル、危機管理、グローバルな対応力を体系的に学ぶ。							
【到達目標】							
社会人として求められるTPOに応じた適切なマナーと言葉遣い(敬語)を習得する。 儀礼、贈答、慶弔に関する知識を理解し、実務において適切に対応できる。							
回数							
1回目	オリエンテーション 授業の目的と進め方、エアライン接客の再確認、秘書検定の概要と活かし方を理解する。						
2回目	職業人としての心構え、清潔感・機能性を考慮した身だしなみ、プロフェッショナリズムを学ぶ。						
3回目	機内・空港特有の放送、搭乗・降機時の適切な案内表現、丁寧語・謙譲語の応用トレーニング。						
4回目	電話応対における敬語、社内・社外の使い分け、外国人のお客様への接客表現の実践トレーニング。						
5回目	適切な席次(上座・下座)、名刺交換、お茶の出し方、訪問時の心得とアポイントメントについて理解する。						
6回目	VIP、体調不良者、車椅子利用者、小さなお子様連れなどへの具体的なサポート方法を学ぶ。						
7回目	機内食の提供手順、アレルギー対応、ドリンク(アルコール含む)の知識とサービスを理解する。						
8回目	結婚式、葬儀、病気見舞いなどにおける服装・挨拶、お悔やみの言葉遣いとタブーを学ぶ。						
9回目	稟議書・企画書の構成、ビジネスレター(社外・社内)の基本形式、Eメールマナーを理解する。						
10回目	宗教、習慣、価値観の違いによる対応の違い、ユニバーサルサービスへの理解を深める。						
11回目	フライトの遅延・欠航、手荷物紛失・破損時の初期対応、情報の伝達方法を学ぶ。						
12回目	航空機の種類、主要空港コード、世界の航空連合、最新の業界ニュースとトレンドについて論じることができる。						
13回目	複数の緊急事態が同時発生した際の優先順位付けと迅速な対応の判断トレーニング。						
14回目	搭乗から降機までの接客、安全、緊急対応を統合した総合ロールプレイング。						
15回目	授業全体のまとめ、エアライン接客に関する応用知識・判断力を確認する。						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
講師のレジュメを使用する							

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	エアライン就職対策Ⅱ	授業形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2009年JALグループに新卒入社。先任客室乗務員としてVIPを含め旅客対応を担う。							
【授業の学習内容】							
完成した応募書類の内容を基に、個人面接、グループディスカッション/ワーク、集団面接といった選考形式に対応できる実践的なコミュニケーション能力とビジネスマナーを徹底的に磨き上げる							
【到達目標】							
・いかなる質問形式(自己PR、志望動機、困難克服など)にも自信を持って論理的に回答できる。 ・グループワークにおいてリーダーシップと協調性を両立させ、組織での貢献意欲を示せる。 ・面接における身だしなみ、立ち居振る舞い、言葉遣いにおいて高いレベルのプロフェッショナリズムを発揮できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション 面接の種類(個人、集団、グループ)。面接官が評価する5つのポイント(熱意、適性、論理性、マナー、健康)を理解する
2回目	ノック、挨拶、お辞儀、椅子の座り方、退室までの一連の動作を反復練習を行う
3回目	敬語の正しい使い方、丁寧語、謙譲語。面接でのアイコンタクト、微笑みの練習をする
4回目	志望動機、自己PR、入社後の目標など、核となる質問への回答を、ESの内容と齟齬がないようチェックする
5回目	「最近気になるニュース」「他社との違い」「弊社の欠点」など、考える力が試される質問への論理的回答練習を行う
6回目	GDの目的(チームワーク、傾聴力、貢献度)。発言のタイミングとファシリテーター、タイムキーパーの役割を実践する
7回目	観光やサービスに関する具体的な課題解決テーマ(例:インバウンド増加策)でGDを実践し、フィードバックを行う
8回目	GDとは異なるGW(共同作業)の形式への対応。傾聴力と貢献意欲をバランス良く示す練習をする
9回目	集団面接での制限時間内(1分～1分半)での効果的な自己アピールと、他の受験生との差別化をする
10回目	英語での自己紹介、志望動機、海外経験に関する質問対応。発音、表現力、度胸を鍛える
11回目	外資系で頻繁に行われるグループプレクリエーション(ゲーム形式)を通じた協調性と柔軟性の評価対策を行う
12回目	全日本空輸(ANA)、日本航空(JAL)など、日系大手FSCの採用形式を想定した個人模擬面接を行う
13回目	LCCや外資系の面接で求められる明るさ、個性、バイタリティを意識した集団模擬面接を行う
14回目	筆記試験から最終面接までの全体像を再確認。面接対策の疑問点解消と個別相談を行う
15回目	採用選考の最終フェーズを想定した総合的な模擬面接を実施し、評価(フィードバック)を行う
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	外国語	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	Global CommunicationⅣ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
金欄短期大学英文科卒業。実用英語技能検定1級取得。英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U4.1 推測の表現を用いて、絵や写真の描写をする
2回目	U4.2 関係代名詞を使って、ネット等で注目されている人、ストーリーについて話す
3回目	U4.3 [all]を使い、強調したい内容を述べる練習をする 意見を交換し、ディスカッションをする
4回目	U4.4 ローカルビジネスについての記事に対する反応を読む、書く
5回目	U4.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「広告をデザインする」 ・学期末プレゼンと連動する内容
6回目	U5.1 過去完了を使って、 様々な種類のストーリーについて話す
7回目	U5.2 [was/were going to, was/were supposed to]を使って、計画の変更について話す
8回目	U5.3 失望を表す表現を使って、残念なニュースへのリアクションをする
9回目	U5.4 会社の(公式の)謝罪についての記事を読む、謝罪の手紙を書く
10回目	U5.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「偶然の出会いについてのストーリー」 ・学期末プレゼンと連動する内容
11回目	U6.1 チャリティやボランティア活動について話す
12回目	U6.2 近所の人の親切な行為について話す
13回目	U6.3 様々な助けが必要な場面での会話を練習する
14回目	U6.4 コミュニティ計画についてのレポートを読む、書く
15回目	U6.5 Time to Speak:学期末プレゼン
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%／実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	
Evolve	

授業シラバス

科目名	外国語	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	英文法&英会話Ⅳ	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U4.1 広告に関する表現を学ぶ [might, must, can't](推測)の使い方を学ぶ
2回目	U4.2 メディア関連の人を表す表現を学ぶ 関係代名詞の主格、目的格について学ぶ
3回目	U4.3 /ɔ/, /ɑ/の発音について学ぶ 意見交換・ディスカッションする際の表現を学ぶ、allを用いた強調表現を学ぶ
4回目	U4.4 [because,so]を用いて理由や結果を述べる表現を学ぶ
5回目	U4.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U5.1 ストーリーの種類を表す表現を学ぶ [had/would](過去完了形)の使い方を学ぶ
7回目	U5.2 計画を立てる・破る際の表現を学ぶ [was/were going to, was/were supposed to]の使い方を学ぶ
8回目	U5.3 語末の子音の発音について学ぶ 問題への対応、解決策の提示・受領の表現を学ぶ、失望を表す表現を学ぶ
9回目	U5.4 謝罪の気持ちを表す様々な表現を学ぶ
10回目	U5.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U6.1 善い行いに関する表現を学ぶ 「受動態(現在形、過去形)」を学ぶ、復習する
12回目	U6.2 良い行いを表す動詞・名詞・形容詞の形を学ぶ 「受動態助詞」[must, might, can, will]の使い方を学ぶ
13回目	U6.3 /b/, /v/の発音について学ぶ 助けを求める、また断る際の表現を学ぶ
14回目	U6.4 語中の/j/の発音について学ぶ レポートの中での意見を述べる表現を学ぶ
15回目	U6.5 Unitの復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
Evolve	

授業シラバス

科目名	エクステンションゼミ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	Wメジャーエアライン基礎	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2009年JALグループに新卒入社。先任客室乗務員としてVIPを含め旅客対応を担う。							
【授業の学習内容】							
航空業界について詳しく知り、将来のキャリアの選択肢として考察することができる。							
【到達目標】							
航空業界の職業に従事する上で、必須となる知識を習得する。業界の最新情報を自ら習得し、まとめ、発表する力を身につけることができる。業界用語を知ることにより、面接やディスカッションにも活かすことができる。							

回数	
1回目	オリエンテーション 今後行われる講義について知ることができる
2回目	航空会社の違いを理解することができる
3回目	CA・GSについて詳しく知ることができる
4回目	航空機の基本構造を知ることができる
5回目	空港内サービスや施設について学び、様々な職種と伊丹空港や関連施設について知ることができる
6回目	空港内サービスや施設を見学し、様々な職種と関西空港や関連施設について知ることができる
7回目	自分自身に合った航空会社や業種を知ることができる
8回目	コロナ禍が航空業界にもたらした影響を知ることができる
9回目	3レターの知識を得ることができる、CAストーリーの作成
10回目	グランドスタッフ・CAとのチームワークについて知ることができる
11回目	航空整備士や管制官など航空業界の様々な職業、CAとのチームワークについて知ることができる
12回目	航空業界の専門用語を学ぶことができる
13回目	航空会社の経営上の特徴、その他業界との違いを理解できる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が作成したレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	エクステンションゼミ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	Wメジャー調理	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
ハイアットリージェンシーオーサカに10年勤務。その後、飲食店を開業。 これまでに20か国以上のシェフや友人から料理や文化の情報交換をし、業務に携わる。 現在は株式会社ジスタスの代表取締役。 飲食事業のコンサルティング、農作物販売、人材教育、心理カウンセラーとしても活動している。							
【授業の学習内容】							
ジャンルを問わず、各国料理や保存食・作り置きを学ぶことにより調理の知識やスキルのアップを図る							
【到達目標】							
知識・技術… トルコ、ベトナムなどのエスニックの調理法や独自の調味料を使用したり 保存食などの仕込み法を身につける。 キャリア教育… グループでの実習で協力し、時間の管理・衛生管理を行いながら調理～片付けなどを行う							

回数	授業計画・内容	
1回目 2回目	トルコ料理の調理方法 ドネルケバブ・ピーマンのドルマ・フムス	
3回目 4回目	スパイスの使い方 タンドリーチキン・サモサ・ショウガ風味のアイス	
5回目 6回目	作り置きの注意点 レバーパテ・レーズンバター・ドライフルーツのコンポート	
7回目 8回目	調味料の扱い方 バインセオ・ベトナム風豚の角煮・バインフラン	
9回目 10回目	イタリア料理の調理方法 ナポリ風ミートボールの煮込み・手打ちパスタ・白いんげんのサラダ	
11回目 12回目	韓国料理の調理方法 豚肉の薬味みそ焼き・豆乳とおぼろ豆腐のスープ・豆もやしごはん	
13回目 14回目	保存食の取り扱い 手作りソーセージ・ザワークラウト・手作りロースハム	
15回目	課題レポート作成	
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される	
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 課題提出	
【使用教科書・教材・参考書】		
講師配布の授業レシピ		

授業シラバス

科目名	エクステンションゼミ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	Wメジャー製菓	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
1981～1985 芦屋パティシエ・ドゥ・ミシェルにてお菓子の製造に携わり、阿部忠二氏に師事をうける。 1985～1986 ホテルプラザにてお菓子の製造に携わる。 1986～1996 ホテルニューオータニ大阪にてアシスタントシェフとして勤務する。 1999～現在 大阪夕陽が丘にケーキ・ド・コーキを開業しオーナーシェフとして商品の製造、開発、スタッフ育成を行う。							
【授業の学習内容】							
色々な菓子を作る中で製菓の基礎知識、基礎技術を学ぶ							
【到達目標】							
知識・技術… 器具や食材の扱い方や、お菓子作りの基礎をマスターする。							
キャリア教育… 挨拶、返事はもちろん、チームで作業効率をあげることができる。時間管理ができる。 効率的な準備片づけ・清掃・整理整頓ができる。							

回数	授業計画・内容
1回目 2回目	製菓実習を行う上での心構えを理解することができる。ペティーナイフを使って様々なフルーツを 同じ形に切ることが出来るようになる。”☒
3回目 4回目	計量手順の確認 クレームブリュレ、サブレ生地 基本材料の性質を理解しながら的確に仕込むことが出来るようになる。
5回目 6回目	フロランタン チョコチップクッキー さまざまな仕込みのクッキー生地習得ができる。
7回目 8回目	シフォンケーキ、クッキー仕込み 道具の使い方、チームでの動き方を再確認し、焼き菓子を作ることが出来る。
9回目 10回目	タルトフレーズ タルトレットフリュイ タルト生地の伸ばし、型はめ、クレームダイヤモンド仕込みが実践できる。
11回目 12回目	ニューヨークチーズケーキ バスクチーズケーキ 様々な基本的製造方法を理解し、実践できる。
13回目 14回目	シュークリーム 紅茶シフォン クレームパティシエールを確実に仕込むことができる。
15回目	授業のまとめを行う。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験:課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	
配布レシピ、ボールペン	

授業シラバス

科目名	エクステンションゼミ Wメジャー製パン	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
		授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
平成元年～平成12年 ベーカリー ル・パンーにてパンの製造に携わる。 平成12年～平成16年 パンランド・シェ・ミチコにてパンの製造に携わる。 平成16年～現在 スイスホテル大阪南海 にてベーカリー料理長としてホテル内の宴会場、レストラン、ショップで提供される全てのパンを管轄している。							
【授業の学習内容】							
食材や器具の取扱い、製菓製パンの技術を様々なレシピを通して基礎技術となる成形、分割、焼成を行っていきます。 レシピはパンを中心にその中に入る具材となる調理系、製菓系など色々な国パンを作り、理論、技術も一緒に行います。							
【到達目標】							
知識… ミキシング、発酵、成形、焼成等、製菓製パンの基本的な作り方を理論で理解する 技術… パンの手捏ね。生地混ぜ方。副材料を使用したバリエーションを学ぶ。 キャリア教育… グループでの作業性、時間管理。掃除、整理整頓。							

回数	授業計画・内容
1回目 2回目	イングリッシュマフィン スウィート エッグベネディクト ※味のバランスを学ぶ イギリスのパンを学ぶ。 料理との合わせ方を学ぶ。
3回目 4回目	ワインローフ シュトーレン ※生地の仕込み方を学ぶ ドイツのパンを学ぶ。 クリスマスの伝統的なパンを学ぶ。
5回目 6回目	ベーグル ベーグルサンド ※ケトリング、味のバランスを学ぶ ポーランドのパンを学ぶ。 サンドイッチの構成を学ぶ。
7回目 8回目	クグロフチョコラ ※生地の扱い方を学ぶ フランスのパンを学ぶ。 クリスマスの伝統的なパンを学ぶ。
9回目 10回目	チャパタ チャパタサンド ※味のバランス イタリアのパンを学ぶ。 サンドイッチの構成を学ぶ。
11回目 12回目	マラサダドーナッツ ※ドーナツの揚げ方を学ぶ ハワイのドーナッツを学ぶ。 油調を学ぶ。
13回目 14回目	ピタパン ピタサンド ※綿棒の使い方を学ぶ 中東の国のパンを学ぶ。 サンドイッチの構成を学ぶ。
15回目	課題レポート作成
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験:課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	
実習器具一式・レシピ・iPad	

授業シラバス

科目名	スキルアップゼミ	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	
	シュシュウェディングⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。							
【授業の学習内容】							
一般のお客様を対象に、本物の結婚式をプロデュースする。							
【到達目標】							
ブライダルフェアの企画から取り組みの周知、集客、プランニング、施工までの一連の流れを実際にプロデュースをして学ぶ。							

回数	授業計画・内容
1回目	ゼミの概要、メンバー紹介
2回目	ブライダルフェアについての企画立案
3回目	ブライダルフェアについての企画立案
4回目	ブライダルフェアについての企画立案
5回目	ブライダルフェアについての企画立案
6回目	ブライダルフェアについての企画立案
7回目	ブライダルフェアについての企画立案
8回目	ブライダルフェアの準備・制作
9回目	ブライダルフェアの準備・制作
10回目	ブライダルフェアの準備・制作
11回目	ブライダルフェアの準備・制作
12回目	ブライダルフェア実施
13回目	ブライダルフェア実施
14回目	前期振り返り・成約したお客様の担当決め
15回目	後期の施工に向けて担当ごとに企画
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験:課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ ・キャリア教育	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	キャリアプログラムⅤ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
専門学校を卒業後、株式会社ひらまつにて、レストランウェディングにて勤務。その後、こども写真館・フォトウェディングのプランナー等を経験。老若男女幅広い年齢層のお客様へ接客を行う。							
【授業の学習内容】							
学校生活をより充実させる為の学校・クラスルールを理解する。また学校行事や授業スケジュールの再確認をする。 社会人基礎力を身につける。							
【到達目標】							
社会に出るための必要な知識を身につける							

回数	授業計画・内容	
1回目	学校ルールを再確認し、各ルールの意味を理解したうえで、自己採点・振り返りを行う	
2回目	3年次、卒業まで、どう過ごしていくか再確認し、目標を立てる	
3回目	専門式場見学:企業について深く理解する	
4回目	働くことの意義と社会的役割を学ぶ	
5回目	チームワークと協働について学ぶ	
6回目	仕事を通して自分の責任を果たす重要性を学ぶ	
7回目	倫理観と信頼感について学ぶ	
8回目	特別講義①業界を牽引する企業の考え方、また働くマインドを学びモチベーションにつなげる	
9回目	特別講義②講義を通して業界が求める人物像を理解し、現状と比較する	
10回目	特別講義③講義を通して業界が求める人物像を理解し、現状と比較する	
11回目	ロジカルシンキングの考え方を理解する	
12回目	クリティカルシンキングの考え方を理解する	
13回目	時間管理について学ぶ	
14回目	TODOリストの活用を学び、卒業までに行うTODOを作成する	
15回目	前期の振り返り	
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される	
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験:課題提出	
【使用教科書・教材・参考書】		

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	リーダーシップ論	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
“企業が必要とする人財像”や“人が集まる企業の共通点”のノウハウを活かし、企業再生事業を展開中。							
【授業の学習内容】							
変化の激しい現代社会で暮らす上で必要不可欠なスキルです。本授業では、社会に出てからだけではなく、実生活でも役立つ様々なスキルを学ぶ事を狙いとする。							
【到達目標】							
演習などを通し、様々なリーダーシップスキルを理解し、生活に役立つさまざまなスキルを身につける。							

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】授業の目標、ゴールイメージの共有。リーダーシップの概要を理解する
2回目	自己分析・他者分析・タイプ分類を通して、特性を理解する
3回目	ラポール形成や傾聴スキルの分解を通し、傾聴／カウンセリングスキルを身につける
4回目	モチベーションを理解し、質問力を高め、人を動かす傾き方を学ぶ
5回目	目標設定①：KPIとKGIを理解、特定し目標の本質を理解する
6回目	目標設定②：目標設定の重要性を理解し、SMARTな目標設定ができるようになる
7回目	案件管理・行動管理：リーダーに必要な管理能力を身につける
8回目	マナーリテラシー①：マナーリテラシーを身につけ、自分のライフプランをたてられるようになる
9回目	マナーリテラシー②：卒業後に必要なお金に関する内容を理解し、リテラシーを深める
10回目	アサーティブな伝え方と、評価・フィードバックスキルを身につける
11回目	チームや組織の動かし方を理解し、巻き込み力を身につける
12回目	課題解決①：空・雨・傘のフレームワークを使った課題特定・アプローチスキルを身につける
13回目	課題解決②：フレームワークを使った課題解決に向けた提案を出来るようになる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技・筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
筆記用具	

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	ビジネスコンピューティングⅢ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ&インクルーシブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー（情報を活用できる能力）を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。							
【到達目標】							
ビジネスシーンで必要とされるプレゼンテーションを理解して、クライアントのニーズを汲み取り、期待を形に変えることで、聴衆の心を動かし行動に変えるプレゼンテーションができる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション 授業の目的と概要の説明						
2回目	プレゼンテーションの基本構造① ターゲット、聴衆の特定、プレゼンテーションの明確化、聴衆のニーズに合わせた内容の分析や調整ができるようになる						
3回目	プレゼンテーションの基本構造② ストーリー構成を考える。起承転結を意識した物語を考えることができるようになる						
4回目	スライド設計① スライドマスターを使ってテンプレートを作成、フォント、配色、レイアウトを考えて視覚的に興味をひくスライドを作成できるようになる						
5回目	スライド設計② 表やグラフを使ってデータを効果的に見せるようになる						
6回目	スライド設計③ アニメーションやPowerPointの機能を使用して視覚的に効果的なスライドを作成することができるようになる						
7回目	課題作成①						
8回目	発表 パワーポイントの資料重視						
9回目	デリバリースキル① 発声、姿勢、アイコンタクトの取り方を研究して、効果的にプレゼンテーションができるようになる						
10回目	デリバリースキル② ジェスチャー、間の取り方を研究して、効果的なプレゼンテーションができるようになる						
11回目	課題作成② CANVAの基本 webの資料作成アプリを使用して、時短で資料が作成できるようになる						
12回目	発表 デリバリー重視						
13回目	ブラッシュアップ 質疑応答、フィードバックを元にプレゼンテーションの改善を行うことができるようになる						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
PC							

授業シラバス

科目名	課題制作	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	企業プロジェクトⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
スタートアップ企業の立ち上げ、経営実務、マーケティング実務の経験を有する。現在はフリーランスとして主に企業への戦略立案支援、社会人・学生への思考系及びマーケティング系の研修講師を行う。							
【授業の学習内容】							
実際の企業が抱える課題を解決するための企画提案の立案手法及び内容を的確に伝えるためのプレゼンテーション手法を学習する。本クラスの課題を行うことでビジネス基礎力となる論理思考力、企画提案力、プレゼンテーション力の向上を図る。							
【到達目標】							
前期で学んだマーケティングの知識を活用し幅広くリサーチと考察を行うことにより真の問題発見とその解決法を導き出し、納得・共感を得る提案ができるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション(企画立案作業も実施):授業の概要、課題の内容を理解し、企業が求める企画書の作成に積極的に取り組めるようになる						
2回目	企画立案作業1:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
3回目	企画立案作業2:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
4回目	企画立案作業3:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
5回目	企画立案作業4:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
6回目	プレゼン資料制作1:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
7回目	プレゼン資料制作2:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
8回目	プレゼン資料制作3:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
9回目	プレゼン原稿作成:評価者に企画内容と熱意が伝わる言葉を作ることができるようになる						
10回目	プレゼンリハーサル1:自身の考えをしっかりと伝える話し方ができるようになる						
11回目	プレゼンリハーサル2:自身の考えをしっかりと伝える話し方ができるようになる						
12回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
13回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
14回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
15回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	業界研究	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	文章校正	授業形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
取材記者、編集者、デザイナー、カメラマン。専門は保育、育児、教育分野。							
【授業の学習内容】							
文章の基本構成や敬語・慣用表現など演習問題を通して学習する。							
【到達目標】							
自分の考えや意見を的確に文章で表現する技術と他人の文章や資料などから正確な情報を読み取り理解する力を身に付ける。文章を読み解く力を育成することにより、コミュニケーション能力を向上させることを目標とする。本授業終了時には、基本的なビジネス文書や自分の言葉で心のこもった手紙がかけられるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	(オリエンテーション)文章の重要性を知る。自己紹介文を作成する。						
2回目	(基礎知識①)句読点の付け方、同音異義語、異字同訓語を理解し、正しい表現ができるようになる						
3回目	(基礎知識②)敬語(尊敬語・謙譲語)、丁寧な言葉遣いを学び、正しい敬語表現ができるようになる						
4回目	(基礎知識③)手紙の慣用語を学び文章を理解できるようになる、また慣用語を用いた手紙を作成できるようになる						
5回目	(基礎知識④)伝言メモの作成、箇条書きができるようになる						
6回目	(基礎知識⑤)文の成り立ち、文章の構成を理解し、読み解くことができるようになる						
7回目	(実技技能①)ビジネス文書の種類と特徴を学び、社外文書を作成することができるようになる						
8回目	(実技技能②)社交文書の書き方を学び、作成することができるようになる						
9回目	(演習課題)ブライダルフェアのご案内を作成する						
10回目	(実技技能③)資料から情報を読み取り、正確な情報を伝えることができるようになる						
11回目	(実技技能④)あいまいな表現や紛らわしい用語を避け、見やすい文章に工夫することができるようになる						
12回目	(実技技能⑤)ハガキ・封筒の宛名を正しく書けるようになる						
13回目	(演習課題)ブライダルフェアのお礼状を作成する						
14回目	理解度チェック						
15回目	理解度チェック(欠席者)/復習						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ソムリエ実習Ⅰ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2000年6月神戸ポートピアホテル フレンチレストラン アランシャベル支配人に就任 2012年5月 トランデアン(アランシャベル閉店後のフレンチ)支配人に就任 2012年12月 日本料理神戸たむら 支配人に就任 2019年4月和食 中華グループ 7店舗レストランの統括支配人に就任 2023年7月料飲部 部長付支配人クオリティ担当に就任 またポートピアホテルで社内講師も兼任する。ホテル32年勤務のうち 2023年11月人材会社 株式会社ホテリアスタッフ 西日本統括本部長就任 現在に至る。(有資格) ソムリエ HRS1級 西洋料理テーブルマナー講師 日本料理テーブルマナー講師 英検2級							
【授業の学習内容】							
ワインの基礎知識、サービス実習、テイスティングを学ぶ							
【到達目標】							
ホテルマン、サービスマンとして最低限知っておかないといけないワインの基礎知識とワインサービスの基本、ワインの味の違いを修得する。							

回数	
1回目	お酒やワインの分類を知ることができるようになる。
2回目	ワインの製造法、ブドウ品種を知ることができるようになる
3回目	フランス ボルドーのワインを知ることができるようになる Part 1
4回目	フランス ボルドーのワインを知ることができるようになる Part 2
5回目	フラン ブルゴーニュのワインを知ることができるようになる Part 1
6回目	フラン ブルゴーニュのワインを知ることができるようになる Part 2
7回目	フランスボルドーとブルゴーニュのワインを飲み比べて違いを理解することができる。
8回目	フラン シャンパーニュを知ることができるようになる Par1
9回目	フラン シャンパーニュを知ることができるようになる Par2
10回目	その他のフランスワインを知ることができるようになる
11回目	ワインを抜栓できるようになる Part1
12回目	ワインを抜栓できるようになる Part2
13回目	オールドワールドのワインを知ることができるようになる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%/実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	実践英会話	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2006年より各種大学・専門学校・民間英語スクールにて英語講師として勤務、その他、通訳、字幕翻訳、書籍の執筆等の業務に従事							
【授業の学習内容】							
ホスピタリティ業界の現場で使える英会話を習得する。市販の教材で習う「長い英語」ではなく、海外のホテル現場で実際に使われている「生きた短い英語」を学び、反射的にアウトプットできる力を養う。また、発音とイントネーションにも力を入れ、アクセントの少ない英語を話せるようになることを目的とする							
【到達目標】							
簡単な語彙の組み合わせを学び、現場で即戦力として英語でコミュニケーションができるようになる。							

回数	
1回目	発音、発声、子音、母音を理解できるようになる
2回目	発音記号を理解できるようになる
3回目	受付の英会話ができるようになる
4回目	食事サービスのか英会話ができるようになる
5回目	苦情処理の英会話ができるようになる
6回目	ビジネスemailとreportが書けるようになる
7回目	頻出イディオムが使えるようになる
8回目	電話応対ができるようになる
9回目	引き継ぎに必要な英会話ができるようになる
10回目	バーやレストランにて必要な英会話ができるようになる
11回目	顧客とのコミュニケーションができるようになる
12回目	英語ミーティングができるようになる
13回目	英語でプレゼンテーションができるようになる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	

講師が用意したレジュメを毎回配布する

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	コンシェルジュ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
ラスベガス・ディーラースクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了の後、シンガポール・マリーナベイサンズに勤務。 大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授、トラジャル旅行ホテル専門学校のカジノマナー講座の非常勤講師を歴任。 インタナショナル・ゲーミングスクールの校長として世界基準のカジノディーラーの人材教育。 大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)							
【授業の学習内容】							
各業界の枠を超え、顧客の潜在的なニーズを先読みし、期待を超える体験を創造するコンシェルジュ・サービスの理念と実践的な技術を習得します。特に、情報収集・提案力・ネットワーク構築といった専門スキルを統合的に養います。							
【到達目標】							
コンシェルジュの理念と、ホスピタリティ産業における価値創造の役割を説明できる。 顧客の潜在ニーズを正確に把握し、実現困難な要望にも対応するための解決策を複数提案できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション 授業の概要と評価基準。「不可能を可能にする」コンシェルジュの理念。顧客体験における価値を理解する
2回目	各業界の**コンシェルジュ(ゲストリレーション、GS、旅の案内人)の役割、求められる知識、サービス提供の場の違いを理解する
3回目	実践フィールドワーク①
4回目	顧客の明示的ニーズと潜在的ニーズの識別。質問力、観察力、共感力のトレーニングを行う
5回目	域の歴史、文化、グルメ、イベントに関する深い知識。情報源(書籍、デジタル、人脈)の探索方法を学ぶ
6回目	コンシェルジュ業務に役立つITツール(顧客管理、予約システム)の活用。独自の情報データベースの作り方を学ぶ
7回目	実践フィールドワーク②
8回目	
9回目	外部のサプライヤー(レストラン、劇場、交通)との信頼関係の築き方。相互協力の重要性を学ぶ
10回目	席次、贈答、会食に関する国際的なプロトコール。VIPや要人への特別な対応と配慮を学ぶ
11回目	実践フィールドワーク②
12回目	
13回目	クリエイティブな思考と問題解決のフレームワークを学ぶ
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック振り返り／前期の内容を復習する
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	プロモーションスキルⅠ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
1996年～2006年まで大東楽器株式会社にて、チーフ・店長として教室運営、催事や販促の企画・実施、スタッフ育成などに従事する。 現在は企画プロデュース・プロジェクトマネジメント・ビジネストレーニングなど、ビジネス業務におけるマネジメントスキルや商品・人材に関わるテーマを扱う研修、講義を担当。 また、企業にてマネジメント、仕組化などのサポートを行う。							
【授業の学習内容】							
ビジネスにおけるSNS記事、広告の作り方を学ぶ。							
【到達目標】							
主要なSNSプラットフォーム(X, Instagram, TikTok, Facebook)の特性とビジネス利用法を理解する。 ターゲット層に響くコンテンツ戦略と広告メッセージを作成するスキルを習得する。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション プロモーションミックスにおけるSNSの位置づけ。コンテンツマーケティングの重要性。SNSをビジネスで使う目的とゴール設定を理解する。						
2回目	ターゲティングの基本(デモグラフィック、サイコグラフィック)。顧客のペルソナ作成と、SNS上での行動分析を学ぶ。						
3回目	Xの情報拡散力とバズるメカニズム。企業アカウントのトーン＆マナー。即時性・話題性を活かしたプロモーションを学ぶ。						
4回目	Instagramの世界観構築。ストーリーズ、リールの活用法。インフルエンサーマーケティングの基礎を学ぶ。						
5回目	TikTokのアルゴリズムとトレンド。ユーザー参加型、エンゲージメント重視のコンテンツ作成を理解する。						
6回目	TikiTok広告動画作成実習						
7回目	Facebookの実名性と企業ページ運用。Facebookグループを活用したコミュニティ運営と顧客ロイヤルティ向上を学ぶ。						
8回目	キャッチコピー作成の基本。AIDA/PASONAなどの訴求フレームワーク。プラットフォームごとの適切な文章量とハッシュタグ戦略を理解する。						
9回目	キャッチコピー作成実習						
10回目	画像・動画広告の基本構成。A/Bテストの考え方。視認性の高いデザイン要素の分析を理解する。						
11回目	動画広告を作成する。						
12回目	入札方式(CPM, CPC, CPA)の基本。オーディエンス設定(カスタム、類似)。広告アカウントの基本操作を学ぶ。						
13回目	実践形式で広告アカウントの基本操作を学ぶ。						
14回目	理解度チェック						
15回目	学期の総復習を行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ブライダル総合演習Ⅰ	授業形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。							
【授業の学習内容】							
3年間にわたり習得してきたウェディングプランナーとしての専門的知識・技能(撮影・映像制作・装飾・施工)および企画力・接遇力(プランニング・サービス)を総合的に活用し、制作発表会の企画・運営を通じてその成果を発表することを目的とします。発表会の準備・実施・振り返りを通じて、自己の成長を客観的に捉え、社会人として必要な責任感・協調性・主体性を体得することを目指します。							
【到達目標】							
ウェディングプランナーとして必要とされる専門的知識および技能(撮影・映像制作・装飾・施工等)を総合的に活用し、制作発表会の企画・運営を通じて、3年間の学びの成果を体系的に表現することを目指します。学生は、チームでの協働を通じて役割分担・進行管理・課題解決に主体的に取り組み、責任感および協調性を養います。また、発表会の準備・実施・振り返りを通じて自己の成長を客観的に捉え、社会人として求められるマナーやプレゼンテーション能力を実践的に身につけることを到達目標とします。							

回数	授業計画・内容
1回目	①オリエンテーション ②企画概要を理解できるようになる
2回目	①撮影と映像制作に必要なタスクを組み立てる事ができるようになる ②映像構成を草案できるようになる
3回目	①撮影、映像制作に必要な知識を習得する(外部講師) ②映像構成から必要な撮影カットが考案できるようになる(外部講師)
4回目	撮影現場調査を行う(うつぼ公園)
5回目	撮影に必要な準備物(小物)リストアップ、撮影スケジュールが作成できるようになる
6回目	撮影
7回目	(撮影予備日) 素材整理と映像構成を確定する事ができる。また、使用音楽を決定する
8回目	確定した映像構成に必要な画像素材選択、また別途差し込み素材集めができるようになる
9回目	①発表会概要を理解する ②当日の進行を理解する。また、必要な役割を考える事ができるようになる
10回目	①役割担当を決定する ②役割ごとのタスクスケジュールを作成できるようになる
11回目	準備①
12回目	準備②
13回目	①全体読み合わせを行う ②リハーサルを行う
14回目	①前日準備 ②最終リハーサル
15回目	発表会
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ブライダルSNSスキルⅠ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
リーガロイヤルホテルブライダル部7年、ザ・リッツ・カールトン大阪3年、合計10年間700組以上の最高級ウェディングを担当。その後、ブライダル専門学校講師として約500名以上の学生を大手ホテルなどのプランナーに育成。2009年、2010年にはマスターオブブライダルコーディネーターファイナリストに選出され、2014年金沢のゲストハウスで総支配人に就任し低迷していた会場をV字回復させる。その後ブライダル専門学校の学科長に就任し、2019年「今さら聞けない社会人としての常識＆マナー」をつた書房より出版。大手書店にて長らく週刊ランキング1位に輝く。2020年ソムリエ免許取得。							
【授業の学習内容】							
ブライダル業界で必要なSNS運用力を学び、情報発信・企画・写真編集などを実践的に習得する授業です。							
【到達目標】							
ブライダルに関する魅力をSNSで効果的に発信できる力を身につけることを目標とします。ターゲット設定、投稿企画、写真・動画制作、分析まで一連の運用スキルを習得し、業界で即戦力として活躍できる能力を養います。							
回数	授業計画・内容						
1回目	SNSの役割とブライダル業界への影響を理解し、授業方針を確認する。						
2回目	各SNSの特徴を比較し、業界での活用事例を学ぶ。						
3回目	ターゲット設定の方法とペルソナ作成に取り組む。						
4回目	ブランドコンセプトを定め、一貫性のある発信方針を考える。						
5回目	構成を意識した投稿アイデア企画の基本を学習。						
6回目	写真撮影の基礎知識とカメラ操作を実践で学ぶ。						
7回目	ブライダル写真を魅力的に撮るための技法を習得する。						
8回目	写真編集アプリを活用し、色補正や加工を実践。						
9回目	動画撮影の基礎とショート動画の構成を学ぶ。						
10回目	動画編集ツールを使い、短編動画制作に挑戦する。						
11回目	効果的なキャプション作成とコピーライティング。						
12回目	ハッシュタグ戦略を理解し、分析に基づく選定を行う。						
13回目	投稿スケジュール作成と継続的運用のコツを学ぶ。						
14回目	フォロワーとのコミュニケーション方法を理解する。						
15回目	総まとめ、復習						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ドレス接客セールススキルⅠ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
	学科						
【担当教員 実務者経験】							
フタバウェディング株式会社、TAKAMI株式会社、レック株式会社に勤務してブライダルスタイリスト、和装コーディネーター、ウェディングプランナー、ウェディングフォトを担当しその後デジタルアルバムYs crreateを起業。							
【授業の学習内容】							
カウンセリングシートを使用し、ロープレを行う。							
【到達目標】							
ドレスショップでの業務の一連の流れや内容を理解し、ヒアリング力・共感力を身につける。							
回数	授業計画・内容						
1回目	ドレスショップでのご契約について						
2回目	お出迎え～カウンセリングに入る流れを知る（気持ちの良いお出迎えの仕方・挨拶・笑顔…など） カウンセリングシートについて ※1限目						
3回目	カウンセリング①（カウンセリングシートを用いて基本的な聞き取り方を身につける）						
4回目	カウンセリング②（カウンセリングシートを用いて基本的な聞き取り方を身につける）～オープンQクローズドQについて～						
5回目	カウンセリング③（カウンセリングシートを用いて応用的な聞き取り方を身につける）～タイプ別診断～						
6回目	電話応対スキルを身につける						
7回目	ショールーム① 提案とは？※ドレスルーム使用希望						
8回目	ショールーム②※ドレスルーム使用希望						
9回目	お出迎え～カウンセリング～クロージング 演習① ※ドレスルーム使用希望						
10回目	フィッティング応用編※ドレスルーム使用希望						
11回目	サイズ確認の実施※ドレスルーム使用希望（採寸）						
12回目	サイズ確認の実施※ドレスルーム使用希望（サイズ確認の流れ）						
13回目	お出迎え～ショールームまでの一連の流れ 実技 ※ドレスルーム使用希望						
14回目	お出迎え～ショールームまでの一連の流れ 実技 ※ドレスルーム使用希望						
15回目	反論処理						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ウェディングアワードⅠ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員・実務者経験】							
フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。							
【授業の学習内容】							
3校合同のウェディングアワードを開催し、これまでの成果を発表する。							
【到達目標】							
ウェディング業界の動向と文化を理解する。 アワード応募に必要な企画・演出・デザインを習得する。 チームでの企画立案・プレゼンテーション能力を身につける。							

回数	授業計画・内容
1回目	業界概要とアワードの目的を理解
2回目	最新ブライダルトレンドを調査・分析する
3回目	アワード評価基準と審査視点を把握する
4回目	企画構成と演出要素の基本を理解する
5回目	テーマ設定とコンセプト設計を習得する
6回目	カラーコーディネートの理論を学ぶ
7回目	ドレス選定のポイントとブランド研究
8回目	フラワーアレンジメントの基礎技法習得
9回目	テーブルコーディネートの演習を行う
10回目	映像・写真演出の役割と計画を理解する
11回目	音楽・照明演出の効果と選び方を学ぶ
12回目	招待状・ペーパーアイテムのデザイン演習
13回目	ウェディングケーキと料理演出を企画する
14回目	ウェディングケーキと料理演出を企画する
15回目	ゲスト体験を高める演出アイデア発想法
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 発表成果
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修 選択	年次	3	担当教員	
	ウェディングドレスショーⅠ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
アーティストブランド(化粧品会社)での勤務を経て、その経験や色彩・メイクの知識を生かし講師となる。 JMA日本メイクアップ技術検定協会認定講師、シュウウエムラ認定講師、AFT認定色彩講師、東商1級カラーコーディネーター。							
【授業の学習内容】							
世界最大の化粧品会社ロレアルグループに属するブランド『shu uemura』のシグネチャーメソッドを習得する。 前期末に予定されている検定試験合格を目指す。							
【到達目標】							
幅広い現場で活躍できるブライダルヘアメイクアーティストやスタイリストとして必要なメイクアップの知識と技術の向上を図る。 また、“美”を提供するプロとして必要なマナーや身だしなみ、立ち居振る舞いを身に着ける。 shu uemuraのシグネチャーメソッドを習得し、shu uemuraが認めるメイク技術ができるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	(セッティング)検定概要、セッティング① (ベースメイク)ベースメイクの目標値を知る／メイクアップベース・ファンデーション(ハンドテクニク)						
2回目	(化粧品・道具の管理)化粧品・ツール・ブラシの管理方法を知る (スキンケア)シグネチャーメソッドに沿ったスキンケアを知る／ローション・クリーム (ベースメイク)ベースメイクの目標値を知る／メイクアップベース・ファンデーション(ハンドテクニク)						
3回目	(スキンケア)シグネチャーメソッドに沿ったスキンケアができるようになる／ローション・クリーム (ベースメイク)シグネチャーメソッドに沿ったベースメイクを知る (アイブロウ)「なぎなた削り」を知る						
4回目	(スキンケア)シグネチャーメソッドに沿ったスキンケアができるようになる／ローション・クリーム (ベースメイク)シグネチャーメソッドに沿ったベースメイクができるようになる (アイブロウ)アイブロウメイクを知る						
5回目	(ベースメイク)シグネチャーメソッドに沿ったベースメイクができるようになる (リップ)リップメイクを知る (アイブロウ)アイブロウメイクができるようになる						
6回目	(スキンケア・ベースメイク)ローショントーンング～ベースメイクまでを計測して目標値を目指す (リップ・アイブロウ)リップ&アイブロウメイクができるようになる (アイメイク) アイメイクを知る／アイシャドウの1色グラデーション						
7回目	(ベースメイク)ローショントーンング～ベースメイクまでを計測して目標値を目指す (リップ・アイブロウ)リップ&アイブロウメイクができるようになる、ハードフォーミュラ(HF)配布 (アイメイク) アイメイクを知る／アイライン・アイラッシュカーラー・マスカラ						
8回目	(アイメイク)アイメイクができるようになる (スキンケア)シグネチャーメソッドに沿ったクレンジングを知る／ポイントクレンジング セッティング②、HFなぎなた削り提出						
9回目	(ポイントメイク)リップ・アイシャドウ・アイブロウを計測して目標値を目指す (スキンケア)シグネチャーメソッドに沿ったクレンジングを知る／ベースクレンジング						
10回目	(ベースメイク)ベースメイクを計測して目標値を目指す (ポイントメイク)リップ・アイメイクを計測して目標値を目指す (スキンケア)シグネチャーメソッドに沿ったクレンジングができるようになる						
11回目	(ポイントメイク)ポイントメイクを計測して目標値を目指す (スキンケア)クレンジングを計測して目標値を目指す						
12回目	(中間技術チェック)試験内容:モデルセッティング～手指消毒～スキンケア(手順&添え手) 18分 (ベースメイク)ベースメイクを計測して目標値を目指す (チーク)チークメイクを知る						
13回目	(トータルレッスン)モデルセッティング～手指消毒～ベースメイク～ポイントメイク shu五角スポンジ配布(※以降、shuスポンジを使用) (チーク)チークメイクができるようになる						
14回目	(技術チェック)試験内容:事前準備 7分半、HFなぎなた削りチェック モデルセッティング～手指消毒～ベースメイク～ポイントメイク 35分						
15回目	(ポイントメイク)ポイントメイク集中レッスン、スキンケア計測 セッティング③						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
シュウウエムラテキスト、メイク道具一式、筆記用具、携帯用の手指消毒スプレー(詰め替え可→要ラベル)、マスク(任意)							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ブライダルフォトⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
関西の数々のホテル、ゲストハウスでブライダルフォトグラファーとしてお客様との打ち合わせや前撮り、挙式当日の撮影に従事。 主な在籍施設はザ・リッツカールトン大阪、北野クラブsola、THE33など。 現在はフリーランスとして、お宮参り、七五三、成人式などのライフイベントの撮影やHP用素材撮影・商品撮影など幅広い撮影を行う。							
【授業の学習内容】							
一眼レフの撮影テクニック習得							
【到達目標】							
一眼レフの撮影技術を向上し、イメージに沿った撮影ができるようになる							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション カメラの使用上の注意を理解し、適正露出で撮影ができるようになる						
2回目	露出について理解し、さまざまなシーンに合わせて適した設定で撮影ができるようになる						
3回目	ブライダルフォトから様々な構図を知り、構図を意識した撮影ができるようになる						
4回目	光の種類や色、光の向きを見極め自然光でイメージに沿った撮影ができるようになる						
5回目	基本的なスタジオライティングを学び、スタジオでの人物撮影ができるようになる						
6回目	レンズの種類や特性を知り、撮影イメージに適したレンズで撮影ができるようになる						
7回目	ブライダルフォトの撮影時にお客様が安心できるようなアテンドやコミュニケーションができるようになる						
8回目	ブライダルフォトグラファーの目線から挙式を分析し、適した露出と構図で撮影ができるようになる。						
9回目	フォーマルフォトについて学び、ポイントを押さえた撮影ができるようになる						
10回目	イメージと光や色調、合わせる素材を結びつけて撮影をコーディネートできるようになる						
11回目	課題1						
12回目	課題2						
13回目	課題3						
14回目	課題4						
15回目	課題5						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
SDカード(16GB以上が望ましい)、USBメモリ(毎回の授業でデータを保存するのに使います) いずれも手持ちのものがあればそれで結構です。ただし空き容量が充分であること。							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	テクニカルビューティーⅠ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
ヘアメイク事務所所属。ブライダル、スチール、動画等 様々な分野で活動中。クリエイティブな発想で創り出す独創的なヘアメイクが得意。							
【授業の学習内容】							
ブライダルヘアメイクの知識・技術を学ぶ							
【到達目標】							
一人一人のお顔やシーンに合ったヘアメイクが出来る。和装ヘアメイクが得意になる。コンテスト用ヘアメイクテクニックの技術を習得し表現出来る。							
回数	授業計画・内容						
1回目	メイク 和装花嫁メイク(基礎)が出来るようになる						
2回目	ヘア 和装花嫁ヘア(基礎)が出来るようになる						
3回目	メイク 似合わせメイク①が出来るようになる						
4回目	メイク 似合わせメイク②が出来るようになる						
5回目	ヘア 和装花嫁トレンドヘアが出来るようになる						
6回目	ヘア 新日本髪が出来るようになる						
7回目	メイク メイク応用編 コンテスト用技術 カットクリースが出来るようになる						
8回目	ヘア ヘア応用編 コンテスト用技術 カゴ編みが出来るようになる						
9回目	ラグゼビューティーフォトコンテスト作品制作 相モデル決め ラフ案作り						
10回目	↓ メイク練習(相モデル)						
11回目	↓ ヘア練習(ウィッグ) 衣装、小物制作						
12回目	↓ 本番作品撮り① A撮影 Bモデル						
13回目	↓ 本番作品撮り② B撮影 Aモデル						
14回目	理解度チェック						
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	花嫁着付Ⅰ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
フタバウェディング株式会社、TAKAMI株式会社、レック株式会社に勤務してブライダルスタイリスト、和装コーディネーター、ウェディングプランナー、ウェディングフォトを担当しその後デジタルアルバムYs createを起業。							
【授業の学習内容】							
着付技能試験に対応できる技術を身につける ２級技術試験 留袖着付け、二重太鼓をマスターする。							
【到達目標】							
近年ウェディング業界では和装の前撮りをされるお客様が増えており、それにしっかりと対応できる技術と知識を身につける。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション ～留袖について～ 着付け技能試験の内容について 必要物品の確認						
2回目	補正の仕方デモンストレーション・補正とは何か						
3回目	座学①着物各名称 / 実技①長襦袢の着付け 下半身編 絵羽模様がどう見えるかを確認						
4回目	座学①に関する確認 / 実技②補整～長襦袢の着付け方・留袖上半身編 家紋がどんな風に見えるのが良いのか確認						
5回目	座学②帯・袖・襟の種類名称について / 実技③補整～留袖						
6回目	座学②に関する確認 / 実技④補正～留袖着付け						
7回目	座学③着物の格にあった小物について / 実技⑤補正から留袖着付け二重太鼓						
8回目	座学③に関する確認 / 実技⑥補正から留袖着付け二重太鼓						
9回目	座学④着物の柄・文様について / 実技⑦補正から留袖着付け二重太鼓						
10回目	座学④についての知識確認 / 実技⑧ 半襟の付け方						
11回目	座学④に関する確認 / 実技⑨ 実技チェックの練習						
12回目	座学④着物の柄・文様について / 実技⑦実技チェック						
13回目	総合知識確認 / 実技⑦実技チェック						
14回目	メンズ着付け						
15回目	振袖着付け 補正と長襦袢、振袖までの着付け						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ホテルマネジメントⅠ	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
複数の外資系、日系ホテル開業に携わり、ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントレセプションMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェ이터、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。現在はホテル・レストラン運営コンサルタントとして活動。スモールラグジュアリーホテル副総支配人。1996年第1回日本メートルドテルコンクール)第5位。全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催レストランサーヴィスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サーヴィスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員。							
【授業の学習内容】							
ホテル全体のマネジメント、部門別（オペレーション部門、サポート部門）のマネジメントの方法論、ホテルビジネストレンドをホテル現場での具体的な事例を挙げて解説する。							
【到達目標】							
ロジックを持った実際のホテルマネジメントを学ぶことにより、ホテルビジネスの様々な方法論、マーケティング論と現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して、現場での一つ一つの作業、サーヴィス、オペレーションの意味を理解する事ができるようになる。							

回数	
1回目	ホテルマネジメントの基本原理① 1. 科目の概要、目標解説。 2. ホテル分類を理解できるようになる。
2回目	ホテルマネジメントの基本原理② 1. 経営マネジメント 2.運営マネジメントを理解できるようになる。
3回目	ホテルの経営形態① 1. ホテルにおける所有・経営・運営 2. ホテルのアセットマネジメントを理解できるようになる。
4回目	ホテルの経営形態② 1. ホテルの経営方式を理解できるようになる。
5回目	世界のホテルビジネス① 1. ホテルカテゴリー 2. ホテルビジネスのトレンド(世界・日本)を理解できるようになる。
6回目	世界のホテルビジネス② 1. ホテルカテゴリー 2. ホテルビジネスのトレンド(世界・日本)を理解できるようになる。
7回目	外資系ホテルと日系ホテルの特徴① 1. オペレーションシステムとサーヴィス 2. ホテルブランドの確立と戦略を理解できるようになる。
8回目	外資系ホテルと日系ホテルの特徴② 1. レベニューマネジメントを理解できるようになる。
9回目	世界のホテルビジネス③ グローバルホテルチェーン研究((個人ワーク)
10回目	世界のホテルビジネス④ グローバルホテルチェーン研究((個人ワーク)
11回目	世界のホテルビジネス⑤ グローバルホテルチェーン 個人ワーク発表
12回目	ホテルの収益構造① 1. ホテルの売上げ構成比率 2. 部門別収益構造の違いを理解できるようになる。
13回目	ホテルの収益構造② 1. GOPを理解できるようになる。
14回目	前期試験： 1. 用語定義・概念解説 2. 論述式
15回目	振り返り： 1. 前期試験解説 2. その他質疑応答
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験： 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	料飲・レストランオペレーションⅢ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
1983宝塚ホテル、1986ヒルトン大阪、2006神戸バイシェラトン、2010スイスホテル南海大阪、2013リゾートトラスト 等を経て現在はシンガポールに拠点を置くラグジュアリーホテル、バンヤンツリー(Banyan tree)グループのレストランオペレーションに携わっています。料飲部を中心に宿泊部、人事総務部など多岐にわたる職務経験を授業に生かしていきたいと考えています。							
【授業の学習内容】							
和食のサービス体験や、酒蔵見学を通じてより奥の深いサービスについて学び、知識を深める。							
【到達目標】							
和食のマナー、サービスの体験により実践で生かせる知識を習得できるようになる。							

回数	
1回目	授業内容の説明と宿泊体験のレポート提出、自己紹介
2回目	日本料理のマナーを理解出来るようになる①
3回目	日本料理のマナーを理解出来るようになる②
4回目	日本料理のマナーを理解し、実践出来るようになる
5回目	日本料理のサービスを理解出来るようになる①
6回目	日本料理のサービスを理解出来るようになる②
7回目	酒蔵見学で日本酒の製造工程、流通、提供時の案内について理解できる
8回目	酒蔵見学レポートの提出と振り返りを行う
9回目	着物の着付を学び、自装ができるようになる①
10回目	着物の着付を学び、自装ができるようになる②
11回目	着物を着て接客サービスをする方法を学ぶ
12回目	茶道の概要、歴史、点前について学び、実践できるようになる
13回目	ホテルサービス番外編：中国茶を理解出来るようになる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験： 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	エアライン実務Ⅰ	授業形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2009年JALグループに新卒入社。先任客室乗務員としてVIPを含め旅客対応を担う。							
【授業の学習内容】							
キャビンアテンダント(CA)の最も重要な責務である安全運航と保安維持に関わる専門知識を深め、緊急時における正確な判断力とチーム連携能力を実習を通じて習得する。							
【到達目標】							
・航空機内の主要な安全・保安設備の機能と使用手順を完全に説明できる。 ・航空法規に基づいた緊急着陸/着水時の脱出手順をシミュレーションし、リードできる。 ・機内における不審者対応やハイジャック対応など、高度な保安業務の手順を理解し実践できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション 航空法におけるCAの役割と権限。安全運航の最優先性。安全基準(運航規定)の読み込み。
2回目	救命胴衣、酸素マスク、消火器、非常灯などの位置と機能確認。**出発前の点検(プリフライト・チェック)**の重要性を学ぶ。
3回目	緊急時の**命令口調(Brace, Brace, Head down!)の訓練。パニックを防ぐための乗客への指示方法を学ぶ。
4回目	「90秒ルール」の原則。脱出ドアの開け方とスライドシューターの展開手順。ドアモードの切替確認を学ぶ。
5回目	スライド降下中の援助方法。機内からの脱出が困難な乗客(要介護者、幼児など)の援助手順を学ぶ。
6回目	機内火災の主な原因と初期消火の手順。各種消火器(水、ハロン、ブランケット)の使い分けを学ぶ
7回目	航空保安に関する基礎知識。機内における不法行為(乗務員への暴行、喫煙など)への対応手順を学ぶ
8回目	機内での不審物発見時の報告と隔離手順。テロリズムの脅威に対する認識と対応フローを学ぶ
9回目	与圧喪失のメカニズムと乗務員の行動。酸素マスクの使用手順と乗客への対応を学ぶ
10回目	機内で発生しやすい急病(心臓発作、意識不明など)の初期対応。AEDと医療キットの使用を学ぶ
11回目	インシデント(ヒヤリハット)報告の重要性。危機管理体制と乗務員のメンタルヘルスを学ぶ
12回目	着水時の手順、救命ボートの展開。水上でのサバイバル(信号発信、救助待機)を学ぶ
13回目	実技試験: 班ごとに、設定された緊急事態(例: 機内火災)に対するチーム対応を実演する。
14回目	実技試験: 複合的な緊急事態(例: 与圧喪失後の着水)に対する総合的な対応力を評価する。
15回目	全体の振り返りと、安全意識の維持向上を行う。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	外国語	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	Global Communication V	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
金欄短期大学英文科卒業。実用英語技能検定1級取得。英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習（語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について）をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野（個人情報や家族、買い物等）に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U1.1 困難なことの対処方法について話す
2回目	U1.2 過去にあった困難なことについて話す
3回目	U1.3 過去と現在にあったものを比較し、ディスカッションをする
4回目	U1.4 意見を述べるエッセイを読む、書く
5回目	U1.5 Time to Speak: ・スピーキング評価:ロールプレイ・プレゼンテーション「過去の懐かしい思い出」 ・学期末プレゼンと連動する内容
6回目	U2.1比較を用いた表現を使って、探究や研究について話す
7回目	U2.2 最上級を用いた表現を使って、異なる環境下での生物について話す
8回目	U2.3 重要な情報の交換、自由時間の行動についてアドバイスする
9回目	U2.4 場所についての説明文を書く
10回目	U2.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「アウトドア計画を立てる」 ・学期末プレゼンと連動する内容
11回目	U3.1 様々な性格のタイプについて話す
12回目	U3.2 現在分詞を使って、好きなもの・嫌いなものについて話す
13回目	U3.3 リクエストや助けが必要な場面での会話を練習する
14回目	U3.4 パーソナルステイトメントを書く
15回目	U3.5 Time to Speak: 学期末プレゼン
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%／実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	

Evolve

授業シラバス

科目名	外国語	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	英文法&英会話Ⅴ	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U1.1 困難に直面した時の表現方法を学ぶ 現在の習慣についての表現を学ぶ
2回目	U 1.2 困ったことを表す表現を学ぶ 過去にあった習慣、困難なことについての表現を学ぶ
3回目	U1.3 強調表現、/tʃ/の発音を学ぶ 様々なコミュニケーションの種類について学ぶ、問題についてディスカッションをする、また強く賛成する際の表現を学ぶ
4回目	U1.4 エッセイの組み立て方を学ぶ
5回目	U1.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U2.1 宇宙、海洋探査に関する表現を学ぶ 比較を用いた表現を学ぶ
7回目	U2.2 自然界に関する単語を学ぶ 最上級を用いた表現を学ぶ
8回目	U2.3 アクセントの強弱、リズムについて学ぶ、/w/,/v/の発音を学ぶ 情報を求める、また提供する際の表現を学ぶ
9回目	U2.4 数に関する表現を学ぶ 遠く離れた場所での生活についての記事を読む
10回目	U2.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U3.1 性格のタイプに関する表現を学ぶ 関係詞を使った表現を学ぶ
12回目	U3.2 強い感情を表す単語を学ぶ 現在分詞を用いた表現を学ぶ
13回目	U3.3 語末の/t/の発音を学ぶ 礼儀正しいイントネーション(発音)を学ぶ、リクエストをする、また答える際の表現を学ぶ
14回目	U3.4 動物園の求人広告を読む パーソナルステイトメントの書き方を学ぶ
15回目	U3.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
Evolve	

授業シラバス

科目名	スキルアップゼミ	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	
	シュシュウェディングⅢ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。							
【授業の学習内容】							
一般のお客様を対象に、本物の結婚式をプロデュースする。							
【到達目標】							
ブライダルフェアの企画から取り組みの周知、集客、プランニング、施工までの一連の流れを実際にプロデュースをして学ぶ。							

回数	授業計画・内容
1回目	ゼミの概要、メンバー紹介
2回目	ブライダルフェアについての企画立案
3回目	ブライダルフェアについての企画立案
4回目	ブライダルフェアについての企画立案
5回目	ブライダルフェアについての企画立案
6回目	ブライダルフェアについての企画立案
7回目	ブライダルフェアについての企画立案
8回目	ブライダルフェアの準備・制作
9回目	ブライダルフェアの準備・制作
10回目	ブライダルフェアの準備・制作
11回目	ブライダルフェアの準備・制作
12回目	ブライダルフェア実施
13回目	ブライダルフェア実施
14回目	前期振り返り・成約したお客様の担当決め
15回目	後期の施工に向けて担当ごとに企画
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験:課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	

後期 授業シラバス

科目名	ホスピタリティ・キャリア教育	必修選択	必修	年次	3	担当教員	
	キャリアプログラムⅥ	授業形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
専門学校を卒業後、株式会社ひらまつにて、レストランウェディングにて勤務。その後、こども写真館・フォトウェディングのプランナー等を経験。老若男女幅広い年齢層のお客様へ接客を行う。							
【授業の学習内容】							
学校生活をより充実させる為の学校・クラスルールを理解する。また学校行事や授業スケジュールの再確認をする。 社会人基礎力を身につける。							
【到達目標】							
社会に出るための必要な知識を身につける							

回数	授業計画・内容
1回目	学校ルールを再確認し、各ルールの意味を理解したうえで、自己採点・振り返りを行う
2回目	時事問題を正しく理解し、自分の意見を考え発信する
3回目	時事問題について他者と意見を交える
4回目	特別講義①ビジネスマナーについて
5回目	特別講義②夢を追いかけることの大切さを学ぶ
6回目	自分の強みや価値をアピールするための自己ブランディング方法を学ぶ
7回目	株式会社の仕組みと投資について
8回目	株式会社の仕組みと投資について
9回目	一人暮らしで必要な知識を身につける①
10回目	一人暮らしで必要な知識を身につける②
11回目	3年間で学んだこと・身につけたことをプレゼン資料にまとめる
12回目	3年間で学んだこと・身につけたことをプレゼン資料にまとめる
13回目	3年間で学んだこと・身につけたことを発表する
14回目	3年間で学んだこと・身につけたことを発表する
15回目	3年間の振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：資料の完成度やプレゼン
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	キャリアデザイン	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
“企業が必要とする人財像”や“人が集まる企業の共通点”のノウハウを活かし、企業再生事業を展開中。							
【授業の学習内容】							
社会人として必要とされる基礎的な知識・姿勢・スキルについて、講義とグループワークを交えながら学びます。ブライダル業界をはじめとした実社会で求められる「自律的に考え、行動できる力」の土台を育成します。							
【到達目標】							
・社会人として必要な基礎的マインド・知識を理解し、自分の言葉で説明できる ・時間・お金・健康・リスクなどの“自己管理”の重要性を認識し、行動に移せる							

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション：マナーとルール：挨拶、時間、報告・連絡・相談の基本を理解し、日常で使えるようになる
2回目	タイムマネジメント①：時間の使い方を可視化し、優先順位を整理できるようになる
3回目	タイムマネジメント②：指示の受け方、タスク管理、段取りの重要性を理解し、主体的に行動できるようになる
4回目	職業リテラシー①：給料、休み、責任などを知り、「働く意味」を考えられるようになる
5回目	職業リテラシー②：企業における評価指標を理解し、評価を上げる項目を理解する。
6回目	マネーリテラシー①：企業の収入と支出のバランスを学び、基本が理解できるようになる
7回目	マネーリテラシー②：給料・支出・税金・貯金の仕組みを理解し、身の丈にあったお金の管理ができるようになる
8回目	マネーリテラシー③投資・貯蓄・資産形成などの制度を知り、未来に向けたお金の使い方を考えられるようになる
9回目	特別授業①：社会人の先輩に聞く「社会に出る上で必要なスキル」
10回目	社会保障と保険の基礎知識：社会保険・国保・年金制度の違いを理解し、自分に必要な選択ができるようになる
11回目	特別授業②：社会人の先輩に聞く「社会に出る上で必要なスキル」
12回目	人間関係とコミュニケーションの基本：上司・同僚・お客様との関係づくりの考え方を理解し、実践できるようになる
13回目	特別授業③：社会人の先輩に聞く「社会に出る上で必要なスキル」
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技・筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
筆記用具	

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	プレゼンテーションスキル	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製菓会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ&インクルーシブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
本授業ではPowerPointの高度な操作を習得し、説得力ある資料作成力を磨きます。さらに実践ワークを繰り返し行うことで、聴衆を惹きつける話術や所作などプレゼンテーション力全般を向上させます。							
【到達目標】							
ビジネスシーンで必要とされるプレゼンテーションを理解して、クライアントのニーズを汲み取り、期待を形に変えることで、聴衆の心を動かし行動に変えるプレゼンテーションができる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション 授業の目的と概要の説明						
2回目	プレゼンテーションの基本構造① ターゲット、聴衆の特定、プレゼンテーションの明確化、聴衆のニーズに合わせた内容の分析や調整ができるようになる						
3回目	プレゼンテーションの基本構造② ストーリー構成を考える。起承転結を意識した物語を考えることができるようになる						
4回目	スライド設計① スライドマスターを使ってテンプレートを作成、フォント、配色、レイアウトを考えて視覚的に興味をひくスライドを作成できるようになる						
5回目	スライド設計② 表やグラフを使ってデータを効果的に見せるようになる						
6回目	スライド設計③ アニメーションやPowerPointの機能を使用して視覚的に効果的なスライドを作成することができるようになる						
7回目	課題作成①						
8回目	発表 パワーポイントの資料重視						
9回目	デリバリースキル① 発声、姿勢、アイコンタクトの取り方を研究して、効果的にプレゼンテーションができるようになる						
10回目	デリバリースキル② ジェスチャー、間の取り方を研究して、効果的なプレゼンテーションができるようになる						
11回目	課題作成② CANVAの基本 webの資料作成アプリを使用して、時短で資料が作成できるようになる						
12回目	発表 デリバリー重視						
13回目	ブラッシュアップ 質疑応答、フィードバックを元にプレゼンテーションの改善を行うことができるようになる						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	業界研究	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	生成AI活用スキルⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ＆インクルーシブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
本授業では生成AIの活用方法を学び、卒業後即戦力として活躍できるためのスキルを学びます。							
【到達目標】							
様々な生成AIを目的別に活用し、業務をスムーズに行えるスキルを身に付ける。							
回数	授業計画・内容						
1回目	(オリエンテーション) IllustratorとPhotoshopなどを使用したデジタルアートワークの概要を理解する						
2回目	(基本操作の習得①) IllustratorとPhotoshopの基本概要を理解し、画面の基本操作、ファイルの作成保存ができるようになる						
3回目	(基本操作の習得②) 図形や線を描く、オブジェクトの選択と基本的な変形、アンカーポイントとハンドルの操作ができるようになる						
4回目	(基本操作の習得③) 色と透明度の設定、オブジェクトの編集と合成ができるようになる						
5回目	(基本操作の習得④) 線と文字の設定、レイヤーの操作と色調補正、選択範囲の作成ができるようになる						
6回目	(基本操作の習得⑤) 色の設定とペイントの操作、レイヤーマスクの使用、文字、パス、シェイプができるようになる						
7回目	(基本操作の習得⑥) 画像の修正・加工、フィルターとレイヤースタイルの使用できるようになる						
8回目	(基本操作の習得⑦) IllustratorとPhotoshopの連係ができるようになる / 上記①～⑥のまとめ復習						
9回目	(テスト演習) 上記基本操作①～⑦の理解度確認						
10回目	(演習課題 名刺制作) 上記①～⑤の操作を活用し、基本的な名刺制作ができるようになる						
11回目	(演習課題 名刺制作) 上記①～⑤の操作を活用し、基本的な名刺制作ができるようになる						
12回目	(演習課題 ロゴ制作) 上記①～⑤の操作を活用し、基本的なロゴ制作ができるようになる						
13回目	(演習課題 ロゴ制作) 上記①～⑤の操作を活用し、基本的なロゴ制作ができるようになる						
14回目	(演習課題 チラシ制作) 上記①～⑤の操作を活用し、基本的なロゴ制作ができるようになる						
15回目	(演習課題 チラシ制作) 上記①～⑤の操作を活用し、基本的なロゴ制作ができるようになる						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ソムリエ実習Ⅱ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2000年6月神戸ポートピアホテル フレンチレストラン アランシャベル支配人に就任 2012年5月 トランデアン(アランシャベル閉店後のフレンチ)支配人に就任 2012年12月 日本料理神戸たむら 支配人に就任 2019年4月和食 中華グループ 7店舗レストランの統括支配人に就任 2023年7月料飲部 部長付支配人クオリティ担当に就任 またポートピアホテルで社内講師も兼任する。ホテル32年勤務のうち 2023年11月人材会社 株式会社ホテリアスタッフ 西日本統括本部長就任 現在に至る。(有資格) ソムリエ HRS1級 西洋料理テーブルマナー講師 日本料理テーブルマナー講師 英検2級							
【授業の学習内容】							
ワインの基礎知識、サービス実習、テイスティングを学ぶ							
【到達目標】							
ホテルマン、サービスマンとして最低限知っておかないといけないワインの基礎知識とワインサービスの基本、ワインの味の違いを修得する。							

回数	
1回目	イタリアワインを知ることができる
2回目	ドイツワイン、スペインワインを知ることができる
3回目	デキャンタージュをすることができるようになる
4回目	ワインと料理のマリアージュを知ることができる
5回目	課外授業 ワインサービス用の道具、ワインの管理について知ることができる
6回目	課外授業 シャンパーニュ・サブラージュ、ワインと料理のマリアージュ、グラスの拭き方についてを知ることができる
7回目	ワインのサービスができるようになる
8回目	ボジョレーヌーボーを知ることができる
9回目	ニューワールドのワインを知ることができる
10回目	アメリカのワインを知ることができる
11回目	ワインのオーダーを取ることができるようになる
12回目	ワインのアップセールスや原価計算を知ることができる
13回目	フランスワインのラベルの見方を知ることができる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%/実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	バー実習	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2000年6月神戸ポートピアホテル フレンチレストラン アランシャベル支配人に就任 2012年5月 トランテアン(アランシャベル閉店後のフレンチ)支配人に就任 2012年12月 日本料理神戸たむら 支配人に就任 2019年4月和食 中華グループ 7店舗レストランの統括支配人に就任 2023年7月料飲部 部長付支配人クオリティ担当に就任 またポートピアホテルで社内講師も兼任する。ホテル32年勤務のち 2023年11月人材会社 株式会社ホテリアスタッフ 西日本統括本部長就任 現在に至る。(有資格) ソムリエ HRS1級 西洋料理テーブルマナー講師 日本料理テーブルマナー講師 英検2級							
【授業の学習内容】							
バーにおいて必要な技術・知識をカクテル実習をメインに学習すると共に、ホテルバーマンとしての立ち振る舞いや、ホスピタリティを学ぶ事を目的とする。							
【到達目標】							
カクテル調合技術や基本的なお酒の知識を習得すると共にオリジナルノンアルコールカクテル創作とそのプレゼンテーションを習得する事を目標とする。							

回数	
1回目	オリエンテーション 教員を含め生徒の自己紹介 今後のスケジュール説明や最終目標の共有
2回目	カクテル調合技術の習得 ビルド（バースプーンメジャーカップ ボトルの取り扱い） ミニ講義「お酒 アルコールについて」
3回目	カクテル調合技術の習得 ステア（ノンアルカクテル制作） ミニ講義「お酒のカテゴリーについて」
4回目	カクテル調合技術の習得 シェイク（ノンアルカクテル制作） ミニ講義「カクテルについて」
5回目	カクテル調合技術の習得 ブレンド（ノンアルカクテル制作） ミニ講義「デコレーション・ガーニッシュ・フルーツについて」
6回目	バーテンダー講義「ホテルバーでのサービスについて」そこで働くバーテンダーのお仕事について
7回目	カクテル実習 今までの技術のおさらい「チームに分かれていろいろなカクテルを制作してみよう！」
8回目	オリジナルカクテルの創作方法「カクテルコンペティション」についての講義 前期試験課題 オリジナルカクテル創作 テーマ発表
9回目	オリジナルカクテルの創作 前期試験課題内容についての詳細説明
10回目	オリジナルカクテルの創作 壇上の動きについて
11回目	オリジナルカクテルの創作 プレゼンテーションについて 自身のカクテル撮影
12回目	第1回 オリジナルカクテルコンペティション （オリジナルカクテルの発表会） Bチームはカクテル審査員体験
13回目	第2回 オリジナルカクテルコンペティション （オリジナルカクテルの発表会） Aチームはカクテル審査員体験
14回目	理解度チェック 最終結果発表 表彰式 （第1回、第2回 共に 優勝 準優勝 発表）
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	IR基礎	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
ラスベガス・ディーラスクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了の後、シンガポール・マリーナベイサンズに勤務。 大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授、トラジャル旅行ホテル専門学校のカジノマナー講座の非常勤講師を歴任。 インタナショナル・ゲーミングスクールの校長として世界基準のカジノディーラーの人材教育。 大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)							
【授業の学習内容】							
・海外事例にみるIR(統合型リゾート)の有効性 ・世界のカジノの歴史と文化 ・日本IRの有効性(法律・制度設計・開発計画) ・カジノディーラーの仕事 ・カジノマナー(ブラックジャック・バカラ・ルーレット・ポーカー)							
【到達目標】							
海外IRの考察から日本IRの有効性を正しく理解することで将来のIRビジネスへのビジョンを持つ。 世界基準のカジノマナーとゲームルールを体験しながら学び、カジノの本質を知る。							

回数	
1回目	海外IRの成功事例と日本型IRの有効性① / ブラックジャックのゲームルールとマナー①
2回目	海外IRの成功事例と日本型IRの有効性② / ブラックジャックのゲームルールとマナー②
3回目	海外IRの成功事例と日本型IRの有効性③ / ルーレットのゲームルールとマナー①
4回目	世界のカジノの歴史と文化① / ルーレットのゲームルールとマナー②
5回目	世界のカジノの歴史と文化② / バカラのゲームルールとマナー①
6回目	世界のカジノの歴史と文化③ / テキサスホールデムポーカーのゲームルールとマナー①
7回目	カジノディーラーの仕事① / テキサスホールデムポーカーのゲームルールとマナー②
8回目	カジノディーラーの仕事② / カジノディーラー体験①
9回目	カジノディーラーの仕事③ / カジノディーラー体験②
10回目	カジノマナー実践研究①：ブラックジャック
11回目	カジノマナー実践研究②：ルーレット
12回目	カジノマナー実践研究③：バカラ
13回目	カジノマナー実践研究④：テキサスホールデムポーカー
14回目	理解度チェック
15回目	カジノ大会を実践し、技術の習熟度を確認できる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：筆記試験50%／実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	プロモーションスキルⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
1996年～2006年まで大東楽器株式会社にて、チーフ・店長として教室運営、催事や販促の企画・実施、スタッフ育成などに従事する。 現在は企画プロデュース・プロジェクトマネジメント・ビジネストレーニングなど、ビジネス業務におけるマネジメントスキルや商品・人材に関わるテーマを扱う研修、講義を担当。 また、企業にてマネジメント、仕組化などのサポートを行う。							
【授業の学習内容】							
ビジネスにおけるSNS記事、広告の作り方を学ぶ。							
【到達目標】							
主要なSNSプラットフォーム(X, Instagram, TikTok, Facebook)の特性とビジネス利用法を理解する。 ターゲット層に響くコンテンツ戦略と広告メッセージを作成するスキルを習得する。							
回数	授業計画・内容						
1回目	インプレッション、リーチ、エンゲージメント、コンバージョンなどの基本指標を理解する。						
2回目	KGI/KPIの設定と効果測定のプロセスを学ぶ。						
3回目	炎上のメカニズムと企業のダメージについて、事例検討を行う。						
4回目	危機発生時の初動対応とガイドライン。責任あるSNS利用について学ぶ。						
5回目	仮想企業の商品/サービスに基づき、ターゲット、目標、予算を設定し、SNSキャンペーンの全体戦略を立案する。						
6回目	仮想企業の商品/サービスに基づき、ターゲット、目標、予算を設定し、SNSキャンペーンの全体戦略を立案する。						
7回目	仮想企業の商品/サービスに基づき、ターゲット、目標、予算を設定し、SNSキャンペーンの全体戦略を立案する。						
8回目	立案した戦略に基づき、特定のSNSでの広告クリエイティブ案(画像、動画のラフ案、コピー)を作成する。						
9回目	立案した戦略に基づき、特定のSNSでの広告クリエイティブ案(画像、動画のラフ案、コピー)を作成する。						
10回目	立案した戦略に基づき、特定のSNSでの広告クリエイティブ案(画像、動画のラフ案、コピー)を作成する。						
11回目	立案した戦略に基づき、特定のSNSでの広告クリエイティブ案(画像、動画のラフ案、コピー)を作成する。						
12回目	立案した戦略に基づき、特定のSNSでの広告クリエイティブ案(画像、動画のラフ案、コピー)を作成する。						
13回目	グループごとに企画とクリエイティブを発表。教員および受講生からのフィードバックに基づき改善点を議論する。						
14回目	グループごとに企画とクリエイティブを発表。教員および受講生からのフィードバックに基づき改善点を議論する。						
15回目	全体の復習。AIを活用したプロモーションや最新のSNS機能・トレンドの解説を行う。						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ブライダル総合演習Ⅱ	授業形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。							
【授業の学習内容】							
3年間にわたり習得してきたウェディングプランナーとしての専門的知識・技能(撮影・映像制作・装飾・施工)および企画力・接遇力(プランニング・サービス)を総合的に活用し、制作発表会の企画・運営を通じてその成果を発表することを目的とします。発表会の準備・実施・振り返りを通じて、自己の成長を客観的に捉え、社会人として必要な責任感・協調性・主体性を体得することを目指します。							
【到達目標】							
ウェディングプランナーとして必要とされる専門的知識および技能(撮影・映像制作・装飾・施工等)を総合的に活用し、制作発表会の企画・運営を通じて、3年間の学びの成果を体系的に表現することを目指します。学生は、チームでの協働を通じて役割分担・進行管理・課題解決に主体的に取り組み、責任感および協調性を養います。また、発表会の準備・実施・振り返りを通じて自己の成長を客観的に捉え、社会人として求められるマナーやプレゼンテーション能力を実践的に身につけることを到達目標とします。							

回数	授業計画・内容
1回目	①オリエンテーション ②企画概要を理解できるようになる
2回目	①撮影と映像制作に必要なタスクを組み立てる事ができるようになる ②映像構成を草案できるようになる
3回目	①撮影、映像制作に必要な知識を習得する(外部講師) ②映像構成から必要な撮影カットが考案できるようになる(外部講師)
4回目	撮影現場調査を行う(うつぼ公園)
5回目	撮影に必要な準備物(小物)リストアップ、撮影スケジュールが作成できるようになる
6回目	撮影 (雨天の場合は11/11)
7回目	(撮影予備日) 素材整理と映像構成を確定する事ができる。また、使用音楽を決定する
8回目	確定した映像構成に必要な画像素材選択、また別途差し込み素材集めができるようになる
9回目	①発表会概要を理解する ②当日の進行を理解する。また、必要な役割を考える事ができるようになる
10回目	①役割担当を決定する ②役割ごとのタスクスケジュールを作成できるようになる
11回目	準備①
12回目	準備②
13回目	①全体読み合わせを行う ②リハーサルを行う
14回目	①前日準備 ②最終リハーサル
15回目	発表会
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ブライダルSNSスキルⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
リーガロイヤルホテルブライダル部7年、ザ・リッツ・カールトン大阪3年、合計10年間700組以上の最高級ウェディングを担当。その後、ブライダル専門学校講師として約500名以上の学生を大手ホテルなどのプランナーに育成。2009年、2010年にはマスターオブブライダルコーディネーターファイナリストに選出され、2014年金沢のゲストハウスで総支配人に就任し低迷していた会場をV字回復させる。その後ブライダル専門学校の学科長に就任し、2019年「今さら聞けない社会人としての常識＆マナー」をつた書房より出版。大手書店にて長らく週刊ランキング1位に輝く。2020年ソムリエ免許取得。							
【授業の学習内容】							
ブライダル業界で必要なSNS運用力を学び、情報発信・企画・写真編集などを実践的に習得する授業です。							
【到達目標】							
ブライダルに関する魅力をSNSで効果的に発信できる力を身につけることを目標とします。ターゲット設定、投稿企画、写真・動画制作、分析まで一連の運用スキルを習得し、業界で即戦力として活躍できる能力を養います。							
回数	授業計画・内容						
1回目	インサイト分析を行い改善点を見つける力を養う。						
2回目	コンテンツの差別化とトレンド活用の方法を研究。						
3回目	ブランド企業のSNS成功事例を分析し応用する。						
4回目	挙式・披露宴を題材に投稿企画をグループで制作。						
5回目	ウェディングドレス撮影企画に取り組む。						
6回目	ブライダル小物撮影と見せ方の工夫を行う。						
7回目	会場紹介やロケーション撮影の企画を考える。						
8回目	実在企業を想定したSNS運用企画書を作成する。						
9回目	デザインツールで投稿画像の統一感をつくる。						
10回目	協働投稿やPR視点での企画発信方法を学ぶ。						
11回目	仮想アカウント運営を想定した実践演習①						
12回目	仮想アカウント運営を想定した実践演習②						
13回目	運用結果を振り返りインサイトを分析する。						
14回目	成果発表準備とコンテンツ改善を行う。						
15回目	最終成果発表会を行い評価を受ける。						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダル概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ドレス接客セールススキルⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
フタバウェディング株式会社、TAKAMI株式会社、レック株式会社に勤務してブライダルスタイリスト、和装コーディネーター、ウェディングプランナー、ウェディングフォトを担当しその後デジタルアルバムYs createを起業。							
【授業の学習内容】							
カウンセリングシートを使用し、ロープレを行う。							
【到達目標】							
ドレスショップでの業務の一連の流れや内容を理解し、ヒアリング力・共感力を身につける。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション/ブライダルの流れ/ドレススタイリストとは/ドレスショップの違い/インポートドレスと国内ドレス ドレスの形や生地の種類について						
2回目	ドレスフィッティング演習(ブライダルインナーの種類とつけ方)						
3回目	ドレスフィッティング演習(着装技術)						
4回目	お出迎えからカウンセリング前までの実技						
5回目	カウンセリングとは？説明と実施						
6回目	ランジェリー着付け/ドレス着装＆コーディネート/カーテンOPENまで						
7回目	フィッティングチェック						
8回目	フィッティングチェック						
9回目	ショールームとは？説明と実施						
10回目	カウンセリング～ショールームの流れ						
11回目	ドレスショップでの契約について(専属店・FREE)						
12回目	コーディネートについて/試着時の写真の撮り方を学ぶ						
13回目	試着ドレスの比較が出来るようになる						
14回目	ヒアリングからFTGの通しRP						
15回目	新郎様衣装について学ぶ						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ウェディングアワードⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	90 6	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員・実務者経験】							
フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。							
【授業の学習内容】							
3校合同のウェディングアワードを開催し、これまでの成果を発表する。							
【到達目標】							
ウェディング業界の動向と文化を理解する。 アワード応募に必要な企画・演出・デザインを習得する。 チームでの企画立案・プレゼンテーション能力を身につける。							

回数	授業計画・内容
1回目	サステナブルウェディングの事例を学ぶ
2回目	海外ウェディングの特徴と文化比較を行う
3回目	過去受賞作品の分析と成功要因を探る
4回目	プレゼン資料の構成とデザイン技法習得
5回目	ストーリーテリングで魅せる企画演習を学ぶ
6回目	チームでの企画立案と役割分担を実践
7回目	モックアップ制作とビジュアル表現演習
8回目	コスト管理と予算計画の基礎を学ぶ
9回目	クライアントヒアリングの実践演習
10回目	プレゼンテーションの実践と改善演習
11回目	審査員視点での評価ポイントを理解する
12回目	最終企画案のブラッシュアップを行う
13回目	応募書類の作成と提出準備を進める
14回目	模擬審査会での発表と質疑応答演習
15回目	総復習・まとめ
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ウェディングドレスショーⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	90 6	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
アーティストブランド(化粧品会社)での勤務を経て、その経験や色彩・メイクの知識を生かし講師となる。 JMA日本メイクアップ技術検定協会認定講師、シユウウエムラ認定講師、AFT認定色彩講師、東商1級カラーコーディネーター。							
【授業の学習内容】							
ヘアメイク、色彩、衣装のスタイリング、カラーコーディネートなど、ドレススタイリストやヘアメイクアップアーティストに必要な知識、技術を学習する。 3年間の集大成として2月にビューティショーを開催する。							
【到達目標】							
幅広い現場で活躍できるドレススタイリストやアーティストとして必要な知識と技術の向上を図り、“美”を提供するプロとして必要なマナーや身だしなみ、立ち居振る舞いを身に着ける。様々なシーンやイメージ表現で必要なヘアメイク、カラーコーディネート、スタイリングができるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	(卒業制作)ヘアメイク、スタイリングなどの総合技術ができるようになる テーマ決め、モデル候補選出(コンポジ)、コンセプトシート類配布＆説明、作品内容考案						
2回目	(卒業制作)ヘアメイク、スタイリングなどの総合技術ができるようになる モデルオーディションスケジュール考案、作品内容考案						
3回目	(卒業制作)ヘアメイク、スタイリングなどの総合技術ができるようになる モデルオーディション						
4回目	(卒業制作)ヘアメイク、スタイリングなどの総合技術ができるようになる 作品内容考案						
5回目	(卒業制作)ヘアメイク、スタイリングなどの総合技術ができるようになる 作品内容考案						
6回目	(卒業制作)ヘアメイク、スタイリングなどの総合技術ができるようになる コンセプトやデザインの決定、作品内容考案						
7回目	(卒業制作)ヘアメイク、スタイリングなどの総合技術ができるようになる コラージュ考案、作品内容考案、スタイリング確認						
8回目	(卒業制作)ヘアメイク、スタイリングなどの総合技術ができるようになる 12/6作品撮りスケジュール考案、ヘアメイク練習、スタイリング確認						
9回目	(卒業制作)ヘアメイク、スタイリングなどの総合技術ができるようになる ヘアメイク練習、スタイリング確認						
10回目	(卒業制作)作品撮り ★期日(日程詳細後日)までに作品データ提出 ※終日						
11回目	(ビューティショー準備)今後のスケジュール確認、ビューティショー担当決め、ビューティショー内容考案						
12回目	(ビューティショー準備)ビューティショー内容考案、準備						
13回目	(ビューティショー準備)ビューティショー内容考案、準備						
14回目	(ビューティショー準備)リハーサル準備						
15回目	(ビューティショー)本番						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
シユウウエムラテキスト、メイク道具一式、筆記用具、携帯用の手指消毒スプレー(詰め替え可→要ラベル)、マスク(任意)							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ブライダルフォトⅢ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
関西の数々のホテル、ゲストハウスでブライダルフォトグラファーとしてお客様との打ち合わせや前撮り、挙式当日の撮影に従事。 主な在籍施設はザ・リッツカールトン大阪、北野クラブsola、THE33など。 現在はフリーランスとして、お宮参り、七五三、成人式などのライフイベントの撮影やHP用素材撮影・商品撮影など幅広い撮影を行う。							
【授業の学習内容】							
一眼レフの撮影テクニック習得							
【到達目標】							
一眼レフの撮影技術を向上し、イメージに沿った撮影ができるようになる							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション カメラの使用上の注意を理解し、適正露出で撮影ができるようになる						
2回目	露出について理解し、さまざまなシーンに合わせて適した設定で撮影ができるようになる						
3回目	ブライダルフォトから様々な構図を知り、構図を意識した撮影ができるようになる						
4回目	光の種類や色、光の向きを見極め自然光でイメージに沿った撮影ができるようになる						
5回目	基本的なスタジオライティングを学び、スタジオでの人物撮影ができるようになる						
6回目	レンズの種類や特性を知り、撮影イメージに適したレンズで撮影ができるようになる						
7回目	ブライダルフォトの撮影時にお客様が安心できるようなアテンドやコミュニケーションができるようになる						
8回目	ブライダルフォトグラファーの目線から挙式を分析し、適した露出と構図で撮影ができるようになる。						
9回目	フォーマルフォトについて学び、ポイントを押さえた撮影ができるようになる						
10回目	イメージと光や色調、合わせる素材を結びつけて撮影をコーディネートできるようになる						
11回目	課題1						
12回目	課題2						
13回目	課題3						
14回目	課題4						
15回目	課題5						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
SDカード(16GB以上が望ましい)、USBメモリ(毎回の授業でデータを保存するのに使います) いずれも手持ちのものがあればそれで結構です。ただし空き容量が充分であること。							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	テクニカルビューティーⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
ヘアメイク事務所所属。ブライダル、スチール、動画等 様々な分野で活動中。クリエイティブな発想で創り出す独創的なヘアメイクが得意。							
【授業の学習内容】							
ヘアメイクの幅広い知識・技術を学ぶ。							
【到達目標】							
ヘアアレンジの展開図を想像し組み立てが出来るようになる。お客様の様々なご要望にも対応できる技術力を身につける。							
回数	授業計画・内容						
1回目	花嫁トレンドヘアが出来るようになる① シンプルシニヨン、カチモリ						
2回目	花嫁トレンドヘアが出来るようになる② アレンジ夜会						
3回目	花嫁トレンドヘアが出来るようになる③ ハーフアップ、ハーフツイン、コテ巻きのバリエーション						
4回目	花嫁トレンドヘアが出来るようになる④ ボリュームポニー						
5回目	【ハロウィンメイク】傷メイクが出来るようになる						
6回目	花嫁トレンドヘアができるようになる⑤ 復習 相モデル						
7回目	コピー能力を高める さまざまなヘアスタイルを再現出来るようになる						
8回目	【チェックポイント①】結婚式ヘアメイク 結婚式に参列する友達にヘアメイクしてあげよう(相モデル)						
9回目	【クリエイティブヘア】フラワー						
10回目	【クリスマスメイク】パーティメイクが出来るようになる						
11回目	花嫁カツラ かつら下の仕込みが出来るようになる(相モデルヘアメイク) 綿帽子 角隠し						
12回目	オタ活ヘアメイク(相モデル)						
13回目	理解度チェック直前 後期復習						
14回目	理解度チェック						
15回目	理解度チェック(欠席者)/復習						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	花嫁着付Ⅱ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
フタバウェディング株式会社、TAKAMI株式会社、レック株式会社に勤務してブライダルスタイリスト、和装コーディネーター、ウェディングプランナー、ウェディングフォトを担当しその後デジタルアルバムYs createを起業。							
【授業の学習内容】							
着付技能試験に対応できる技術を身につける 2級技術試験 留袖着付け、二重太鼓をマスターする。							
【到達目標】							
近年ウェディング業界では和装の前撮りをされるお客様が増えており、それにしっかりと対応できる技術と知識を身につける。							
回数	授業計画・内容						
1回目	振袖の補正を学ぶ						
2回目	振袖の補正と長襦袢の着付、伊達締めの使用を学ぶ						
3回目	振袖の補正、長襦袢と振袖の着付 下半身の江戸袂紋様の出し方と適切なまわしの位置を学ぶ						
4回目	振袖の補正、長襦袢と振袖着付け、上半身の絵柄の出し方、袖の合わせ方を学ぶ						
5回目	振袖の補正、長襦袢と振袖着付けまでの練習①						
6回目	振袖の補正、長襦袢と振袖着付けまでの練習②						
7回目	振袖着付け中間チェック						
8回目	振袖の帯結び ふくら雀を学ぶ 手順						
9回目	振袖の帯結び ふくら雀を学ぶ バランスについて						
10回目	振袖帯結び ふくら雀を学ぶ 技能試験要項通りの形について①						
11回目	振袖帯結び ふくら雀を学ぶ 技能試験要項通りの形について②						
12回目	振袖帯結び ふくら雀のチェック						
13回目	振袖帯結び オリジナル帯結びを考案する						
14回目	振袖帯結び オリジナル帯結びを制作						
15回目	振袖帯結び オリジナル帯結び制作						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ブライダルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ブライダル映像制作	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
関西の数々のホテル、ゲストハウスでブライダルフォトグラファーとしてお客様との打ち合わせや前撮り、挙式当日の撮影に従事。 主な在籍施設はザ・リッツカールトン大阪、北野クラブsola、THE33など。 現在はフリーランスとして、お宮参り、七五三、成人式などのライフイベントの撮影やHP用素材撮影・商品撮影など幅広い撮影を行う。							
【授業の学習内容】							
基本的な撮影・編集技術の応用編を学びます。							
【到達目標】							
映像制作するための基本的なカメラワークと、より実践に近い内容で撮影・編集技術を習得します。また、制作した映像の依頼者や見る人の気持ち考えられるような視点を身につけることも目標とします。							
回数	授業計画・内容						
1回目	(PC編集の習得①)映像データを元に編集を進めていく 前期よりもスムーズに編集作業を進めることができるようになる						
2回目	(PC編集の習得②)編集 前期よりもスムーズに早く編集作業を進めることができるようになる						
3回目	(PC編集の習得③)完成映像を確認し書き出しする、前期よりもスムーズに編集作業を進めることができるようになる						
4回目	(PC編集の習得①)映像データを元に編集を進めていく 依頼され受けた映像制作に特化した編集なので依頼者の意図を理解した編集ができるようになる						
5回目	(PC編集の習得②)映像データを元に編集を進めていく 依頼され受けた映像制作に特化した編集なので依頼者の意図を理解した編集ができるようになる						
6回目	(PC編集の習得③)完成映像を確認し書き出しする 依頼され受けた映像制作に特化した編集なので依頼者の意図を理解した編集ができるようになる						
7回目	(PC編集の習得①)映像データを元に編集を進めていく 動きのある映像制作に特化した編集なのでリズム感のある編集ができるようになる						
8回目	(PC編集の習得②)完成映像を確認し書き出しする 動きのある映像制作に特化した編集なのでリズム感のある編集ができるようになる						
9回目	(テスト演習) 課外授業で撮影する 自分で撮影する技術・知識が向上するようになる 4コマ使用 ⇒場所など詳細は後日お知らせします						
10回目	(テスト演習) 課外授業で撮影する 自分で撮影する技術・知識が向上するようになる 4コマ使用 ⇒場所など詳細は後日お知らせします						
11回目	(PC編集の習得①)映像データを元に編集を進めき完成映像を確認し書き出しする CM映像制作に特化した編集なので特殊効果をつける編集ができるようになる						
12回目	(テスト演習)撮影したものを編集する 自分で撮影したものをどうみせるか考えるのでより第三者の目線になった編集作業ができるようになる						
13回目	(テスト演習)撮影したものを編集する 自分で撮影したものをどうみせるか考えるのでより第三者の目線になった編集作業ができるようになる						
14回目	(テスト演習)撮影したものを編集する 自分で撮影したものをどうみせるか考えるのでより第三者の目線になった編集作業ができるようになる						
15回目	(テスト演習)完成 自分で撮影したものをどうみせるか考えるのでより第三者の目線になった編集作業ができるようになる						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
SDカード(16GB以上が望ましい)、USBメモリ(毎回の授業でデータを保存するのに使います) いずれも手持ちのものがあればそれで結構です。ただし空き容量が充分であること。							

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ホテルマネジメントⅡ	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
複数の外資系、日系ホテル開業に携わり、ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントレセプションMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。現在はホテル・レストラン運営コンサルタントとして活動。スモールラグジュアリーホテル副総支配人。1996年第1回日本メートルドテルコンクール)第5位。全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュパティスト協会)主催レストランサーヴィスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サーヴィスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員。							
【授業の学習内容】							
ホテル全体のマネジメント、部門別（オペレーション部門、サポート部門）のマネジメントの方法論、ホテルビジネストレンドをホテル現場での具体的な事例を挙げて解説する。							
【到達目標】							
ロジックを持った実際のホテルマネジメントを学ぶことにより、ホテルビジネスの様々な方法論、マーケティング論と現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して、現場での一つ一つの作業、サーヴィス、オペレーションの意味を理解する事ができるようになる。							
回数							
1回目	部門別マネジメント(Food & Beverage.1): 1. 料飲部門の収益構造と特徴 2. レストランにおけるKPI 3. Revenue Managementを理解できるようになる。						
2回目	部門別マネジメント(Food & Beverage.2): 1. 料飲部門の収益構造と特徴 2. レストランにおけるKPI 3. Revenue Managementを理解できるようになる。						
3回目	部門別マネジメント (Banquet Service): 1. 一般宴会部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 2. ウェディング部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 3. ホテルのブライダル戦略を理解できるようになる。						
4回目	ホテルインスペクション						
5回目	部門別マネジメント (Sales & Marketing): 1. マーケティング 2. セールス 3. 営業推進部門を理解できるようになる。						
6回目	部門別マネジメント (Humen Resouces): 1. 人材マネジメント（外資系ホテルと日系ホテルとの違い） 2. トレーニングシステムが理解できるようになる。						
7回目	ホテルの情報システム 1. 宿泊部門の情報システム 2. 料飲部門の情報システム 3. 管理部門の情報システムを理解できるようになる。						
8回目	ホテルの会計基準 1.ホテルの会計基準の特徴 2.ホテル業の収益会計と費用会計を理解できるようになる。3. ユニフォーム・システムを理解できるようになる。						
9回目	リスクマネジメント(危機管理)① 1. 防火管理を理解できるようになる。						
10回目	リスクマネジメント(危機管理)② 2. 事故管理 3.防犯管理(盗難犯罪の防止) 4. UG。暴力団への対応 5. 遺失物管理 を理解できるようになる。						
11回目	ホテル総支配人の役割 1. ホテル部門の配置 2. 総支配人の仕事 3.外資系・日系ホテル組織の相違点 4. 小規模ホテルと旅館を理解できるようになる。						
12回目	ホテル・マネジメントⅠ・Ⅱレビュー: ホテル・マネジメントを総括し全体像を理解できるようになる。						
13回目	ホテル・マネジメントⅠ・Ⅱレビュー: ホテル・マネジメントを総括し全体像を理解できるようになる。						
14回目	後期試験: 用語定義・概念解説・記述式						
15回目	振り返り: 1. 後期試験解説 2. その他質疑応答						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
講師が用意したレジュメを使用します							

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	テーブルサービス	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2006年～名古屋リョウト入社 メンター インク 勤務。2011年～地産フレンチ「豊田L'eclat de rire」をサービス支配人として立ち上げ、2014年よりホテル ラ・スイート神戸ハーバーランド 入社。レストランMGR、料飲統括マネージャーを経て、2022年より料飲部支配人として勤務中。2019年第18回メーランド・セレクト杯にて優勝、観光庁長官賞受賞。2021年CGB世界大会日本代表。2021年より国内大会運営及び審査員に参加。MS(メーランド・セレクト)の会育成分科会員。 所有資格 JSA認定調理師、CPA認定チーフシェフ、シェフ、メーランド・セレクト杯、HRS2級							
【授業の学習内容】							
フレンチをベースとしたレストランサービスにおける基礎知識を学び、実際の現場を想定した実習を理論と共に実践する。 実際のコンクール視点からのプロとしての立居振舞、必要とされる知識を身に付ける。 基本的には1週の内、1限を座学及び講習とし、1限を実習とする。 各授業ではバッシング及び洗浄・拭き上げ、ダイニングの現状維持も授業内容の一環とする。							
【到達目標】							
コンクール課題を通し、現場のレストランで対応できるワゴンサービスの基本と、レストランサービスの基礎知識を習得する。 実際のコンクールに触れることにより、配属後のキャリアアップに役立つ技術を理解できるようになる。							

回数	
1回目	・コンクールの重要性とその価値、実際の現場での汎用性を理解できるようになる。 ・この授業での半年間のゴールを明確に把握できるようになる。 ・実習：オレンジのカットングを習得する。
2回目	・メニュー作成：メニューの構成と表現の基礎を習得する。 ・ゲストに対する魅力あるプレゼンテーションができるようになる。 ・実習：グレープフルーツのカットングを習得する
3回目	・デザートレシピ作成：レシピ作成の基本と構成を理解できるようになる。 ・アントルメの基礎知識を理解できるようになる。 ・実習：アイスクリームのクネルをできるようになる。
4回目	・レストランに於けるワインテイスティングとその表現を英語で理解できるようになる。 ・ワインペアリングの基礎とプレゼンテーションを理解できるようになる。 ・実習：ワインテイスティングと表現の実践し、自身のスキルとして習得する。
5回目	・コンクールに求められる知識と、一般的なフランス語を教養として理解できるようになる。 ・実習：キウイフルーツのピリングとサービスを習得する。
6回目	・オリジナルデザートのレシピ作成を出来るようになる。 ・ワインの抜栓とサービスを復習することによってスムーズに行えるようになる。
7回目	・CUOイベント対策 実際にCUOイベントの料理・ワインを対象にテーブルサービスとワインサービスを出来るようにする。
8回目	・レポート作成：実際のコンクールに提出するデザートをレシピとして作成できるようになる。 ・コンクールに向けたメニュー作成：実際のコンクールで使用するメニューを生徒自身で造り上げ、メニューに対する造詣を深められるようになる。
9回目	・CUOイベント対策 CUOイベントの料理・ワインのサービスを復習し、イベント内のオレンジのデザートの練習と共にクオリティを上げられるようになる。
10回目	・ワゴンサービスの実演：オリジナルデザートを実際にワゴンサービスでできるようになる。
11回目	・テイスティングコメントを日本語・英語で両方で考えることによって、 ワインに対する本質を理解できるようになる。 ・実技試験に向けたワインテイスティングコメントの作成とサービスが出来るようになる。
12回目	実技試験：英語でのワインテイスティングとコメント発表 ・メニュー説明の反復練習とオリジナリティのある文言を作成できるようになる。
13回目	オリジナルデザートの試験前復習： ・反復練習する事によって実技試験をスムーズに行う事ができるようになる。
14回目	実技本試験：オリジナルデザートのワゴンサービス (制作展示での代表メンバーの選考を兼ねる) ・試験結果の発表と講評
15回目	事前演習：実際のコンクールリハーサルを行うことで本番の緊張感を体感し、より高いパフォーマンスをできるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験： 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	

講師が用意したレジュメを使用します

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	エアライン実務Ⅱ	授業形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
2009年JALグループに新卒入社。先任客室乗務員としてVIPを含め旅客対応を担う。							
【授業の学習内容】							
これまでに学んだ接客・サービススキルを土台に、フライトを円滑に進行させるチームマネジメント能力、上級サービススキル、およびホスピタリティの本質を追求し、サービスにおけるプロフェッショナルを養成する。							
【到達目標】							
・リードCA(チーフパーサー)の役割を理解し、ブリーフィングからデブリーフィングまでの一連のチーム運営を主導できる。 ・上級クラス(ファースト/ビジネス)におけるパーソナライズされたサービスを提供できる。 ・クレーム対応において、顧客満足度を回復させるための高度な問題解決スキルを発揮できる。							

回数	
1回目	リードCA(チーフパーサー)の役割と責任。乗務員間の連携とチームビルディングを学ぶ
2回目	ブリーフィングで伝達すべき情報(フライト情報、乗客情報、安全情報)の構成と伝え方を学ぶ
3回目	プロフェッショナルなアナウンスの練習。緊急時と通常時のトーンの使い分け。多言語アナウンスの基礎を学ぶ
4回目	上級クラスの特徴的なサービス(アメニティ、ミールサービス)。パーソナライズされた接客の追求を学ぶ
5回目	機内食の準備と提供手順。ワイン、カクテル、特別食に関する知識とペアリングの提案を行う
6回目	VIP(重要顧客)への特別な対応手順。機内でのプライバシー保護と情報漏洩対策を学ぶ
7回目	重大なクレーム(欠航、遅延、サービス欠陥)に対する対応フローを学ぶ
8回目	各国、地域の文化背景(宗教、食事、習慣)がサービスに与える影響。文化的相違への柔軟な対応ができるようになる
9回目	ホスピタリティとサービスの違い。顧客の期待を超えるための観察力と共感力を養う
10回目	顧客ロイヤルティ(常連客)の維持。マイルプログラムの仕組みとセールス。CAが担うブランドアンバサダーとしての役割を学ぶ
11回目	デブリーフィング(業務終了後の報告会)の構成。サービスの改善点、安全上の問題、インシデントの正確な報告ができるようになる
12回目	上級クラスサービスのロールプレイング。細部までパーソナライズされた接客スキルの評価を行う
13回目	難しいクレーム事例に基づき、満足度回復までのプロセスを実践。チームでの問題解決能力を評価する
14回目	4年間の実務訓練の成果をまとめたポートフォリオをレビュー。模擬採用面接を通じて就職活動に直結させる
15回目	ブリーフィングからデブリーフィングまでの一連の流れを、安全・保安・サービスを含む総合フライトとして実践する
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	グローバルサービス	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
JALグループで2004～2018年まで先任客室乗務員として乗務する。安全で快適な空の旅を提供するとともに、安全担当として後輩育成にも注力してきた。							
【授業の学習内容】							
多様な国籍・文化を持つ乗客、特に海外VIPに対する最高水準のホスピタリティを英語で提供できる能力を養成します。国際的な環境下で発生する複雑な状況に対し、文化的な背景を理解した上で適切に対応できるプロフェッショナルを目指します。							
【到達目標】							
機内・空港での頻出する接客英語表現を習得し、流暢にコミュニケーションが取れる。 上級クラス(ファースト・ビジネス)のサービスを英語で提供し、VIPのニーズに合わせたパーソナルな対応ができる。 主要な異文化圏(欧米、アジア、中東など)のプロトコールやタブーを理解し、接客に反映できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション サービスとホスピタリティの国際的定義。異文化適応のプロセスと、CA/GSに求められる柔軟性を養う
2回目	国際儀礼(プロトコール)の重要性。要人、公人、著名人といった海外VIPへの特別な配慮と手順を確認する
3回目	グランドスタッフに必須のチェックイン、手荷物、乗り継ぎに関する複雑な状況への英語対応のトレーニング
4回目	安全アナウンス、サービスアナウンスのプロフェッショナルな英語表現のトレーニング
5回目	ファースト・ビジネス乗客へのウェルカムアプローチ。手荷物収納、シート操作説明の丁寧な英語表現を学ぶ
6回目	機内食のメニュー説明、ワイン・飲料のペアリングの提案を流暢な英語で行うトレーニング
7回目	機内販売における商品説明、免税品に関する質問への対応。支払いトラブルへの英語での対処法を学ぶ
8回目	欧米諸国の乗客が重視するパーソナルスペース、チップ、コミュニケーションスタイルを理解する
9回目	アジア(儒教圏)や中東(イスラーム圏)の食事、宗教、タブーに関する知識と、接客での配慮を学ぶ
10回目	遅延や欠航といったネガティブな情報を伝える際の誠実な英語表現と、代替案の提案を行う
11回目	英語での苦情(クレーム)に対する初期対応(傾聴、共感、謝罪)の表現。感情的な顧客への対処法を学ぶ
12回目	苦情の原因究明と解決策の提示。サービス・リカバリーを目的とした英語での行動と表現を学ぶ
13回目	実技試験:英語で、海外VIPが乗客という想定での総合ロールプレイング(搭乗から降機まで)を行う
14回目	実技試験のフィードバックに基づき、個人の英語表現や接客スキルの弱点を集中的に克服する
15回目	授業全体のまとめと、国際的な舞台でのCA/GSとしてのキャリア展望とプロ意識の再確認
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師のレジュメを使用する	

授業シラバス

科目名	外国語	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	Global CommunicationⅥ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
金欄短期大学英文科卒業。実用英語技能検定1級取得。英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U4.1 生活の中でのサポートチームについて話す
2回目	U4.2 再帰代名詞を使って、何かを決定するために必要な評価について話す
3回目	U4.3 有利な点／不利な点などの観点からジョブシェアリングについて話す
4回目	U4.4 記事のサマリーを書く
5回目	U4.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「資金調達のためのイベントを計画する」 ・学期末プレゼンと連動する内容
6回目	U5.1 仮定法の表現を使って、新しい技術が人に与える影響について話す
7回目	U5.2 未来のコミュニケーションについてディスカッションをする
8回目	U5.3 ビデオゲームについてディスカッションをする 確かなもの・不確かなものについて話す
9回目	U5.4 オンライン記事に対するコメントを、例を交えて書く
10回目	U5.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「コミュニティ改善計画」 ・学期末プレゼンと連動する内容
11回目	U6.1 時制を用いた表現を使って、予期せぬ名声について話す
12回目	U6.2 間接話法を使って、予期できない状況について話す
13回目	U6.3 予期せぬ状況の中での会話を練習する
14回目	U6.4 面白いストーリーを書く
15回目	学期末プレゼン
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%／実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	
Evolve	

授業シラバス

科目名	外国語	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	英文法&英会話Ⅵ	授業形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U4.1 仕事上の関係に関する表現を学ぶ [so..that][such..that][even][only]を用いた表現を学ぶ
2回目	U4.2 アイディアの評価に関連する表現を学ぶ 再帰代名詞[self][selves]、[other][another]を用いた代名詞について学ぶ
3回目	U4.3 子音-母音のリンキング(発音)について学ぶ、2語(フレーズ)でのストレス(発音)について学ぶ 有利な点、不利な点について話す
4回目	U4.4 チームワークについての記事を読む サマリーの書き方を学ぶ
5回目	U4.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U5.1 感情のコントロールに関する表現を学ぶ 仮定法を用いた表現を学ぶ
7回目	U5.2 やりたい事、気が進まない事に関する表現を学ぶ 「if」以外の仮定法の表現を学ぶ
8回目	U5.3 /I/,/e/,/æ/の発音について学ぶ、文中でのストレス(発音)を学ぶ 確かなもの、不確かなものを述べる際の表現を学ぶ
9回目	U5.4 翻訳アプリに関する記事を読む 自分の意見をサポートする例を述べる表現を学ぶ
10回目	U5.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U6.1 名声に関する表現を学ぶ 過去形・過去進行形・過去完了形・過去完了進行形を用いた表現を学ぶ
12回目	U6.2 「主張する」などの伝達動詞の表現を学ぶ [can]などの助動詞を用いた間接話法を学ぶ
13回目	U6.3 複合動詞の発音について学ぶ、母音の長短(発音)について学ぶ 憶測を立てる、また他人の憶測に反応する際の表現を学ぶ
14回目	U6.4 恥ずかしい失敗についての投稿を読む 長文や短文を用いた面白いストーリーの書き方を学ぶ
15回目	U6.5 Unitの復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
Evolve	

授業シラバス

科目名	エクステンションゼミ	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	Wメジャートラベル基礎	授業形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
College of Southern Nevada観光学部卒業後、アメリカ・日本の旅行会社で勤務。							
【授業の学習内容】							
観光産業の全体像と旅行業の基本構造、旅行商品の種類と特性を理解する。							
【到達目標】							
旅行業法の概要と消費者に提供すべき安全管理・危機管理の基礎知識を説明できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション 観光の概念と歴史的変遷を理解できる
2回目	観光産業の構成要素と広がり（宿泊、交通、飲食、MICEなど）を学ぶ
3回目	日本の旅行業の役割と歴史、旅行会社の分類と機能を学ぶ
4回目	旅行業法の目的と概要、登録制度について基礎的な事項を理解できる
5回目	旅行会社の組織と業務、カウンタースタッフの役割をロールプレイを通じて学ぶ
6回目	募集型企画旅行の仕組みと特徴を理解できる
7回目	受注型企画旅行と手配旅行の仕組みと特徴を理解できる
8回目	約款の基礎知識と重要性（募集型企画旅行約款）を理解できる
9回目	旅行商品の構成要素と価格設定の基礎を理解できる
10回目	運輸機関の基礎知識（航空、鉄道、バス、船舶）を学び、観光業との関係を論じることができる
11回目	宿泊施設の基礎知識（ホテル、旅館、その他）を学ぶ
12回目	安全管理の重要性：旅行会社の責務と取り組みを理解できる
13回目	危機管理の基礎：自然災害・事故・感染症への対応を学び、理解できる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック（欠席者）／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	エクステンションゼミ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	Wメジャーバリスタ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
株式会社桜珈琲に入社。バリスタ、サービス業務に携わる。店長を3年間務め、店舗管理、新入社員研修、ドリンクメニュー開発、バリスタコンテスト出場選手のサポートにも携わる。学生時代・桜珈琲所属時共に、日本スペシャルティコーヒー協会主催JBC・JLACに出場。2019UCCコーヒーマスターズ近畿地区エスプレッソ部門1位。現在、元井珈琲マウンテンにて販売、ハンドドリップ業務を行う。SCAJコーヒーマイスター							
【授業の学習内容】							
バリスタという職業を知り、それぞれの分野において、コーヒーについて学んだことを一つの武器として活かせるよう、必要な基礎知識・技術の習得を目指す。							
【到達目標】							
知識・技術… コーヒーについての基礎知識を習得する。美味しいエスプレッソとカプチーノ、さらには基本のラテアートをマスターする。キャリア教育… それぞれの分野だけにとどまらず幅広く多くのことを学ぶことで、よりオリジナリティある人材を目指す。							

回数	授業計画・内容	
1回目	バリスタの仕事とは・エスプレッソとは・マシンの使用方法 バリスタの仕事について理解する・エスプレッソを体感する・ラテとカプチーノの違いを知る	
2回目	マシンの使用方法 基本動作を学び抽出を体験する	
3回目	エスプレッソについて、スチーミングについて エスプレッソの良いものと良くないものを知る・スチーミングを学び水ミルクで練習・マシン、グラインダーの片付け方を学ぶ	
4回目	スチーミングについて、マシンの片付け方 水ミルクで練習・スチームミルク練習マシン、グラインダーの片付け方を学ぶ	
5回目	ミルクの注ぎについてエッチングの技法 ○と♡の描き方を学び、1人で作成するエッチング方法を学び、描いてみる	
6回目	復習・ミルクの注ぎについてエッチングの技法 ○と♡の描き方を学び、1人で作成するエッチング方法を、描いてみる	
7回目	カプチーノ(ラテアート)について きれいな○と♡を描けるようになるよう反復練習	
8回目	カプチーノ(ラテアート)について きれいな○と♡を描けるようになるよう反復練習	
9回目	カプチーノ(ラテアート)について きれいな○と♡を描けるようになるよう反復練習	
10回目	カプチーノ(ラテアート)について きれいな○と♡を描けるようになるよう反復練習	
11回目	カプチーノ(ラテアート)について クマ、ウイング、チューリップを学び、描けるよう反復練習	
12回目	カプチーノ(ラテアート)について クマ、ウイング、チューリップを学び、描けるよう反復練習	
13回目	カプチーノ(ラテアート)について クマ、ウイング、チューリップを学び、描けるよう反復練習	
14回目	カプチーノ(ラテアート)について クマ、ウイング、チューリップを学び、描けるよう反復練習	
15回目	課題レポート作成	
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される	
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：課題提出	
【使用教科書・教材・参考書】		
講師配布のレジюме		

授業シラバス

科目名	エクステンションゼミ	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	Wメジャーメニュープランニング	授業形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員 実務者経験】							
ハイアットリージェンシーオーサカに10年勤務。その後、飲食店を開業。 これまでに20か国以上のシェフや友人から料理や文化の情報交換をし、業務に携わる。 現在は株式会社ジスタスの代表取締役。 飲食事業のコンサルティング、農作物販売、人材教育、心理カウンセラーとしても活動している。							
【授業の学習内容】							
様々な顧客を想定し、立地、コンセプト、時間帯等に合わせたメニュープランニングを学ぶ。							
【到達目標】							
技術... テーマに沿ったメニューを開発できる。。							
キャリア教育... メニュー作りを通して、学生それぞれのオリジナリティーを確立する。							

回数	授業計画・内容
1回目	シラバス配布・授業内容の説明 メニュープランニングの概要が理解できる。
2回目	メニュー開発の注意点 原価・売価・原価率について学ぶ。
3回目	パスタ・ピザメニューのプランニング 架空の店舗を設定し、テーマに基づいたメニュープランニングができる。
4回目	
5回目	ライス・パンメニューのプランニング 架空の店舗を設定し、テーマに基づいたメニュープランニングができる。
6回目	
7回目	ワンプレートのプランニング 架空の店舗を設定し、テーマに基づいたメニュープランニングができる。
8回目	
9回目	スイーツメニューのプランニング 架空の店舗を設定し、テーマに基づいたメニュープランニングができる。
10回目	
11回目	ドリンクメニューのプランニング 架空の店舗を設定し、テーマに基づいたメニュープランニングができる。
12回目	
13回目	ランチボックスのプランニング 架空の店舗を設定し、テーマに基づいたメニュープランニングができる。
14回目	
15回目	これまでの振り返り まとめ授業をプランニングから調理工程までが 組み立てられる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験:課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	
講師からのレジュメ配布	

授業シラバス

科目名	スキルアップゼミ	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	
	シュシュウェディングⅣ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティ科 昼間Ⅰ部・Ⅱ部						
【担当教員・実務者経験】							
フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。様々な企業のブライダル事業部開設、レストランウェディング創設等、企業トレーナーも務める。現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャーを担う。フローリスト、MC、ウェディング・イベントプロデューサーとしていづれも20年以上の経歴を持ち過去2000件以上の婚礼に携わる。							
【授業の学習内容】							
一般のお客様を対象に、本物の結婚式をプロデュースする。							
【到達目標】							
ブライダルフェアの企画から取り組みの周知、集客、プランニング、施工までの一連の流れを実際にプロデュースをして学ぶ。							

回数	授業計画・内容
1回目	グループごとに準備・結婚式施行
2回目	グループごとに準備・結婚式施行
3回目	グループごとに準備・結婚式施行
4回目	グループごとに準備・結婚式施行
5回目	グループごとに準備・結婚式施行
6回目	グループごとに準備・結婚式施行
7回目	グループごとに準備・結婚式施行
8回目	グループごとに準備・結婚式施行
9回目	グループごとに準備・結婚式施行
10回目	グループごとに準備・結婚式施行
11回目	グループごとに準備・結婚式施行
12回目	グループごとに準備・結婚式施行
13回目	グループごとに準備・結婚式施行
14回目	グループごとに準備・結婚式施行
15回目	グループごとに準備・結婚式施行
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	